

VMware Fusion の使用

VMware Fusion 8.0

VMware Fusion Pro 8.0

このドキュメントは新しいエディションに置き換わるまで、
ここで書いてある各製品と後続のすべてのバージョンをサポートします。このドキュメントの最新版をチェックするには、<http://www.vmware.com/jp/support/pubs> を参照してください。

JA-001869-00

vmware®

最新の技術ドキュメントは VMware の Web サイト (<http://www.vmware.com/jp/support/>) にあります
VMware の Web サイトでは最新の製品アップデートも提供されています。

このドキュメントに関するご意見およびご感想がある場合は、docfeedback@vmware.com までお送りください。

Copyright © 2015 VMware, Inc. 無断転載を禁ず。著作権および商標情報。

VMware, Inc.
3401 Hillview Ave.
Palo Alto, CA 94304
www.vmware.com

ヴァイムウェア株式会社
105-0013 東京都港区浜松町 1-30-5
浜松町スクエア 13F
www.vmware.com/jp

目次

VMware Fusion の使用	5
1 Fusion スタートガイド	7
VMware Fusion について	7
Fusion のシステム要件	8
Fusion のインストール	8
Fusion の起動	8
使い方のビデオ	9
Fusion のオンライン リソースの利用	9
2 Fusion の概要	11
仮想マシンと Fusion の機能	11
Fusion インターフェイスを使用した移動および操作	15
3 Fusion の構成	25
Fusion 環境設定の変更	25
Fusion のディスプレイのカスタマイズ	31
Mac の Dock への Windows または Linux アプリケーションの格納	32
Mac へのログイン時に開くように仮想マシン アプリケーションを設定	32
仮想マシン パッケージの内容	32
仮想マシン パッケージの使用	33
4 仮想マシンの作成	35
仮想マシンを作成	35
リモート サーバへの仮想マシンのアップロード	46
VMware vCloud Air への仮想マシンのアップロード	47
リモート サーバからの仮想マシンのダウンロード	47
既存の物理 PC から仮想マシンへの移行	48
Windows 仮想マシンのインポート	52
VMware Tools のインストールと使用	55
Fusion Pro を使用した仮想マシンのクローン作成	59
5 仮想マシンの使用	63
Fusion Pro および仮想マシンの実行	63
ユニティ モード表示中に Windows または Linux アプリケーションを開く	70
アプリケーション メニューから Windows または Linux のアプリケーションを開く	71
Mac とのファイルの移動と共有	71
Mac と Windows 仮想マシン間でのアプリケーションの共有	73
Mac の Dock への Windows または Linux アプリケーションの格納	74
パワーオンされている仮想マシン間の切り替え	75
仮想マシンでの Mac 入力デバイスの使用	75

仮想マシン上でのキーボードとマウスの入力の有効化 76

6 Windows と Mac 間のファイルの共有 77

共有フォルダをサポートするゲスト OS 77

ミラー フォルダをサポートするゲスト OS 78

仮想マシン用の共有フォルダまたはミラー フォルダの有効化 78

ミラー フォルダの追加または削除 79

共有フォルダの追加 79

共有フォルダの削除 79

7 仮想マシンの保護 81

スナップショット 81

AutoProtect 83

Windows 仮想マシンへの McAfee AntiVirus Plus のインストール 84

外部メディアへの仮想マシンのコピー 85

Mac 上の Fusion での Time Machine の使用 85

8 仮想マシンの設定 87

Fusion の全般的なシステム設定 87

Fusion の起動時に仮想マシンが起動するように設定 88

仮想プロセッサとメモリの設定 88

デフォルト アプリケーションの有効化 91

キーボードおよびマウス プロファイルの設定 92

リモート仮想マシンでの CD/DVD ドライブの有効化 92

リモート仮想マシンでのフロッピー ドライブの有効化 93

サーバまたはリモート仮想マシンの状態の表示 93

3D グラフィックスの高速化の有効化 93

Retina ディスプレイ サポートの有効化 94

仮想マシンのホットキーの有効化 94

ディスクリート グラフィックスの管理の設定 95

仮想マシンのデフォルト プリンタの設定 95

デバイスの追加 96

起動デバイスの選択 116

仮想マシンの暗号化と制限 117

仮想マシンの互換性 120

仮想マシンのゲストの隔離オプションの構成 122

詳細設定の管理 122

9 Fusion のアップグレード 127

自動アップデートを使用した Fusion のアップグレード 127

ダウンロードからの Fusion のアップグレード 128

評価期間終了後の Fusion 完全ライセンス版へのアップグレード 128

VMware Tools のアップグレード 129

Fusion のアンインストール 129

仮想マシンのプロセスの強制終了 130

インデックス 131

VMware Fusion の使用

『VMware Fusion』では、VMware Fusion[®] を使用して仮想マシンを作成、使用、および管理する方法を説明します。また、Fusion をインストール、設定、アップグレード、およびアンインストールする方法についても説明します。

対象となる読者

この情報は Fusion をインストール、アップグレードまたは使用するユーザーを対象としています。

Fusion スタートガイド

Fusion を使用して、Intel ベースの Mac でパーソナル コンピュータ (PC) アプリケーションとデバイスを実行できます。

Mac ユーザ向けに開発された Fusion により、仮想マシンのセキュリティ、柔軟性、移植性を活用し、Windows などの x86 オペレーティングシステムを Mac OS X と同時に実行できます。

この章では次のトピックについて説明します。

- [VMware Fusion について \(P. 7\)](#)
- [Fusion のシステム要件 \(P. 8\)](#)
- [Fusion のインストール \(P. 8\)](#)
- [Fusion の起動 \(P. 8\)](#)
- [使い方のビデオ \(P. 9\)](#)
- [Fusion のオンライン リソースの利用 \(P. 9\)](#)

VMware Fusion について

Fusion の機能とそのしくみについて簡単に説明します。

Fusion の機能

Fusion を使用すると、Intel ベースの Mac で Windows アプリケーションと PC 専用デバイスを実行できます。Mac アプリケーションに加えて、複数のオペレーティングシステムとアプリケーションを同時に実行できます。オペレーティングシステムとアプリケーションは、セキュリティ保護された仮想マシンに隔離されます。

Fusion のしくみ

Fusion は物理ハードウェア リソースを仮想マシンのリソースにマップするため、各仮想マシンが独自のプロセッサ、メモリ、ディスク、I/O デバイスなどを持ちます。各仮想マシンは、Mac で 1 つのファイル パッケージとして表されますが、標準 x86 コンピュータとまったく同じです。

Fusion をインストールし、仮想マシンを作成したら、物理 PC の場合とまったく同じように、仮想マシンに完全な未修正のオペレーティングシステムと関連アプリケーション ソフトウェアをインストールして実行できます。使用可能なオペレーティングシステムには、Windows、Linux、および Mac OS X が含まれます。Fusion では、追加の費用、物理的なセットアップ、および保守なしで、2 台目の PC を利用できます。

Fusion を実行するコンピュータのオペレーティングシステムをホストと呼びます。Fusion でサポートされるホストは、Mac OS X と Mac OS X Server のみです。Fusion 内で実行する仮想化オペレーティングシステムをゲストと呼びます。

Fusion のシステム要件

Fusion をインストールして使用するための次の最小システム要件を備えているか確認してください。

- 64 ビット Intel プロセッサを搭載した Mac。Core 2 Duo、Xeon、i3、i5、i7 またはそれ以降のプロセッサと互換性があること。
- ホスト OS の場合は、Mac OS X 10.9.0 以降。Mac OS X 10.10 以降を推奨。
- 仮想マシン用のオペレーティング システム インストール メディア（ディスクまたはディスク イメージ）。Windows OS は、個別に Microsoft またはその他の小売業者から入手できます。

重要 Fusion では、Fusion で作成された仮想マシン上にインストール用のオペレーティング システムは提供されません。オペレーティング システムのインストール メディアを入手する必要があります。

- 4GB のメモリ、8GB 推奨。
- Fusion 用のディスク空き容量は 750 MB、仮想マシンのディスク空き容量は 1 台につき 5 GB 以上。

注意 Mac OS X を実行するために十分なメモリが必要です。また、各ゲスト OS および Mac と仮想マシン上のアプリケーションのためのメモリも必要です。

Fusion のインストール

Fusion は、他の Mac OS X アプリケーションと同じ方法でインストールします。

Fusion のインストールによって、既存の仮想マシンが変更されることはありません。

開始する前に

- Mac の管理者パスワードがあることを確認してください。
- Mac に Fusion インストーラ ファイルをダウンロードします。Fusion のインストーラは、当社 Web サイトから取得できます。
- 適切なライセンス キーがあることを確認してください。たとえば、VMware Fusion Pro を使用している場合、Fusion Pro の機能をアクティブ化するには Fusion Pro のライセンス キーを入力する必要があります。

Fusion Pro for Horizon FLEX をインストールする方法については、『VMware Horizon FLEX ユーザー ガイド』を参照してください。

手順

- 1 Fusion .dmg ファイルをダブルクリックして開きます。
ディスク イメージの内容は Fusion Finder ウィンドウに表示されます。
- 2 Finder ウィンドウで、[VMware Fusion] アイコンを [アプリケーション] フォルダにドラッグします。
- 3 メッセージが表示されたら、管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
Fusion は Mac の **アプリケーション** フォルダにあります。

Fusion の起動

Fusion の使用を開始します。

開始する前に

Mac の管理者パスワードがあることを確認してください。

手順

- 1 アプリケーション フォルダの [[VMware Fusion]] をダブルクリックします。
[仮想マシンのライブラリ] ウィンドウが表示されます。このウィンドウから、仮想マシンの操作を開始できます。
- 2 (オプション) Fusion を Dock に保存するには、アイコンを右クリックし、[オプション]-[Dock に追加] を選択します。

使い方のビデオ

Fusion の使用法に関するオンライン ビデオをご覧ください。

Fusion を初めて使用する場合、ビデオをご覧ください Fusion の機能を理解してください。

手順

- Fusion で [ヘルプ] - [ビデオ チュートリアル] をクリックして、Fusion の使い始める上で役立つ広範なトピックにアクセスしてください。
- <http://www.vmwarefusionlearningcenter.com> の VMware Fusion ラーニング センターからこれらのビデオを入手することもできます。

次に進む前に

VMware Fusion 製品サポートの Web ページで、Windows の起動問題、データ共有、仮想ディスクでの作業、および他の多くのトピックなど、Mac 上で Windows および Linux を実行するためのサポートおよびトラブルシューティング情報を検索できます。<http://www.vmwarefusionlearningcenter.com> の VMware Fusion 製品サポート センターをご覧ください。

Fusion のオンライン リソースの利用

製品ニュース、FAQ、その他のリソース、およびオンライン コミュニティについては、VMware Fusion のホーム ページおよびサポート ページを参照してください。

利用可能な VMware サポート製品、製品の登録、または技術サポート要求の作成については、<http://www.vmware.com/go/fusionsupport> の VMware サポート ポータルを参照してください。

自己解決用に提供される以下の情報源から、Fusion の使用方法についての情報を入手することもできます。

- VMware Fusion ラーニング センターには、ビデオ チュートリアル、FAQ、コミュニティ フォーラムなど、Fusion を使用開始および運用する上で役立つ資料があります。
- VMware サポート ポータルのマイペースで進められるビデオ チュートリアルと FAQ の回答 (<http://www.vmware.com/go/fusionsupport>)。チュートリアルの一覧を見るには [詳細ヘルプ] タブを使用します。
- VMware Fusion Community に参加することをお勧めします (<http://www.vmware.com/go/fusionforums>)。(英語のみ)。VMware Fusion Community は、Fusion を最大限に活用できるように、Fusion ユーザーが情報交換したり、質問したり、お互いにコメントしたりできる場所です。
- VMware ナレッジベースでは、ほとんどの VMware 製品のトラブルシューティング情報、エラー メッセージの解決方法、ベスト プラクティス情報を提供しています。Fusion で発生する特定の問題に関する情報については、<http://kb.vmware.com> で、製品リストから [VMware Fusion] を選択し、キーワードで問題を検索してください。
- Fusion に関するよくある質問への回答については、<http://www.vmware.com/products/fusion/faqs.html> を参照してください。

Fusion の概要

Fusion は仮想化を利用して、Mac で PC アプリケーションおよびデバイスを実行するための強力なツールを提供します。この章では次のトピックについて説明します。

- [仮想マシンと Fusion の機能 \(P. 11\)](#)
- [Fusion インターフェイスを使用した移動および操作 \(P. 15\)](#)

仮想マシンと Fusion の機能

Fusion を使用すると、Mac 内で仮想マシンを実行し、幅広い Windows およびその他の x86 オペレーティングシステムとアプリケーションにアクセスできます。

仮想マシンの概要

仮想マシンは、物理コンピュータと同じようにオペレーティングシステムとアプリケーションを実行する、ソフトウェアのコンピュータです。

通常、仮想マシンには、ディスプレイ、1 台以上のハードディスク、1 つ以上のプロセッサ、メモリ、CD/DVD ドライブ、ネットワーク アダプタ、USB コントローラが存在します。これらのコンポーネントはすべて仮想化されます。つまり、仮想マシン上の構成要素はすべて、ソフトウェアによって作成され、お使いの Mac 上でファイルに保存されます。

仮想マシンは、Intel ベースの Mac 上のウィンドウ内で実行されます。仮想マシンにオペレーティングシステムとアプリケーションをインストールしたら、物理コンピュータと同じように操作できます。オペレーティングシステムは、仮想マシンと物理マシンの違いを認識できません。また、アプリケーションやネットワーク上の他のコンピュータにも区別できません。物理マシンで実行できること（ソフトウェアのインストール、ファイルの保存、ドライブの追加など）は、すべて仮想マシンでも実行できます。

仮想マシンは、基盤となる物理ハードウェアおよび Fusion によって完全にサポートされます。たとえば、仮想マシンを設定するのに、基盤のハードウェア上に存在する物理コンポーネントとは完全に異なる仮想コンポーネントを使うことができます。また、同じ物理ホスト上で複数の仮想マシンを使用して、異なるオペレーティングシステム（Windows、Linux、Mac OS X など）を実行することができます。

Fusion の機能

Fusion では、VMware 仮想マシンを作成し、開いて、実行することができ、Mac で PC 固有のハードウェアを使用できます。

Fusion では、以下のタスクを実行できます。

- Mac OS X で、Windows、Linux、Mac OS X Server などの x86 オペレーティングシステムを再起動せずに実行できます。
- Intel ベースの Mac で Windows および Linux アプリケーションを実行できます。
- DirectX 9 または DirectX 10 が必要な Windows 3D アプリケーションの大部分を Mac 上で実行できます。

- Parallels Desktop、Microsoft Virtual PC、および OVF (Open Virtualization Format) 標準を使用している仮想マシンで作成された仮想マシンをインポートできます。
- 統合された移行アシスタントによって物理 Windows PC を Fusion 仮想マシンに移行できます。
- 仮想マシンから、ビデオ カメラや高速ディスクなどの USB デバイスにアクセスできます。
- Intel ベースの Mac OS X ホスト マシンと他の x86 オペレーティング システムを実行する仮想マシン間でファイルをドラッグできます。
- Fusion では、別の VMware 製品で作成された VMware 仮想マシンを操作できます。詳細については、「[仮想マシンの互換性 \(P. 120\)](#)」を参照してください

サポートされているゲスト OS

Fusion がサポートするゲスト OS は、最新バージョンの Windows、Mac OS X、Mac OS X Server、Linux をはじめとして 100 を超えています。

ゲスト OS のサポートについては、<http://www.vmware.com/go/hcl> を参照してください。

また、VMware Web サイトにアクセスして、[サポート&ダウンロード] タブをクリックしてください。[Support Resources] の [[Compatibility Guides]] リンクをクリックします。

仮想ハードウェアの仕様

各仮想マシンには、チップセット、BIOS、ポートなどについて標準の仮想ハードウェア設定があります。メモリの量とプロセッサの数は、お使いの Mac に依存します。

プロセッサ

- 1 つ以上の論理プロセッサを持つホストシステム上に 1 つの仮想プロセッサ
- 4 つ以上の論理プロセッサを持つホストシステム上に最大 8 個の仮想プロセッサ (8 Way 仮想対称型マルチプロセッシング、または Virtual SMP™)
- 次の構成には 2 つの論理プロセッサがあります。
 - 2 つ以上の物理 CPU を持つマルチプロセッサの Mac
 - 1 つのマルチコア CPU を持つシングルプロセッサの Mac

チップセット

- Intel 440BX ベースのマザーボード
- NS338 SIO
- 82093AA IOAPIC

BIOS

- VESA BIOS 搭載の PhoenixBIOS 4.0 Release 6

メモリ

- 最大 64 GB で、Mac で使用可能なメモリ、仮想マシンのハードウェア バージョン、およびゲスト OS のサポート内容によって異なります
- すべての仮想マシンで使用できるメモリの合計は、Mac のメモリ容量によってのみ制限されます。

注意 仮想マシンへのメモリの割り当てが多すぎる場合、すべての仮想マシンを同時に実行すると、大量のディスクスワップにより Mac の速度が低下する可能性があります。ベスト プラクティスとして、Fusion および実行するすべての仮想マシンが使用するメモリの合計が、Mac の総メモリの 70% を超えないようにしてください。

グラフィックス

- VGA
- SVGA
- Windows XP がゲスト OS の場合、DirectX 9.0c、Shader Model 3、および OpenGL 2.1 による 128 MB 3D 高速化ビデオ
- Windows Vista 以降がゲスト OS の場合、DirectX 9.0EX、Aero、および OpenGL 2.1 による 256 MB 3D 高速化ビデオ
- Windows Vista 以降がゲスト OS の場合、DirectX 10、および OpenGL 3.3 による 3D 高速化ビデオ。DirectX 10 では、ホストおよびハードウェアバージョン 12 以降に OSX 10.10 以降がインストールされている必要があります。DirectX 10 では、GPU バージョンの Intel HD4000 以降、Nvidia GeForce 650M 以降、または AMD Radeon HD 5750 以降も必要です。
- ゲスト OS の Windows XP または Windows 7 以降で OpenGL (Open Graphics Library) の拡張機能である `GL_EXT_texture_compression_s3tc` および `GL_S3_s3tc` を使用するには、そのゲスト OS に Microsoft DirectX エンド ユーザー ランタイムをインストールする必要があります。OpenGL は、2D および 3D コンピュータ グラフィックスを定義するために使用されるアプリケーション プログラム インタフェース (API) です。Microsoft ダウンロード センターの Web サイトから Microsoft DirectX End-User Runtime をダウンロードできます。

IDE デバイス

- 最大 4 デバイス。これらすべてのデバイスを、仮想ハード ディスクまたは CD/DVD ドライブにすることができます。
- 最大 8 TB の IDE 仮想ディスク
- CD/DVD ドライブを、ホストシステムかクライアントシステム上の物理デバイス、または ISO イメージ ファイル か DMG イメージ ファイルにすることができます。

SATA デバイス

- 最大 120 SATA デバイス : 4 コントローラ、およびコントローラ当たり 30 デバイス
- 最大 8 TB の SATA 仮想ディスク

SCSI デバイス

- 最大 60 デバイス。これらすべてのデバイスを、仮想ハード ディスクまたは CD/DVD ドライブにすることができます。
- 最大 8 TB の SCSI 仮想ディスク
- LSI Logic LSI53C10xx Ultra320 SCSI I/O コントローラ。Windows XP ゲスト システムの場合は、LSI Logic Web サイトからアドオンのドライバを入手する必要があります。Web サイトで、Support & Downloads を選択し、ドライバのダウンロードのリンクをクリックし、ドロップダウン メニューのコントローラを選択して、ダウンロードするドライバを見つけます。
- Mylex (BusLogic) BT-958 互換ホスト バス アダプタ。Windows XP および Windows 2003 のゲスト システムの場合は、VMware Web サイトからアドオンのドライバを入手する必要があります。
http://www.vmware.com/download/fusion/drivers_tools.html を参照してください。

プリンタ

- ドライバなしで印刷。PCL および PostScript プリンタを含むホスト プリンタのゲスト仮想マシンでの自動レプリケーション
- ローカルおよびネットワーク接続プリンタ

フロッピー ドライブ

- 最大 2 つの 1.44 MB フロッピー デバイス
- 仮想フロッピー デバイスは、フロッピー イメージ ファイルのみを使用

シリアル (COM) ポート

- 最大 4 つのシリアル (COM) ポート
- 仮想シリアル ポートはファイルへの出力のみをサポート
- ドライバなしで印刷するためにシリアル ポートを 1 つ使用可能

パラレル (LPT) ポート

- 最大 3 つの双方向パラレル (LPT) ポート
- 仮想パラレル ポートはファイルへの出力のみをサポート

USB ポート

- 高速 USB 2.0 および超高速 USB 3.0 をサポートします
- USB プリンタ、スキャナ、PDA、ハード ディスク ドライブ、メモリ カード リーダ、デジタル カメラなどほとんどのデバイスのほか、Web カメラ、スピーカ、マイクなどのストリーミング デバイスをサポート

キーボード

- 104 キー Windows 95/98 機能拡張

マウスおよび描画タブレット

- PS/2 マウス
- USB マウス
- USB 描画タブレット

イーサネット カード

- 最大 10 枚の仮想イーサネット カードをサポートします。

仮想ネットワーク

- デフォルトでは、ブリッジ、ホストオンリー、および NAT ネットワークの 3 つの仮想ハブが設定されています。
- TCP/IP v4、Microsoft ネットワーク、Samba、Novell Netware、Network File System など、イーサネット ベースのほとんどのプロトコルをサポートします。
- 組み込み型の NAT は、TCP/IP v4、FTP、DNS、HTTP、WINS、および Telnet を使用するクライアント ソフトウェアをサポートします。これには、VPN による PPTP over NAT のサポートも含まれます。
- 独立した論理ネットワークを作成するために追加の仮想ネットワークを作成します。この機能は、Fusion Pro でのみ使用できます。
- NAT での IPv6 のサポートは、追加の仮想ネットワークにのみ適用され、Fusion Pro でのみ使用できます。

サウンド

- サウンドの入出力には、Mac のデフォルトの入出力設定を使用します。
- Creative Labs Sound Blaster ES1371 AudioPCI サウンド カードをエミュレートします。MIDI 入力、ゲーム コントローラ、およびジョイスティックはサポートされません。

■ HDAudio

SSD

ホスト マシンに物理的な solid-state drive (SSD) がある場合、ホストはゲスト OS にそれらが SSD で動作していることを通知します。

これによってゲスト OS は動作を最適化できます。仮想マシンが SSD を認識してこの情報を使用する方法は、ゲスト OS および仮想ディスクのディスク タイプ (SCSI、SATA、または IDE) によって異なります。

- Windows 8、Windows 10、Ubuntu、および Red Hat Enterprise Linux 仮想マシンでは、すべてのドライブ タイプは、SSD ドライブとして仮想ディスクをレポートできます。
- Windows 7 仮想マシンでは、IDE と SATA 仮想ディスクだけが SSD として仮想ディスクをレポートできます。仮想マシンでシステム ドライブとして使用されているとき、または仮想マシン内のデータ ドライブとして使用されているときに機械的なドライブとして、SCSI 仮想ディスクは SSD としてレポートするだけです。
- Mac 仮想マシンでは、SATA 仮想ディスクだけが SSD としてレポートされます。IDE および SCSI 仮想ディスクは、機械的なドライブとしてレポートされます。

仮想マシンのオペレーティング システムを使用して、仮想マシンが仮想ディスクとして SSD を使用していることを確認します。

Fusion インターフェイスを使用した移動および操作

Fusion インターフェイスの要素を使用すると、仮想マシンにアクセスしたり、Fusion を管理したりできます。

VMware Fusion ツールバー

ツールバーのアイコンを使用して、操作を開始したり設定を変更したりできます。

VMware Fusion のツールバーを使用して、仮想マシンの状態を変更したり (例、パワーオン、サスペンド、再起動)、仮想マシンのスナップショットにアクセスしたり、仮想マシンの設定を表示および変更したりできます。

シングル ウィンドウ モードの仮想マシン ウィンドウと仮想マシンのライブラリに VMware Fusion ツールバーが表示されるかどうかは、[表示] メニューのツールバーの表示または非表示の選択に基づきます。[\[Fusion ツールバーの表示または非表示 \(P.31\)\]](#) を参照してください。

仮想マシンのライブラリ ウィンドウからの仮想マシンへの操作の実行

[仮想マシンのライブラリ] ウィンドウに Fusion で作成またはパワーオンした仮想マシンが表示されます。

手順

- 1 [ウィンドウ]-[仮想マシンのライブラリ] を選択して [仮想マシンのライブラリ] ウィンドウにアクセスします。
- 2 既存の仮想マシンに対して操作を実行するか、または仮想マシンを作成するには、ウィンドウのいずれかのコントロールを使用します。

オプション	操作
仮想マシンを起動する	仮想マシンのサムネイル イメージの再生ボタンをクリックします。
仮想マシンをサスペンドする	仮想マシンのサムネイル イメージを選択し、ツールバーのサスペンド ボタンをクリックします。
仮想マシンに関する情報を追加する	仮想マシンを選択し、[仮想マシン]-[情報を見る] をクリックします。仮想マシンの一般設定の説明フィールドに説明を入力します。
仮想マシンの名前の変更	仮想マシンの名前をダブルクリックして新しい名前を入力します。
仮想マシンのファイルの場所を確認する	a 仮想マシンを Control を押しながらクリックします。 b [Finder に表示] を選択します。
仮想マシンの設定を変更する	[設定] ボタンをクリックして、仮想マシンの設定ウィンドウを表示します。一部の設定は、仮想マシンがパワーオフされている場合のみ変更可能です。

オプション	操作
仮想マシンのライブラリ ウィンドウに仮想マシンを追加する	仮想マシンのパッケージ アイコンまたは仮想マシンの .vmx ファイルをウィンドウにドラッグします。
仮想マシンのライブラリ ウィンドウから仮想マシンを削除する	仮想マシンをシャットダウンまたはパワーオフしてください。仮想マシンを選択し、 [削除] をクリックします。 [仮想マシンのライブラリ] ウィンドウから仮想マシンを削除しても、仮想マシンはハード ディスクからは削除されません。
新しい仮想マシンを作成する、仮想マシンをインポートする、または物理コンピュータを移行する	[ファイル] メニューを使用して、新しい仮想マシンを作成、仮想マシンをインポート、または PC を移行します。

仮想マシンの作成あるいは別のソースから仮想マシンを取得するための ホーム パネルの使用

仮想マシンを作成または物理 PC に移行できます。

仮想マシンとしての Boot Camp パーティションのパワーオン

Mac オペレーティング システムを実行しながら、Boot Camp パーティションの内容を使用できます。そのためには、Fusion を使用して、Boot Camp パーティションを仮想マシンとしてパワーオンします。

Boot Camp は、Intel ベースの Mac で Windows オペレーティング システムを実行できるようにする Apple のソフトウェアです。Boot Camp を使用するには、起動時に Mac または Windows のどちらを起動するかを選択する必要があります。Boot Camp は、ハード ディスクに Mac と Windows の個別のパーティションを作成して、デュアルブート環境を作成します。Windows Boot Camp パーティションを Fusion 仮想マシンとして使用すると、次のことを実行できます。

- Boot Camp 仮想マシンと Mac を、再起動や両者間の切り替えなしで使用できます。
- 共有フォルダ、ファイルのドラッグ、テキストのカット アンド ペーストを使用して、Boot Camp 仮想マシンと Mac の間でファイルを共有できます。

注意 VMware Tools をインストールしないと、Windows の再アクティベーションの問題が発生することがあります。この場合、Boot Camp 仮想マシン内で Windows を再アクティベートし、その後本来の Boot Camp パーティションを起動すると、Windows を再アクティベートするよう要求されます。また、本来の Boot Camp パーティションの Windows を再アクティベートした後で Boot Camp 仮想マシンをパワー オンすると、仮想マシンに対して Windows の再アクティベートが要求されます。この問題は、VMware Tools をインストールすることで解決します。

開始する前に

この手順を開始する前に、Boot Camp パーティションが存在している必要があります。

Boot Camp パーティションを仮想マシンとして使用するには、**管理者権限**が必要です。

手順

- 1 [ウィンドウ] - [仮想マシンのライブラリ] を選択します。
- 2 [仮想マシンのライブラリ] ウィンドウの仮想マシンのリストで、Fusion が検出したパーティションを示す Boot Camp のサムネイルをクリックします。
- 3 (オプション) Mac のパスワードを入力し、Boot Camp パーティションにアクセスします。

Fusion は Boot Camp パーティションを使用する仮想マシンを作成し、Windows を起動します。

- 4 画面の指示に従い、指示に応じて仮想マシンを再起動します。

Boot Camp 仮想マシンから Windows が起動した後、Fusion は VMware Tools のインストールを開始します。VMware Tools は仮想マシンのすべての機能を有効にし、Boot Camp パーティションを仮想マシンとして使用するときのパーティションのパフォーマンスを最適化します。

- 5 VMware Tools のインストールが完了したら、コンピュータを再起動します。

次に進む前に

VMware Tools のインストール後、Boot Camp 仮想マシンを初めてパワー オンするときには、Windows を再アクティベートしておく必要があります。

Fusion アプリケーション メニューの使用

アップル メニュー バーに表示されるアプリケーション メニュー アイコンから、仮想マシン アプリケーション、ゲスト OS 機能、および Fusion 機能にアクセスできます。

Fusion アプリケーション メニューを使用して、仮想マシンではなくアプリケーションの観点から、仮想コンピューティング環境について考えることができます。アプリケーション メニューは、Mac 上のすべての仮想マシンのすべてのアプリケーションを検索するための 1 つのソースです。

アプリケーション メニューは、作業環境としてユニティ モードを使用する場合に役立ちます。タスクバーを表示せずに、Windows スタート メニューの内容にアクセスでき、Fusion をアクティブなアプリケーションにしなくても、[仮想マシン] および [表示] メニューにアクセスできます。

■ アプリケーション メニューの設定 (P. 17)

Mac から仮想マシンのアプリケーションにすばやくアクセスできるように Fusion アプリケーション メニューを設定できます。

■ アプリケーション メニューを使用したゲスト アプリケーションの検索 (P. 18)

Mac のアップルメニュー バーに常時存在するアプリケーション メニューから仮想マシン アプリケーションを検索して開くことができます。

アプリケーション メニューの設定




Mac から仮想マシンのアプリケーションにすばやくアクセスできるように Fusion アプリケーション メニューを設定できます。

アプリケーション メニューを使用すると、電源コマンドや表示モードなどの Fusion の機能、および Windows の場合は run コマンドなどの機能にアクセスすることもできます。

手順

- 1 [ウィンドウ] - [仮想マシンのライブラリ] を選択します。
- 2 [仮想マシンのライブラリ] ウィンドウで仮想マシンを選択し、[設定] をクリックします。
- 3 [設定] ウィンドウの [システム設定] で、[アプリケーション メニュー] をクリックします。
- 4 [メニュー バーにアプリケーション メニューを表示] ドロップダウン メニューからオプションを選択します。

オプション	説明
常時	Fusion が実行していなくてもアプリケーション メニューは表示されます。
期限なし	Fusion が実行していてもアプリケーション メニューは表示されません。
Fusion の実行時のみ	アプリケーション メニューは、Fusion が実行しているときにのみ表示されます。


- 5 (オプション) アプリケーション メニューに項目を追加します。
 - a 仮想マシンで使用できるアプリケーションおよび他の項目を表示するには、追加 (+) ボタンをクリックします。

 - b 項目をクリックするか、Shift キーを押しながらクリックするか、または  を押しながらクリックして、アプリケーション メニューに表示し、[追加] をクリックします。
- 6 (オプション) アプリケーション メニューから項目を削除します。
 - a リストで削除する項目を選択します。
 - b 削除 (-) ボタンをクリックします。


- 7 (オプション) [アプリケーション メニューのキーボードショートカット] をクリックし、ドロップダウン メニューからショートカットを選択して、ショートカットを有効にします。

アプリケーション メニューを使用したゲスト アプリケーションの検索

Mac のアップルメニュー バーに常時存在するアプリケーション メニューから仮想マシン アプリケーションを検索して開くことができます。

手順

- 1 Apple メニュー バーのアプリケーション メニュー ステータス項目 () をクリックします。
アプリケーション メニューが表示され、最後にアクセスされた仮想マシンが青いタイトル バーに表示されます。
- 2 タイトル バーのポップアップメニューをクリックし、目的のアプリケーションを含む仮想マシンを選択します。
リストに最後に使用したアプリケーションが表示されます。オペレーティング システムに応じて、その仮想マシンのスタート メニューやアプリケーション メニューに表示されるアプリケーションも表示されます。
- 3 リストで、開くアプリケーションを見つけます。
- 4 (オプション) リストにアプリケーション名が表示されない場合、その他のアプリケーションを表示できます。
 - [すべてのプログラム] をクリックします。
 - 検索フィールドにアプリケーションの名前を入力します。
- 5 アイコンをクリックして、アプリケーションを開きます。

Fusion インターフェイスでの異なるモードの使用

シングル ウィンドウ モード、フル スクリーン モード、およびユニティ モードで、Fusion のインターフェイスを表示できます。これらの表示モードを使用して、アプリケーションや仮想マシンをさまざまな方法で操作できます。

シングル ウィンドウ モードを使用して Mac デスクトップに単一のウィンドウで仮想マシンを表示する

シングル ウィンドウ モードでは、仮想マシンは単一のウィンドウに表示され、マウスを使用してウィンドウのサイズ変更や移動が可能です。

シングル ウィンドウ モードでは、VMware Fusion ツールバーを表示して、使用できます。

- [シングル ウィンドウ モードへの切り替え](#) (P. 18)
Mac デスクトップと仮想マシン デスクトップを同時に表示するには、シングル ウィンドウ モードに切り替えます。
- [シングル ウィンドウ モードから別のモードへの復帰](#) (P. 19)
仮想マシンのデスクトップをディスプレイまたは一連のディスプレイに全画面表示するか、または Mac デスクトップのウィンドウにゲスト アプリケーションを表示するには、シングル ウィンドウ モードを終了します。

シングル ウィンドウ モードへの切り替え

Mac デスクトップと仮想マシン デスクトップを同時に表示するには、シングル ウィンドウ モードに切り替えます。

シングル ウィンドウ モードでは、仮想マシンは単一のウィンドウに表示され、マウスを使用してウィンドウのサイズ変更や移動が可能です。

手順

- ◆ シングル ウィンドウ モードに切り替えます。
 - フル スクリーン タイトル バーが表示されているフル スクリーン モードでは、[表示] - [シングル ウィンドウ] を選択します。
 - フル スクリーン ミニバーが表示されていないフル スクリーン モードでは、キーボード ショートカット **⌘ + Control + F** を使用して、シングル ウィンドウ モードに切り替えます。
 - ユニティ モードでは、キーボード ショートカット **⌘ + Shift + U** を使用して、シングル ウィンドウ モードに切り替えます。

シングル ウィンドウ モードから別のモードへの復帰

仮想マシンのデスクトップをディスプレイまたは一連のディスプレイに全画面表示するか、または Mac デスクトップのウィンドウにゲスト アプリケーションを表示するには、シングル ウィンドウ モードを終了します。

手順

- 仮想マシンのデスクトップをディスプレイ全体または一連のディスプレイに全画面表示するには、VMware Fusion メニュー バーで、[表示] - [フル スクリーン] を選択します。
- 仮想マシンのデスクトップを表示しないで、Mac デスクトップに直接ゲスト アプリケーション ウィンドウを表示するには、[表示] - [ユニティ] を選択します。

ユニティ モードを使用してゲスト アプリケーションを Mac デスクトップに直接表示する

Fusion インターフェイスを使用しないで、Mac デスクトップから仮想マシン アプリケーションを操作するには、ユニティ モードを使用します。





ユニティ モードでは、仮想マシンのウィンドウが隠され、開いている仮想マシン アプリケーションは Mac の Dock 内に表示されます。本来の Mac アプリケーションを使用する場合とまったく同様に仮想マシンのアプリケーションを使用できます。

- [ユニティ モードの使用について](#) (P. 20)
ユニティ モードは、いくつかの Windows オペレーティング システムでサポートされており、ゲスト アプリケーションで多くの Mac 機能を使用できます。
- [ユニティ モードに切り替え](#) (P. 20)
別の表示で開いているアプリケーションからユニティ モードに切り替えることができます。
- [ユニティを待っていますウィンドウを使用してゲスト OS を操作する](#) (P. 20)
応答を必要とする一部のオペレーティング システムの動作はユニティ モードで表示されません。Fusion に [ユニティを待っています] ウィンドウが表示され、応答できます。
- [ユニティ モードでの Windows タスクバーおよびシステム トレイの表示](#) (P. 21)
ユニティ モードにいる間に、Windows のタスクバーまたはシステム トレイを表示できます。
- [ユニティ モードでの USB デバイスの接続](#) (P. 21)
仮想マシンがユニティ モードで実行しているときは、USB デバイスを手動で接続する必要があります。
- [ユニティ モードから別の表示モードへの切り替え](#) (P. 21)
仮想マシンのデスクトップを表示するには、ユニティ モードからシングル ウィンドウ モードまたはフル スクリーン モードに切り替えることができます。

ユニティ モードの使用について

ユニティ モードは、いくつかの Windows オペレーティング システムでサポートされており、ゲスト アプリケーションで多くの Mac 機能を使用できます。

Windows XP、Windows Vista、Windows 7、Windows 8、および Windows 10 を稼働している仮想マシンでは、ユニティ モードが完全にサポートされます。Windows Server 2003 (32 ビットおよび 64 ビット)、2008、および 2012 を稼働している仮想マシンでは、ユニティ モードが試験的にサポートされます。

 + C、 + X、および  + V の Mac キーボードショートカットを使用して、Mac アプリケーションとユニティ モードの仮想マシン アプリケーション間で、テキストをコピー、カット、およびペーストできます。また、ユニティ モード表示の仮想マシン アプリケーションで Mission Control 機能を使用することもでき、 + Tab を使用してアプリケーション間の切り替えができます。

仮想マシンをパワーオフし、Fusion を終了した後も、Dock 内に仮想マシン アプリケーションを保持することができます。仮想マシン アプリケーションを使用するには、Dock 内のアプリケーションをクリックして Fusion を起動し、アプリケーションを開きます。また、Mac を起動してログインしたときに実行するように、仮想マシン アプリケーションを設定することもできます。

ユニティ モードでは、常にオンのアプリケーション メニューを使用して、すべての使用可能な仮想マシン アプリケーションにアクセスできます。[「Fusion アプリケーション メニューの使用 \(P. 17\)」](#) を参照してください。


ユニティ モードに切り替え

別の表示で開いているアプリケーションからユニティ モードに切り替えることができます。

開始する前に

ユニティ モードは、仮想マシンに VMware Tools がインストールされている場合のみ機能します。

手順

- 1 Windows XP、Windows Vista、Windows 7、Windows 8、または Windows 10 仮想マシンで、ユニティ モードで使用するアプリケーションを開きます。
- 2 以下のいずれかの方法を使用して、ユニティ モードに切り替えます。
 - a [表示] メニューから、[ユニティ] を選択します。
 - b キーボードショートカット  + Shift + U を使用します
 - c アプリケーション メニューから [ユニティ] をクリックします。
 - d ツールバーにある Fusion アイコンをクリックします。

仮想マシン ウィンドウは非表示になります。開いているアプリケーションは、Mac のデスクトップ上のウィンドウおよび Mac の Dock 内のアイコン タイルとして表示されます。

次に進む前に

ユニティ モードを終了するには、Fusion アプリケーションに戻り、[表示] を選択するか [シングル ウィンドウ] または [フル スクリーン] を選択します。

ユニティを待っていますウィンドウを使用してゲスト OS を操作する

応答を必要とする一部のオペレーティング システムの動作はユニティ モードで表示されません。Fusion に [ユニティを待っています] ウィンドウが表示され、応答できます。

手順

- [ユニティを待っています] ウィンドウで、プロンプトに従ってダイアログに応答します。
 応答し終わると、仮想マシンがユニティ モードに戻ります。

- ユニティ モードを終了して、仮想マシンのオペレーティング システムに応答します。
 - a [ユニティ モードを終了] をクリックします。
 - b ゲスト OS に必要な操作を実行します。
 - c ユニティ モードに戻るには、[表示] - [ユニティ] の順に選択します。

ユニティ モードでの Windows タスクバーおよびシステム トレイの表示

ユニティ モードにいる間に、Windows のタスクバーまたはシステム トレイを表示できます。

手順

- タスクバーを表示するには、[表示] - [ユニティでタスクバーを表示] を選択します。
[システム トレイを隠す] オプションは淡色表示されます。
- タスクバーを隠すには、[表示] - [ユニティで隠す] を選択します。
- システム トレイを表示するには、[表示] - [ユニティでシステム トレイを表示] を選択します。
- システム トレイを隠すには、[表示] - [ユニティのシステム トレイを隠す] を選択します

表示するように設定した場合、Windows アプリケーション以外のアプリケーションを使用するときも、これらの要素は表示されたままになります。

ユニティ モードでの USB デバイスの接続

仮想マシンがユニティ モードで実行しているときは、USB デバイスを手動で接続する必要があります。

注意 Fusion では、仮想マシンにディスプレイを接続するための USB アダプタをサポートしていません。

手順

- 1 USB デバイスを Mac にプラグインします。
選択ダイアログが表示されます。
- 2 デバイスを接続するシステムを選択します。
操作は、開いている仮想マシン数によって異なります。

オプション	説明
1 つの仮想マシンをパワーオンしている場合	[Mac に接続する] または [<OS of your open virtual machine> に接続する] を選択します。
複数の仮想マシンをパワーオンしている場合	ポップアップメニューで、[Mac に接続する] または選択した仮想マシンの [<virtual machine name> に接続する] を選択します。[OK] をクリックします。

ユニティ モードから別の表示モードへの切り替え

仮想マシンのデスクトップを表示するには、ユニティ モードからシングル ウィンドウ モードまたはフル スクリーン モードに切り替えることができます。

開始する前に

Fusion がアクティブなアプリケーションになっていて、Fusion メニューがディスプレイの最上部に表示されている必要があります。

手順

- ◆ ユニティ モードを終了します。

オプション	操作
Mac デスクトップの 1 つのウィンドウに仮想マシンを表示させる。	VMware Fusion メニュー バーから、[表示] - [シングル ウィンドウ] を選択します。
仮想マシンのデスクトップをディスプレイまたは一連のディスプレイに全画面表示する。	VMware Fusion メニュー バーから、[表示] - [フル スクリーン] を選択します。

Mac 上で開いているアプリケーションが、Fusion 仮想マシン ウィンドウ内に表示されます。

フル スクリーン モードを使用して仮想マシン デスクトップをディスプレイに全画面表示する

フル スクリーン モードでは、Fusion はディスプレイ全体または一連のディスプレイに仮想マシンのデスクトップを全画面表示します。

このモードでは、Mac の Dock は表示されません。VMware Fusion メニュー バーを表示または非表示にできます。この表示は、ゲスト OS の実行専用マシンを使用しているように見えます。ツールバーを見せるためにディスプレイの上にカーソルを移動させて、ツールバーにアクセスします。オプションでは、Fusion 機能のサブセットは、コンパクトなフル スクリーン ミニバーから使用できます。

- [Fusion フル スクリーン モードへの切り替え](#) (P. 22)

別の表示からフル スクリーン モードに切り替えることができます。

- [フル スクリーン モードでの VMware Fusion メニュー バーの非表示](#) (P. 23)

フル スクリーン モードになっている場合、フル スクリーンのディスプレイの上部にカーソルを合わせない限り、VMware Fusion メニュー バーは表示されません。いつでも VMware Fusion メニュー バーを隠すように設定できます。

- [フル スクリーン ミニバーの設定](#) (P. 23)

フル スクリーン表示の場合、フル スクリーン ミニバーを使用して、状態の変更や [仮想マシン] メニュー オプションなどの仮想マシン コントロールにアクセスできます。


- [フル スクリーン モードから別のモードへの復帰](#) (P. 23)

Mac デスクトップと仮想マシン デスクトップを同時に表示するか、または Mac デスクトップでウィンドウにゲスト アプリケーションを表示するには、ユニティ モードまたはシングル ウィンドウ モードに切り替えます。

Fusion フル スクリーン モードへの切り替え

別の表示からフル スクリーン モードに切り替えることができます。

手順

- ◆ フル スクリーン モードに切り替えます。
 - 仮想マシン ウィンドウの上部にあるツールバーの [フル スクリーンに切り替え] ボタンをクリックします。
 - [表示] メニューから、[フル スクリーン] を選択します。
 -  [+ Control + F] キーボードショートカットを使用して、フル スクリーン モードに切り替えます。


Fusion 仮想マシン ウィンドウが、1 つの画面全体に広がります（または、マルチ ディスプレイを使用していて、それらすべてを使用するように Fusion を構成している場合は、複数の画面）。可能であれば、ミッション コントロールを使用して簡単にナビゲーションするための新しいスペースが作成されます。

フルスクリーン モードでの VMware Fusion メニュー バーの非表示

フルスクリーン モードになっている場合、フルスクリーンのディスプレイの上部にカーソルを合わせない限り、VMware Fusion メニュー バーは表示されません。いつでも VMware Fusion メニュー バーを隠すように設定できます。

[フルスクリーン] メニュー バーの動作は、実行中の仮想マシンに適用されます。

手順

- ◆ [フルスクリーンでメニューバーを隠す] オプションを設定します。
 - [表示] - [フルスクリーンでメニューバーを隠す] を選択します。
 -  [+ Shift] [+M] のキーボードショートカットを使用して、フルスクリーンモードの VMware Fusion メニューバーを隠したり、表示したりします。


フルスクリーン ミニバーの設定

フルスクリーン表示の場合、フルスクリーン ミニバーを使用して、状態の変更や [仮想マシン] メニュー オプションなどの仮想マシン コントロールにアクセスできます。

フルスクリーン表示では、仮想マシン ウィンドウは、1 つの画面またはマルチ ディスプレイを使用している場合は複数の画面いっぱいに広がります。このモードでは、Mac の Dock は表示されません。ただし、フルスクリーン ミニバーを使用して、一部の [仮想マシン] メニュー オプションにアクセスできます。フルスクリーン ミニバーには、Fusion サスペンドおよび仮想マシン用の実行ボタン、一部の仮想マシン オプション、そしてシングル ウィンドウ表示ボタンへの復帰が含まれます。

手順

- 1 [表示] - [フルスクリーン] を選択します。
仮想マシン表示はフルスクリーン表示に変更され、フルスクリーン ミニバーはデフォルトで画面の右側に表示されます。
- 2 ギアアイコンでミニバーのボタンを選択し、[フルスクリーン ミニバー] メニューからフルスクリーン ミニバーの動作を設定します。

オプション	説明
常に表示	フルスクリーン ミニバーを常に表示します。
自動的に隠す/表示する	実行中の仮想マシンでは、ディスプレイの端のフルスクリーン タイトル バーの位置にポインタを移動した場合にのみ、フルスクリーン ミニバーが表示されます。実行されていない仮想マシンでは、フルスクリーン ミニバーが常に表示されます。
常に隠す	フルスクリーン ミニバーを表示しません。  [+ Control + F] キーボードショートカットを使用すると、フルスクリーン モードが終了します。
画面上の位置	フルスクリーン ミニバーの表示位置を [トップ]、[左]、[最下部]、または [右] の端のいずれにするのかを設定します。シングル ディスプレイで別の場所にフルスクリーン ミニバーをドラッグアンドドロップするか、ディスプレイが複数ある場合には別のディスプレイにドラッグすることもできます。

注意 フルスクリーン ミニバーは、ドラッグによってディスプレイの別の側に移動できます。

フルスクリーン モードから別のモードへの復帰

Mac デスクトップと仮想マシン デスクトップを同時に表示するか、または Mac デスクトップでウィンドウにゲスト アプリケーションを表示するには、ユニティ モードまたはシングル ウィンドウ モードに切り替えます。

Mac デスクトップの 1 つのウィンドウに仮想マシンを表示させるには、シングル ウィンドウ モードに変更します。仮想マシンのデスクトップを表示しないで、Mac デスクトップに直接ゲスト アプリケーション ウィンドウを表示するには、ユニティ モードに変更します。

手順

- フルスクリーンを終了してシングル ウィンドウ モードにするには、フルスクリーン タイトル バーで [表示] - [シングル ウィンドウ] を選択するか、キーボードショートカット **⌘ + Control + F** を使用します。
- フルスクリーンを終了してユニティ モードにするには、フルスクリーン タイトル バーで [表示] - [ユニティ] を選択するか、キーボードショートカット **⌘ + Shift + U** を使用します。

マルチ ディスプレイの使用

Fusion では、マルチ ディスプレイがサポートされています。Fusion は、10 台までのディスプレイを検出し、ディスプレイの接続または切断時、および解像度や向きの変更時に、自動的に調節することができます。

ユニティ モードでのマルチ ディスプレイの使用

Fusion では、デフォルトでマルチ ディスプレイが検出されます。ユニティ モードのウィンドウを、使用可能なディスプレイにドラッグできます。設定を変更する必要はありません。

ユニティ モードのマルチ ディスプレイおよび仮想マシンの場合は、ゲスト OS でのディスプレイ設定を使用しないでください。Fusion はそのような変更をサポートしません。

フルスクリーン モードでのすべてのディスプレイの使用

Mac に接続されているすべてのディスプレイを使用するように Fusion フルスクリーン モードを設定できます。

手順

- 1 [1 つのディスプレイをフルスクリーンで使用] が有効になっている場合、[表示] - [すべてのディスプレイをフルスクリーンで使用] を選択します。
[すべてのディスプレイをフルスクリーンで使用] は、Mac OS X ゲストではサポートされていません。
- 2 別のモードになっている場合は、[表示] - [フルスクリーン] を選択します。

フルスクリーン モードのマルチ ディスプレイへの移動

マルチ ディスプレイがある場合、それらの 1 台を Fusion 仮想マシンのフルスクリーン モードで使用するように指定できます。

複数のディスプレイのすべてを使用するのではなく、その中の 1 台のディスプレイで、仮想マシンをフルスクリーン モードで実行させることができます。別々の仮想マシンを別々のモニターで、フルスクリーン モードで使用できます。

手順

- 1 別のモードにいる場合、[表示] - [シングル ウィンドウ] を選択します。
- 2 Fusion 仮想マシン ウィンドウをフルスクリーン モードで使用するディスプレイにドラッグします。
- 3 (オプション) Fusion ですべてのディスプレイをフルスクリーン モードで使用するように設定している場合、メニューバーで [表示] - [1 つのディスプレイをフルスクリーンで使用] を選択します。
- 4 メニューバーで、[表示] - [フルスクリーン] を選択します。

Fusion 仮想マシン ウィンドウが指定したディスプレイに全画面表示されます。

Fusion の構成

必要に応じた方法で表示および動作するように、Fusion を構成できます。

この章では次のトピックについて説明します。

- [Fusion 環境設定の変更 \(P. 25\)](#)
- [Fusion のディスプレイのカスタマイズ \(P. 31\)](#)
- [Mac の Dock への Windows または Linux アプリケーションの格納 \(P. 32\)](#)
- [Mac へのログイン時に開くように仮想マシン アプリケーションを設定 \(P. 32\)](#)
- [仮想マシン パッケージの内容 \(P. 32\)](#)
- [仮想マシン パッケージの使用 \(P. 33\)](#)

Fusion 環境設定の変更

Fusion の動作を制御する環境設定を変更することができます。

環境設定の変更

マウスの動作、Fusion を終了するときの仮想マシンの動作、およびその他の一般的な動作を設定できます。

手順

- 1 [VMware Fusion] - [環境設定] を選択します。
- 2 [一般] をクリックします。
- 3 [仮想マシンを閉じるとき] セクションで、仮想マシンを閉じるときの Fusion の動作を選択します。

オプション	説明
仮想マシンをサスペンドする	仮想マシン ウィンドウを閉じると、仮想マシンはサスペンドされます。 この環境設定が選択されている仮想マシン ウィンドウを閉じると、次に仮想マシンを開いたときには、ラップトップ コンピュータをサスペンドしてレジュームしたときと同じように、アプリケーションが実行中でファイルが開いている状態で再起動されます。
仮想マシンをパワーオフ	仮想マシン ウィンドウを閉じると、仮想マシンはパワーオフされます。
確認してから閉じる	仮想マシン ウィンドウを閉じる前に、Fusion によって確認のダイアログ ボックスが表示されます。仮想マシンをバックグラウンドで実行するには、このオプションを選択する必要があります。

- 4 ゲームセクションで、予想されるマウスの使用方法に適した設定を選択します。

オプション	説明
ゲーム用にマウスを自動検出	Fusion は、マウスを仮想マシン ウィンドウにロックする必要がある場合を検出し、ゲーム中に正しい操作ができるようにします。ゲームが検出されない場合、マウスは通常の方法で動作します。これはデフォルトの設定です。
ゲーム用にマウスを最適化しない	場合によっては、ゲームではないアプリケーションが、自動検出機能によってゲームだと検出されることがあります。このようなアプリケーションでマウスが通常の方法で動作できるように、このオプションを使用して自動検出をオフにします。
常にゲーム用にマウスを最適化	場合によっては、自動検出機能でゲームの認識に失敗することがあります。そのような場合は、ゲームでマウスが正しく動作するように、このオプションを使用します。

- 5 (オプション) Fusion の起動時にソフトウェアのアップデートを確認するには、[アップデート] セクションで、[アップデートの自動確認] チェック ボックスを選択します。

Fusion の新しいバージョンがダウンロードおよびインストール可能になると、メッセージで通知されます。[アップデートの自動確認] チェック ボックスを選択しない場合、[VMware Fusion] - [更新の確認] を選択していつでも手動でアップデートを確認できます。

- 6 フィードバック セクションでは、VMware によるデータ収集の処理方法を設定します。

このチェック ボックスを選択すると、ソフトウェアのアップデート時に特定の匿名データが VMware に送信されます。Fusion の顧客が現在のバージョンをどのように使用しているかの情報は、VMware が製品の将来のバージョンに関する決定を下す際に役立てられます。プライバシー ポリシーおよび収集されるデータの種類を確認するには、[詳細情報] をクリックします。このプログラムに参加しない場合は、このチェック ボックスを選択解除します。

キーボードおよびマウスのプロファイルの選択

Fusion では、サポートされる言語ごとにキーボードおよびマウスの標準のプロファイルが用意されています。

各仮想マシンに独自のプロファイルを割り当てることができます。

手順

- 1 [VMware Fusion] - [環境設定] の順に選択し、[キーボードとマウス] をクリックします。
- 2 [キーボードとマウスのプロファイル] ドロップダウン メニューからプロファイルを選択します。
- 3 [プロファイルの編集] を選択します。
- 4 (オプション) 追加 ([+]) ボタンと削除 ([-]) ボタンを使用して、プロファイルを追加または削除します。
- 5 [プロファイルの編集] シートで、仮想マシンにプロファイルを割り当てます。
 - a [仮想マシン] 列で仮想マシンの名前を選択します。
 - b [プロファイル] 列にリストされているプロファイルをクリックし、ポップダウン メニューに表示されるプロファイルから選択します。
- 6 [完了] をクリックします。

キーボードとマウス 環境設定パネルでのキー マッピングの設定

Mac キーボードの特定のキーの組み合わせを、仮想マシン上のキーにマッピングすることができます。

次のマッピングがサポートされています。

- キーをキーにマッピング
- 修飾キーの組み合わせを修飾キーにマッピング
- 修飾キーの組み合わせ + キーをキーにマッピング

キー マッピングはスタックできません。あるキー マッピングを作り、そのキー マッピングを他のキー マッピングの一部に含めることはできません。

手順

- 1 [VMware Fusion] - [環境設定] の順に選択し、[キーボードとマウス] をクリックします。
- 2 [キー マッピング] をクリックし、[キー マッピング] パネルに移動します。
- 3 [キー マッピングを有効にする] チェック ボックスを選択します。
- 4 (オプション) 入力メニューで選択した言語 (メニュー バーでフラグ アイコンによって示されているもの) のキーボード レイアウトに関するキー マッピングを組み込む場合は、[言語固有のキー マッピングを有効にする] チェック ボックスを選択します。


入力メニューをサポートされるキーボード レイアウトに変更すると、追加のキー マッピングがキー マッピング リストに追加されます。Fusion は、英国英語、ベルギーで使用されている言語、デンマーク語、フランス語、スイスのフランス語、ドイツ語をサポートしています。この機能は、Mac OS X Server 仮想マシンでは使用できません。

- 5 キー マッピングの設定を変更します。

オプション	説明
キー マッピングを有効または無効にする	Mac のショートカットの左側にあるチェックボックスをクリックします。
キー マッピングを編集する	変更する Mac のショートカットまたは仮想マシンのショートカットをダブルクリックし、[キー マッピングを編集] ダイアログで変更を行います。
キー マッピングを追加する	追加 (+) ボタンをクリックし、[キー マッピングを編集] ダイアログ ボックスで新しいキー マッピングを定義します。
キー マッピングを削除する	キー マッピングを選択して削除 (-) ボタンをクリックします。[]
デフォルト設定のリストア	[デフォルトにリストア] をクリックします。

キーボードとマウス 環境設定パネルでのマウス ショートカットの設定

Fusion では、ショートカットを使用して、シングルボタン マウスをツーボタンやスリーボタンのマウスのように動作させることができます。

デフォルトでは、Control + 主ボタンが副ボタン (右クリック) の代わりに、 + 主ボタンが第 3 ボタンの代わりになります。

ショートカットは変更できます。

手順

- 1 [VMware Fusion] - [環境設定] の順に選択し、[キーボードとマウス] をクリックします。
- 2 [マウス ショートカット] をクリックして、マウス ショートカット パネルに移動します。
- 3 マウス ショートカットをダブルクリックし、新しいショートカットのキーを押します。

デフォルトに戻すには、[デフォルトにリストア] をクリックします。

キーボードとマウス環境設定パネルでの Mac ホスト ショートカットの有効化または無効化

Fusion のデフォルトでは、Mac オペレーティングシステムまたはサードパーティ アプリケーションで登録されているグローバル キーボード ショートカットは、仮想マシンではなく Mac オペレーティングシステムに送信されます。

グローバル Mac キーボード ショートカットの例として、コマンド + Tab (アプリケーションの切り替え)、および F9、F10 および F11 (Exposé コマンド) があります。これらのショートカットとコマンドは、Mac OS X のシステム環境設定で設定します。

[Mac ホスト ショートカット] パネルを使用して、Fusion の使用中はこれらのショートカットをすべて無効にできます。この設定は、シングル ウィンドウ表示とフル スクリーン モードにのみ適用されます。ユニティ モードでは、すべての Mac OS ショートカットが常に有効になります。

手順

- 1 [VMware Fusion] - [環境設定] の順に選択し、[キーボードとマウス] をクリックします。
- 2 [Mac ホスト ショートカット] をクリックして、[Mac ホスト ショートカット] パネルに移動します。
- 3 すべてのショートカットを有効または無効にするには、[Mac OS キーボード ショートカットを有効にする] チェック ボックスを選択または選択解除します。

ここで Mac OS コマンドを編集することはできません。Mac OS コマンドに対する変更は、Mac OS のシステム環境設定で行う必要があります。

キーボードとマウス環境設定パネルでの Fusion ショートカットの有効化

Fusion には、シングル ウィンドウ モードまたはフル スクリーン モードのときに Fusion コマンドを実行できるキーボード ショートカットが複数用意されています。これらのショートカットは Fusion の環境設定で有効または無効にできます。

手順

- 1 [VMware Fusion] - [環境設定] の順に選択し、[キーボードとマウス] をクリックします。
- 2 [Fusion ショートカット] をクリックして、Fusion ショートカット パネルに移動します。
- 3 リストの項目を選択または選択解除します。

デフォルト アプリケーションの環境設定の変更

Mac または仮想マシンのアプリケーションを設定し、さまざまな種類の URL を開くために使用できます。

次のカテゴリの URL を開くことができます。

- リモート セッション (Telnet、SSH)
- メール (mailto)
- ニュースグループ (news)
- ファイル転送 (FTP、SFTP)
- Web ページ (HTTP、HTTPS)
- RSS フィード (feed)

仮想マシン内から Web ブラウザをデフォルトにしても、Fusion による URL の処理方法のデフォルト設定は変更されません。次に仮想マシンを起動またはレジュームしたり、URL 環境設定を変更したりすると、ゲスト マシンで行った変更は Fusion の設定で上書きされます。

手順

- 1 [ウィンドウ] - [仮想マシンのライブラリ] を選択します。
- 2 [仮想マシンのライブラリ] ウィンドウで仮想マシンを選択し、[設定] をクリックします。
- 3 [設定] ウィンドウの [システム設定] で、[デフォルト アプリケーション] をクリックします。
- 4 [設定] をクリックします。

- 5 環境設定を設定または変更します。

オプション	説明
URL の種類を [デフォルト アプリケーション] パネルに追加する	追加 (+) ボタンをクリックし、ポップアップ メニューから URL の種類を選択します。[]
ある種類の URL を開くのに使用するアプリケーションを設定または変更する	該当する [(種類) を開く] チェック ボックスの右側にあるポップアップ メニューからアプリケーションを選択します。Mac および仮想マシン上にある利用可能なすべてのアプリケーションから選択できます。
URL の種類を削除する	種類のポップアップ メニューの右側にある削除 (-) ボタンをクリックします。[]

カスタム ネットワークの作成

Fusion Pro を使用すれば、キー ネットワーク設定の変更、カスタム仮想ネットワークの追加と削除、およびカスタム仮想ネットワーク設定の作成を行えます。変更を行うと、ホスト システムで稼働中のカスタム ネットワークに接続してるすべての仮想マシンに影響が及びます。

カスタム ネットワークを作成して、以下の作業を行うことができます。

- 仮想マシンが IP アドレスおよびご使用の Mac の Mac アドレスを共有しているシナリオで追加の NAT 設定を追加します。
- 仮想マシンとホスト システム間に追加の仮想プライベート ネットワーク (VPN) を追加します。

いずれのタイプのカスタム ネットワークについても、Fusion でどのサブネットが使用されるか、そしてホスト システム上の物理ネットワークをカスタム ネットワークに接続するかどうかを指定できます。

NAT 構成の追加

Fusion Pro を使用すれば、仮想マシンが IP アドレスおよびご使用の Mac の Mac アドレスを共有しているシナリオで追加の NAT 設定を追加できます。

デフォルトでは、Fusion は、NAT を使用するひとつの [Mac を共有] 設定を提供します。追加の NAT 設定を追加して、DHCP サービスをオフにしたり、デフォルト以外のサブネット IP またはサブネット マスクを使用するなどのアクションを実行できます。

開始する前に

- Fusion Pro ライセンスを所有していることを確認してください。
- 管理者パスワードを知っていることを確認してください。

手順

- 1 [VMware Fusion] - [環境設定] を選択し、[ネットワーク] をクリックします。
- 2 ロック アイコンをクリックし、管理者パスワードを入力し、[OK] をクリックします。
- 3 ネットワークのリストでプラス記号 (+) をクリックします。
- 4 [このネットワークの仮想マシンを外部ネットワークに接続 (NAT を使用)] を選択します。
- 5 (オプション) [IPv6 を有効にする] チェックボックスをクリックし、テキスト ボックスに [IPv6 プリフィックス] を入力します。
- 6 (オプション) このプライベート ネットワークにホスト システムの物理ネットワークを接続するには、[ホスト Mac をこのネットワークに接続] を選択します。
- 7 (オプション) ローカル DHCP サービスを使用して、ネットワークの仮想マシンに IP アドレスを配布するには、[DHCP を介してこのネットワークでアドレスを提供] を選択します。
- 8 (オプション) サブネット IP アドレスまたはサブネット マスクを変更するには、[サブネット IP] および [サブネット マスク] テキスト ボックスでアドレスを修正します。

9 [適用] をクリックします。

設定したネットワークは、Mac の仮想マシンに関連づけられた仮想ネットワーク アダプタで使用できるようになります。

プライベート ネットワーク構成の追加

Fusion Pro を使用すれば、仮想マシンとホスト システム間に追加の仮想プライベート ネットワーク (VPN) 設定を追加することができます。

ホスト限定ネットワークのこのタイプで設定された複数の仮想マシンが同じネットワーク上にあります。VMware DHCP サーバはネットワーク上のアドレスを提供できます。

以下の状況で同じコンピュータ上で複数のプライベート ネットワークを設定したい場合があります：

- ひとつのプライベート ネットワークに接続されている 2 つの仮想マシンを持つには、他のプライベート ネットワークに接続されている他の仮想マシンを各ネットワークのネットワーク トラフィックから切り離します。
- 2 つの仮想ネットワーク間のルーティングをテストするには
- 物理ネットワーク アダプタを使用せずに複数のネットワーク インタフェース カードを持つ仮想マシンをテストするには

開始する前に

- Fusion Pro ライセンスを所有していることを確認してください。
- 管理者パスワードを知っていることを確認してください。

手順

- 1 [VMware Fusion] - [環境設定] を選択し、[ネットワーク] をクリックします。
- 2 ロック アイコンをクリックし、管理者パスワードを入力し、[OK] をクリックします。
- 3 ネットワークのリストでプラス記号 (+) をクリックします。
- 4 [このネットワークの仮想マシンを外部ネットワークに接続 (NAT を使用)] チェック ボックスが選択されていないことを確認します。
- 5 (オプション) このプライベート ネットワークにホスト システムの物理ネットワークを接続するには、[ホスト Mac をこのネットワークに接続] を選択します。
- 6 (オプション) ローカル DHCP サービスを使用して、ネットワークの仮想マシンに IP アドレスを配布するには、[DHCP を介してこのネットワークでアドレスを提供] を選択します。
- 7 (オプション) サブネット IP アドレスまたはサブネット マスクを変更するには、[サブネット IP] および [サブネット マスク] テキスト ボックスでアドレスを修正します。
- 8 [適用] をクリックします。

設定したネットワークは、Mac の仮想マシンに関連づけられた仮想ネットワーク アダプタで使用できるようになります。

ディクテーションの有効化

ディクテーションでは、入力の代わりに自分の声を使用することができます。ゲスト OS で使用するには、Fusion でディクテーションを有効にする必要があります。

手順

- 1 [VMware Fusion] - [環境設定] の順に選択し、[キーボードとマウス] をクリックします。
- 2 [キーボードとマウスのプロファイル] ドロップダウン メニューから、使用するプロファイルを選択します。
- 3 [Mac ホスト ショートカット] をクリックして、[Mac ホスト ショートカット] パネルに移動します。
- 4 仮想マシンがコマンド キーを Windows キーに割り当てる方法をメモします。

- 5 仮想マシンにホットキーを割り当て、ディクテーションを開始します。

Fusion のディスプレイのカスタマイズ

仮想マシンの使用方法に合わせて Fusion のディスプレイをカスタマイズできます。

- [Fusion ツールバーの表示または非表示 \(P.31\)](#)
ツールバーを使用せず、ツールバーが表示されない状態で Mac を使用したい場合は、仮想マシン ウィンドウで Fusion ツールバーを隠すことができます。
- [Fusion ツールバーのカスタマイズ \(P.31\)](#)
ツールバーのアイコンを追加または削除できます。
- [Fusion のディスプレイと解像度のサイズ変更 \(P.31\)](#)
マウスを使用して、仮想マシンのウィンドウのサイズを変更できます。

Fusion ツールバーの表示または非表示

ツールバーを使用せず、ツールバーが表示されない状態で Mac を使用したい場合は、仮想マシン ウィンドウで Fusion ツールバーを隠すことができます。

手順

- ◆ [表示] - [ツールバーを表示/隠す] をクリックします。

Fusion ツールバーのカスタマイズ

ツールバーのアイコンを追加または削除できます。

開始する前に

ツールバーをカスタマイズするには、シングル ウィンドウ表示を使用する必要があります。

手順

- 1 [表示] - [ツールバーのカスタマイズ] を選択します。
ツールバーで使用可能なすべてのツールのリストが表示されます。
- 2 リストとツールバーの間でツールをドラッグします。
[表示] ポップダウン メニューを使用して、ツールバーの表示を [アイコンとテキスト]、[アイコンのみ]、または [テキストのみ] に設定します。
- 3 [完了] をクリックします。

Fusion のディスプレイと解像度のサイズ変更

マウスを使用して、仮想マシンのウィンドウのサイズを変更できます。

開始する前に

ウィンドウのサイズ変更によるディスプレイ解像度の変更は、仮想マシンに最新版の VMware Tools がインストールされている場合のみ機能します。

手順

- ◆ マウス ポインタを仮想マシン ウィンドウの下部右隅のサイズ変更コントロールに置き、マウスの主ボタンを押したままハンドルをドラッグして、ウィンドウのサイズを変更します。

ディスプレイの解像度は新しいウィンドウのサイズに合わせて調整されます。

Mac の Dock への Windows または Linux アプリケーションの格納

Windows または Linux のアプリケーションのアイコン タイルを Mac の Dock に格納し、Mac アプリケーションを開くのと同一方法でそのアプリケーションを開くことができます。VMware Fusion のメニュー バーまたはゲスト OS のインターフェイスを使用しなくても、仮想マシンのアプリケーションにアクセスできます。

手順

- 1 アプリケーションを開いたまま、ユニティ モードに切り替えます。
アプリケーションが Mac の Dock 内に表示されます。
- 2 Dock 内のアプリケーションを Control キーを押しながらクリックするか、右クリックして、[オプション] - [Dock に追加] を選択します。

Mac へのログイン時に開くように仮想マシン アプリケーションを設定

便利のように、Mac を起動すると常に仮想マシンでアプリケーションが開くように設定できます。

手順

- 1 アプリケーションを開いたまま、ユニティ モードに切り替えます。
アプリケーションが Mac の Dock 内に表示されます。
- 2 Dock 内のアプリケーションを Control キーを押しながらクリックするか、右クリックして、[オプション] - [ログイン時に開く] を選択します。

仮想マシン パッケージの内容

仮想マシンを記述するファイルが、Mac OS X のパッケージにバンドルされます。

表 3-1 で示されているように、仮想マシンのファイルには異なる機能があります。これらのファイルの一部は、ロックファイルのように、仮想マシンを実行すると作成されます。

表 3-1. 仮想マシン パッケージのファイル

ファイル	説明
仮想ディスク ファイル (*.vmdk)	ディスクの設定およびスナップショットをとるかどうかにより、単一の大きいファイルまたは多数の 2GB ファイルです。
構成ファイル (*.vmx)	仮想マシンを記述するブレーン テキスト ファイルです。使用するファイル、取得する RAM の量、その他のさまざまな設定が含まれます。
BIOS ファイル (*.nvram)	仮想マシンの起動順序などの情報が含まれます。
ログ ファイル (vmware.log)	仮想マシンの最新の実行に関する情報を含むブレーン テキスト ファイルです。次に新しいファイルの名前は vmware-0.log、その次は vmware-1.log、最も古いファイルは vmware-2.log となります。Fusion に問題がある場合、このファイルの提出を求められることがあります。
ロック ファイル (*.lck)	仮想マシンの実行中に、構成ファイルおよびディスク ファイルに対して作成されます。
メモリ ファイル (*.vmem)	スナップショット ファイルはメモリ ファイルの例です。

仮想マシン パッケージの使用

仮想マシンを作成すると、Fusion は、単一のパッケージとして仮想マシン ファイルを格納します。これにより、仮想マシン全体を単一の存在として移動することができます。

パッケージ（バンドルとも呼ばれます）の拡張子は **.vmwarevm** です。パッケージを移動するときは、すべての仮想マシン ファイルを移動することになります。

トラブルシューティングの間に、仮想マシン パッケージ ファイルにアクセスすることが必要になる場合があります。

注意 構成ファイルを編集すると、問題が発生する場合があります。変更を行う前に、必ずファイルのバックアップ コピーを作成してください。

開始する前に

仮想マシン ファイルの編集中は、Fusion を実行しないでください。

手順

- 1 Finder で、仮想マシン パッケージを選択します。
デフォルトでは、仮想マシン パッケージは **<your home folder>/書類/仮想マシン** 内にあります。
- 2 パッケージを **Control + クリック** または **右クリック** し、**[パッケージの内容を表示]** を選択します。
- 3 次のいずれかを実行します。
 - トラブルシューティングの分析用に提供するために、ログ ファイル (**vmware.log**) をコピーします。
 - テキスト エディタで構成ファイル (***.vmx**) を開いて変更します。ファイルの変更方法については、Fusion のリリース ノートを参照するか、適切なサポート担当者に問い合わせてください。

仮想マシンの作成

仮想マシンの作成、別の場所で作成された仮想マシンのインポート、および物理 PC から変換された仮想マシンの移行ができます。Fusion Pro を使用している場合は、既存の仮想マシンのクローンを作成することもできます。

この章では次のトピックについて説明します。

- [仮想マシンを作成 \(P. 35\)](#)
- [リモート サーバへの仮想マシンのアップロード \(P. 46\)](#)
- [VMware vCloud Air への仮想マシンのアップロード \(P. 47\)](#)
- [リモート サーバからの仮想マシンのダウンロード \(P. 47\)](#)
- [既存の物理 PC から仮想マシンへの移行 \(P. 48\)](#)
- [Windows 仮想マシンのインポート \(P. 52\)](#)
- [VMware Tools のインストールと使用 \(P. 55\)](#)
- [Fusion Pro を使用した仮想マシンのクローン作成 \(P. 59\)](#)

仮想マシンを作成

仮想マシンの作成方法は、ゲスト OS によって異なります。Fusion 6 以降を使用して作成した仮想マシンは、SATA 仮想ディスクまたは CD ドライブで作成されます。

- [Microsoft Windows 仮想マシンの作成 \(P. 36\)](#)
Microsoft Windows オペレーティング システムをゲスト OS として使用する仮想マシンを作成できます。
- [Fusion での Linux 仮想マシンの作成 \(P. 40\)](#)
Linux ディストリビューションをゲスト OS として使用する仮想マシンを作成できます。
- [Fusion での Mac OS X 仮想マシンの作成 \(P. 42\)](#)
仮想マシンに OS X Server または OS X Client をインストールできます。Fusion は仮想マシンを作成し、OS X のインストーラを開き、VMware Tools をインストールします。VMware Tools は、仮想マシンのパフォーマンスの最適化に必要なドライバをロードします。
- [Mac リカバリ パーティションから仮想マシンを作成 \(P. 42\)](#)
Mac のリカバリ パーティションを使用して、Mac OS X を実行する仮想マシンを作成できます。
- [リモート サーバ上での仮想マシンの作成 \(P. 43\)](#)
リモート サーバ上に仮想マシンを作成できます
- [サポートされているオペレーティング システム用の仮想マシンの作成 \(P. 44\)](#)
ゲスト OS が Fusion でサポートされている場合、簡易インストール オプションを持たないゲスト OS で仮想マシンを作成できます。

- [仮想マシンとしての Boot Camp パーティションのパワーオン](#) (P. 45)

Mac オペレーティングシステムを実行しながら、Boot Camp パーティションの内容を使用できます。そのためには、Fusion を使用して、Boot Camp パーティションを仮想マシンとしてパワーオンします。

- [仮想マシンでの Windows のアクティベーション](#) (P. 45)

仮想マシンの作成、インポート、または移行時に、Windows をアクティベートする必要がある場合があります。

Microsoft Windows 仮想マシンの作成

Microsoft Windows オペレーティングシステムをゲスト OS として使用する仮想マシンを作成できます。

Fusion は、仮想マシンを作成し、デフォルトの Windows インストール オプションを選択して VMware Tools をインストールします。これにより、仮想マシンのパフォーマンスを最適化するために必要なドライバがロードされます。また、Windows 簡易インストールが Mac のホーム フォルダを Windows から共有フォルダとして使用するようにして、仮想マシンと Mac の間でファイルを共有したり、他の共有オプションを利用したりすることもできます。

Windows 簡易インストールを利用できる Windows OS は、次のとおりです。

- Windows 10、Windows 8、Windows 7、Windows Vista、および Windows XP
- Windows Server 2008、Windows Server 2003、Windows 2000 Server

注意 オペレーティングシステムのソフトウェアとプロダクトキーを用意しておく必要があります。Fusion にはオペレーティングシステムやライセンスは付属していません。

仮想マシンでこれらの Windows OS のいずれも使用していない場合、または Windows を使用しているが OS を手動でインストールしたい場合は、サポートされているオペレーティングシステム用の仮想マシンの作成の手順を使用できます。

Windows 簡易インストールを使用した仮想マシンの作成

Microsoft Windows 仮想マシンを作成すると、Fusion の Windows 簡易インストール機能を使用して、あらかじめ用意した Windows オペレーティングシステムをインストールしたり、仮想マシンに VMware Tools をインストールしたりすることができます。

開始する前に

- イメージ ファイルからゲスト OS をインストールする場合は、ISO イメージ ファイルがホストシステムからアクセス可能なディレクトリに格納されていることを確認してください。
- 物理ディスクからゲスト OS をインストールする場合は、Mac にオペレーティングシステムのインストール ディスクを挿入してください。

重要 Fusion には、作成した仮想マシンにインストールするオペレーティングシステムは付属していません。オペレーティングシステムおよび必要なプロダクトキーを用意しておく必要があります。

手順

- 1 [ファイル] - [新規] を選択します。
[新規仮想マシンを作成] アシスタントが起動します。
- 2 [ディスクまたはイメージからインストール] をクリックします。

- 3 ディスクまたは ISO イメージを選択します。

オプション	説明
ISO イメージ ファイル	<p>a [他のディスクまたはディスク イメージを使用] をクリックし、オペレーティングシステムの .iso ファイルを選択してから [開く] をクリックして同ファイルを選定します。</p> <p>b [新規仮想マシンを作成] ウィンドウのリストからファイルを選択し、[続ける] をクリックします。</p>
物理ディスク	<p>Mac に挿入したディスクをリストから選択し、[続ける] をクリックします。</p> <p>ディスクがリストに表示されない場合、[他のディスクまたはディスク イメージを使用] をクリックしてディスクの場所を選択します。</p>

- 4 [Windows 簡易インストール] パネルで [簡易インストールを使用] を選択します。

- 5 以下を入力して [続ける] をクリックします。

- [ディスプレイ名] または [アカウント名]

Windows XP 以前の場合は、[ディスプレイ名] テキストボックスに入力した内容が、Windows ソフトウェアの登録名として [情報] ウィンドウに表示されます。これは Windows ユーザ名ではありません。

- [パスワード] (オプション)

[パスワード] テキストボックスに入力した内容は、Windows 管理者アカウント専用のパスワードになります。

- [Windows プロダクト キー]

Fusion ではプロダクト キーは提供されません。プロダクト キーは、Windows オペレーティングシステム ベンダーからの資料に含まれます。

- 6 [統合] パネルで、新しい仮想マシンで基本的なファイル共有を処理する方法を指定します。

オプション	説明
さらにシームレス	Fusion で Mac 上のドキュメントとアプリケーションが Windows と共有されます。Windows でサポートされる Mac のファイルは Windows で開くことができます。Windows で Mac のドキュメントを変更できるため、Windows アンチウイルス ソフトウェアをインストールして、定期的にアップデートしてください。
さらに分離	Fusion で Mac 上のドキュメントとアプリケーションが Windows と共有されません。Mac と Windows 間でファイルをコピーするには、ドラッグアンドドロップを使用します。

仮想マシンの作成後、これらの設定を変更するには、[仮想マシン] - [設定] の順に選択し、[共有] パネルを使用します。

- 7 [終了] パネルでは、デフォルトの設定を使用して仮想マシンの作成を終了するか、作成を終了する前に設定をカスタマイズできます。

オプション	操作
[終了] パネルに一覧表示されている仕様に 従って仮想マシンを作成	<p>a [完了] をクリックします。</p> <p>b 仮想マシンを保存するフォルダを指定します。デフォルトは <user>/Documents/Virtual Machines フォルダです。</p>
仮想マシンのディスク サイズや他の標準設 定を変更	<p>a [設定のカスタマイズ] をクリックします。</p> <p>b 新しい仮想マシンを保存します。</p> <p>c [設定] ウィンドウで、仮想マシンのディスク サイズ、プロセッサ使用量、取り外し可能デバイス、その他の設定を変更します。</p>

Fusion は新しい仮想マシンを開始し、オペレーティングシステムをインストールして、VMware Tools をインストールします。

Windows 簡易インストールとディスク イメージ ファイルを使用した仮想マシンの作成

Microsoft Windows 仮想マシンを作成すると、Fusion の Windows 簡易インストール機能を使用して、あらかじめ用意した Windows オペレーティング システムをインストールしたり、仮想マシンに VMware Tools をインストールしたりすることができます。

開始する前に

重要 Fusion には、作成した仮想マシンにインストールするオペレーティング システムは付属していません。オペレーティング システムおよび必要なプロダクト キーを用意しておく必要があります。

手順

- 1 [ファイル] - [新規] を選択します。
[新規仮想マシンを作成] アシスタントが起動します。
- 2 [ディスクまたはイメージからインストール] をクリックします。
- 3 [他のディスクまたはディスク イメージを使用] をクリックし、オペレーティング システムの **.iso** ファイルを選択します。[開く] をクリックして、ファイルを確定します。
- 4 [新規仮想マシンを作成] ウィンドウのリストからファイルを選択し、[続ける] をクリックします。
- 5 [Windows 簡易インストール] パネルで [簡易インストールを使用] を選択します。
- 6 以下のように入力して [続ける] をクリックします。
 - [ディスプレイ名] または [アカウント名]
Windows XP 以前の場合は、[ディスプレイ名] フィールドに入力した内容が、Windows ソフトウェアの登録名として [情報] ウィンドウに表示されます。これは Windows ユーザ名ではありません。
 - [パスワード] (オプション)
[[パスワード]] フィールドのエントリは、Windows 管理者アカウント専用のパスワードになります。
 - [Windows プロダクト キー]
Fusion ではプロダクト キーは提供されません。プロダクト キーは、Windows オペレーティング システム ベンダーからの資料に含まれます。
- 7 [統合] パネルで、新しい仮想マシンで基本的なファイル共有を処理する方法を指定します。

オプション	説明
さらにシームレス	Fusion で Mac 上のドキュメントとアプリケーションが Windows と共有されます。Windows でサポートされる Mac のファイルは Windows で開くことができます。Windows で Mac のドキュメントを変更できるため、Windows アンチウイルス ソフトウェアをインストールして、定期的にアップデートしてください。
さらに分離	Fusion で Mac 上のドキュメントとアプリケーションが Windows と共有されません。Mac と Windows 間でファイルをコピーするには、ドラッグアンドドロップを使用します。

仮想マシンの作成後、これらの設定を変更するには、[仮想マシン] - [設定] - [共有] を選択します。

- 8 [終了] パネルでは、デフォルトの設定を使用して仮想マシンの作成を終了するか、作成を終了する前に設定をカスタマイズできます。

オプション	操作
[終了] パネルに一覧表示されている仕様に従って仮想マシンを作成	a [完了] をクリックします。 b 仮想マシンを保存するフォルダを指定します。デフォルトは <user>/Documents/Virtual Machines フォルダです。
仮想マシンのディスク サイズや他の標準設定を変更	a [設定のカスタマイズ] をクリックします。 b 新しい仮想マシンを保存します。 c [設定] ウィンドウで、仮想マシンのディスク サイズ、プロセッサ使用量、取り外し可能デバイス、その他の設定を変更します。

Fusion は新しい仮想マシンを開始し、オペレーティングシステムをインストールして、VMware Tools をインストールします。

Windows 仮想マシンへの McAfee AntiVirus Plus のインストール

Mac 上で Windows を安全に安心して使用できるように、VMware は、アンチ ウィルス ソフトウェアの実行をお勧めします。

VMware は McAfee, Inc. と提携しており、Fusion のユーザーに McAfee AntiVirus[®] Plus の 90 日間無償のサブスクリプションを提供します。

開始する前に

McAfee AntiVirus Plus は次のゲスト OS でサポートされています。

- Windows 10 (32 および 64 ビット)
- Windows 8 (32 および 64 ビット)
- Windows 7 SP1 x64
- Windows 7 SP1 x86
- Windows Vista SP2 x64
- Windows Vista SP2 x86
- Windows XP SP3
- Windows 2000 Professional SP4

手順

- 1 アンチウィルス ソフトウェアのインストーラにアクセスします。
 - VMware Tools のインストール後に仮想マシンを作成する場合、McAfee AntiVirus Plus をインストールするよう求めるダイアログが表示されます。[インストール]をクリックして McAfee AntiVirus Plus のダウンロードを開始します。
 - 既存の Windows 仮想マシンで、[仮想マシン] - [McAfee AntiVirus Plus をインストール] を選択します。McAfee のインストール ウィザードが表示されます。
- 2 [McAfee Security Center] ウィンドウで [次へ] をクリックして、Windows 仮想マシンにアンチウィルス ソフトウェアをインストールします。

Fusion での Linux 仮想マシンの作成

Linux ディストリビューションをゲスト OS として使用する仮想マシンを作成できます。

Fusion は、仮想マシンを作成し、デフォルトの Linux インストール オプションを選択して VMware Tools をインストールします。これにより、仮想マシンのパフォーマンスを最適化するために必要なドライバがロードされます。また、Linux 簡易インストールが Mac のホーム フォルダを Linux から共有フォルダとして使用するようにして、仮想マシンと Mac の間でファイルを共有することもできます。

Linux 簡易インストールは、次のオペレーティング システムで使用できます。

- Ubuntu 7.10 以降
- Ubuntu Server Edition 8.10 以降
- Red Hat Enterprise Linux 3 以降
- SUSE Linux Enterprise Desktop/Server 10 以降
- OpenSUSE 11.3 以降

仮想マシンでこれらの Linux OS のいずれも使用していない場合、または Linux を使用しているが OS を手動でインストールしたい場合は、サポートされているオペレーティング システム用の仮想マシンの作成の手順を使用できます。

Linux 簡易インストールとインストール CD を使用した仮想マシンの作成

Linux 仮想マシンを作成すると、Fusion の Linux 簡易インストール機能を使用して、あらかじめ用意した Linux オペレーティング システムをインストールしたり、仮想マシンに VMware Tools をインストールしたりすることができます。

開始する前に

オペレーティング システムのインストール イメージを取得する必要があります。Fusion には、作成した仮想マシンにインストールするオペレーティング システムは付属していません。

手順

- 1 [ファイル] - [新規] を選択します。
[新規仮想マシンを作成] アシスタントが起動します。
- 2 [ディスクまたはイメージからインストール] をクリックします。
- 3 オペレーティング システムが正しい場合は、[このオペレーティング システムをインストール] が選択されていることを確認し、[続ける] をクリックして、[Linux 簡易インストール] パネルに移動します。
- 4 [Linux 簡易インストール] パネルで [簡易インストールを使用] を選択します。
 - a [ディスプレイ名]、[アカウント名]、および [パスワード] を入力します。
 - b [仮想マシンからホーム フォルダにアクセスする] を選択すると、Mac のホーム フォルダが共有フォルダとして設定されます。これにより、仮想マシンと Mac との間でファイルを共有できるようになります。
- 5 (オプション) ホーム フォルダにアクセス可能にするよう選択した場合は、仮想マシンを [読み取り専用] または [読み取り/書き込み] のどちらにするかを選択します。

- 6 [終了] パネルでは、デフォルトの設定を使用して仮想マシンの作成を終了するか、作成を終了する前に設定をカスタマイズできます。

オプション	操作
[終了] パネルに一覧表示されている仕様に従って仮想マシンを作成	a [完了] をクリックします。 b 仮想マシンを保存するフォルダを指定します。デフォルトは <code><user>/Documents/Virtual Machines</code> フォルダです。
仮想マシンのディスク サイズや他の標準設定を変更	a [設定のカスタマイズ] をクリックします。 b 新しい仮想マシンを保存します。 c [設定] ウィンドウで、仮想マシンのディスク サイズ、プロセッサ使用量、取り外し可能デバイス、その他の設定を変更します。

Fusion は新しい仮想マシンを開始し、オペレーティングシステムをインストールして、VMware Tools をインストールします。

Linux 簡易インストールとイメージ ファイルを使用した仮想マシンの作成

Linux 仮想マシンを作成すると、Fusion の Linux 簡易インストール機能を使用して、あらかじめ用意した Linux オペレーティングシステムをインストールしたり、仮想マシンに VMware Tools をインストールしたりすることができます。

開始する前に

オペレーティングシステムのインストール イメージを取得する必要があります。Fusion には、作成した仮想マシンにインストールするオペレーティングシステムは付属していません。

手順

- [ファイル] - [新規] を選択します。
[新規仮想マシン アシスタント] が起動します。
- [ディスクを使用せずに続行] をクリックし、[インストール メディア] パネルに移動します。
- [インストール メディア] パネルで、[オペレーティングシステムのインストール ディスクまたはイメージを使用] をクリックします。
- ポップダウン メニューを使用して、オペレーティングシステムの **.iso** ファイルを参照します。
- [オペレーティングシステム] パネルで、新しい仮想マシンのオペレーティングシステムとバージョンが正しいことを確認するか、ポップダウン メニューから正しいオペレーティングシステムとバージョンを選択します。
- [続ける] をクリックします。
- [Linux 簡易インストール] パネルで [簡易インストールを使用] を選択します。
 - [ディスプレイ名]、[アカウント名]、および [パスワード] を入力します。
 - [仮想マシンからホーム フォルダにアクセスする] を選択すると、Mac のホーム フォルダが共有フォルダとして設定されます。これにより、仮想マシンと Mac との間でファイルを共有できるようになります。
- ホーム フォルダをアクセス可能にするよう選択した場合は、仮想マシンを [読み取り専用] または [読み取り/書き込み] のどちらにするかを選択します。

- 9 [終了] パネルでは、デフォルトの設定を使用して仮想マシンの作成を終了するか、作成を終了する前に設定をカスタマイズできます。

オプション	操作
[終了] パネルに一覧表示されている仕様に従って仮想マシンを作成	a [完了] をクリックします。 b 仮想マシンを保存するフォルダを指定します。デフォルトは <code><user>/Documents/Virtual Machines</code> フォルダです。
仮想マシンのディスク サイズや他の標準設定を変更	a [設定のカスタマイズ] をクリックします。 b 新しい仮想マシンを保存します。 c [設定] ウィンドウで、仮想マシンのディスク サイズ、プロセッサ使用量、取り外し可能デバイス、その他の設定を変更します。

Fusion は新しい仮想マシンを開始し、オペレーティングシステムをインストールして、VMware Tools をインストールします。

Fusion での Mac OS X 仮想マシンの作成

仮想マシンに OS X Server または OS X Client をインストールできます。Fusion は仮想マシンを作成し、OS X のインストーラを開き、VMware Tools をインストールします。VMware Tools は、仮想マシンのパフォーマンスの最適化に必要なドライバをロードします。

Fusion で作成した OS X 仮想マシンは、Intel プロセッサを使用するすべての Apple ブランド ハードウェアで実行できます。Apple のライセンス契約では、OS X の仮想化が許可される状況が規定されています。Fusion でもこれらの条件は変更されておらず、Apple 以外のハードウェアで OS X を有効にすることはできません。Workstation Pro などの別の VMware 製品で Mac OS 仮想マシンを使用することはできません。

Fusion では、ゲスト OS に対して次のバージョンの Mac OS X Server と Mac OS X クライアントがサポートされます。

- Mac OS X Server 10.5、10.6、10.7、10.8、10.9、10.10、10.11
- Mac OS X クライアント 10.7、10.8、10.9、10.10、10.11

Fusion では、Mac OS X 仮想マシンの次の機能はサポートされません。

- ホスト Mac とゲスト Mac の間のドラッグ アンド ドロップ
- マルチ ディスプレイ
- 3D グラフィックスの高速化
- ユニティ モード

オペレーティングシステムをインストールするには、サポートされるオペレーティングシステム用の仮想マシンの作成手順を使用してください。[「サポートされているオペレーティングシステム用の仮想マシンの作成 \(P. 44\)」](#) を参照してください。

Mac リカバリ パーティションから仮想マシンを作成

Mac のリカバリ パーティションを使用して、Mac OS X を実行する仮想マシンを作成できます。

開始する前に

- このタイプの仮想マシンを作成するには、Mac にリカバリ パーティションが必要です。
- Mac OS X 10.9 以降が必要です。

手順

- 1 [ファイル] - [新規] を選択します。
[新規仮想マシンを作成] アシスタントが起動します。

- 2 [詳細オプション]-[リカバリ パーティションから OS X をインストール] をクリックします。
- 3 リカバリ パーティションを選択し [続ける] をクリックします。
複数のリカバリ パーティションがある場合、パーティションのリストが表示されます。
- 4 [終了] パネルでは、デフォルトの設定を使用して仮想マシンの作成を終了するか、作成を終了する前に設定をカスタマイズできます。

オプション	操作
[終了] パネルに一覧表示されている仕様に従って仮想マシンを作成	<ol style="list-style-type: none"> a [完了] をクリックします。 b 仮想マシンを保存するフォルダを指定します。デフォルトは <user>/Documents/Virtual Machines フォルダです。リカバリパーティションと同じディスクに仮想マシンを保存する必要はありません。
仮想マシンのディスク サイズや他の標準設定を変更	<ol style="list-style-type: none"> a [設定のカスタマイズ] をクリックします。 b 新しい仮想マシンを保存します。リカバリ パーティションと同じディスクに仮想マシンを保存する必要はありません。 c [設定] ウィンドウで、仮想マシンのディスク サイズ、プロセッサ使用量、取り外し可能デバイス、その他の設定を変更します。

リモート サーバ上での仮想マシンの作成

リモート サーバ上に仮想マシンを作成できます

開始する前に

- 仮想マシンを作成するサーバへのログイン認証情報があること。
- このサーバが、仮想マシン ライブラリで定義されていること。
- 仮想マシンを格納できるだけの十分な領域がサーバにあること。
- リモート サーバが VMware Workstation Pro、VMware ESXi、または VMware vCenter Server を実行していること。

重要 Fusion には、作成した仮想マシンにインストールするオペレーティングシステムは付属していません。オペレーティングシステムおよび必要なプロダクト キーを用意しておく必要があります。

手順

- 1 [ファイル]-[新規] を選択します。
[新規仮想マシンを作成] アシスタントが起動します。
- 2 [リモート サーバで仮想マシンを作成します] をクリックします。
- 3 [続ける] をクリックします。
- 4 [サーバを選択] ウィンドウのリストからサーバを選択し、[続ける] をクリックします。
- 5 [ホストおよびデータストアを選択] ウィンドウからホストとデータストアを選択し、[続ける] をクリックします。
- 6 (オプション) サーバでフォルダがサポートされている場合は、仮想マシンのフォルダの位置を選択し、[続ける] をクリックします。
- 7 [ハードウェア パージョンを選択します] ドロップダウン メニューからハードウェアのパージョンを選択し、[続ける] をクリックします。
- 8 仮想マシンのゲスト OS を選択し、[続ける] をクリックします。

- 9 新しい仮想ディスクを作成して仮想ディスクを設定するか、既存の仮想ディスクを使用します。新しい仮想ディスクを作成する場合は、ディスク サイズ スライダを使用して仮想ディスクのサイズを指定し、バス タイプを指定します。[続ける] をクリックします。

[終了] ウィンドウが表示されます。

- 10 (オプション) 新しいリモート仮想マシンの名前を変更します。
- 11 [完了] をクリックします。

新しいリモート仮想マシンが [仮想マシンのライブラリ] のリモート サーバの下に表示されます。

サポートされているオペレーティング システム用の仮想マシンの作成

ゲスト OS が Fusion でサポートされている場合、簡易インストール オプションを持たないゲスト OS で仮想マシンを作成できます。

開始する前に

- イメージ ファイルからゲスト OS をインストールする場合は、ISO イメージ ファイルがホスト システムからアクセス可能なディレクトリに格納されていることを確認してください。
- 物理ディスクからゲスト OS をインストールする場合は、Mac にオペレーティング システムのインストール ディスクを挿入してください。

重要 Fusion には、作成した仮想マシンにインストールするオペレーティング システムは付属していません。オペレーティング システムおよび必要なプロダクト キーを用意しておく必要があります。

手順

- 1 [ファイル] - [新規] を選択します。
[新規仮想マシンを作成] アシスタントが起動します。
- 2 [ディスクまたはイメージからインストール] をクリックします。
- 3 オペレーティング システムのインストール CD を Mac に挿入します。
オペレーティング システムのインストール ディスク イメージ ファイル (ISO) または既存の仮想ディスクを使用している場合、[他のディスクまたはディスク イメージを使用] をクリックしてファイルの場所を選択します。
- 4 [続ける] をクリックします。
Windows または Linux オペレーティング システムをインストールする場合は、[簡易インストール] パネルが表示されます。
- 5 (オプション) [簡易インストールを使用] の選択を解除し、[続ける] をクリックしてこのパネルをスキップします。
- 6 [終了] パネルでは、デフォルトの設定を使用して仮想マシンの作成を終了するか、作成を終了する前に設定をカスタマイズできます。

オプション	操作
[終了] パネルに一覧表示されている仕様に従って仮想マシンを作成	a [完了] をクリックします。
	b 仮想マシンを保存するフォルダを指定します。デフォルトは <user>/Documents/Virtual Machines フォルダです。
仮想マシンのディスク サイズや他の標準設定を変更	a [設定のカスタマイズ] をクリックします。
	b 新しい仮想マシンを保存します。
	c [設定] ウィンドウで、仮想マシンのディスク サイズ、プロセッサ使用量、取り外し可能デバイス、その他の設定を変更します。

次に進む前に

仮想マシンにオペレーティング システムをインストールしたら、VMware Tools をインストールします。

仮想マシンとしての Boot Camp パーティションのパワーオン

Mac オペレーティングシステムを実行しながら、Boot Camp パーティションの内容を使用できます。そのためには、Fusion を使用して、Boot Camp パーティションを仮想マシンとしてパワーオンします。

Boot Camp は、Intel ベースの Mac で Windows オペレーティングシステムを実行できるようにする Apple のソフトウェアです。Boot Camp を使用するには、起動時に Mac または Windows のどちらを起動するかを選択する必要があります。Boot Camp は、ハードディスクに Mac と Windows の個別のパーティションを作成して、デュアルブート環境を作成します。Windows Boot Camp パーティションを Fusion 仮想マシンとして使用すると、次のことを実行できます。

- Boot Camp 仮想マシンと Mac を、再起動や両者間の切り替えなしで使用できます。
- 共有フォルダ、ファイルのドラッグ、テキストのカットアンドペーストを使用して、Boot Camp 仮想マシンと Mac の間でファイルを共有できます。

注意 VMware Tools をインストールしないと、Windows の再アクティベーションの問題が発生することがあります。この場合、Boot Camp 仮想マシン内で Windows を再アクティベートし、その後本来の Boot Camp パーティションを起動すると、Windows を再アクティベートするよう要求されます。また、本来の Boot Camp パーティションの Windows を再アクティベートした後で Boot Camp 仮想マシンをパワーオンすると、仮想マシンに対して Windows の再アクティベートが要求されます。この問題は、VMware Tools をインストールすることで解決します。

開始する前に

この手順を開始する前に、Boot Camp パーティションが存在している必要があります。

Boot Camp パーティションを仮想マシンとして使用するには、**管理者権限**が必要です。

手順

- 1 [ウィンドウ]-[仮想マシンのライブラリ] を選択します。
- 2 [仮想マシンのライブラリ] ウィンドウの仮想マシンのリストで、Fusion が検出したパーティションを示す Boot Camp のサムネイルをクリックします。
- 3 (オプション) Mac のパスワードを入力し、Boot Camp パーティションにアクセスします。
Fusion は Boot Camp パーティションを使用する仮想マシンを作成し、Windows を起動します。
- 4 画面の指示に従い、指示に応じて仮想マシンを再起動します。

Boot Camp 仮想マシンから Windows が起動した後、Fusion は VMware Tools のインストールを開始します。VMware Tools は仮想マシンのすべての機能を有効にし、Boot Camp パーティションを仮想マシンとして使用する際のパーティションのパフォーマンスを最適化します。
- 5 VMware Tools のインストールが完了したら、コンピュータを再起動します。

次に進む前に

VMware Tools のインストール後、Boot Camp 仮想マシンを初めてパワーオンするときには、Windows を再アクティベートしておく必要があります。

仮想マシンでの Windows のアクティベーション

仮想マシンの作成、インポート、または移行時に、Windows をアクティベートする必要がある場合があります。

コンピュータに Windows をインストールしたら、それを使用するためにアクティベートする必要があります。Windows をアクティベートするには、インターネットを使用するか、または Microsoft サポートとの電話によって行います。Windows オペレーティングシステムは起動すると、最初にインストールされた同じハードウェアで実行されているかどうかを確認します。ハードウェアが変更されている場合、Windows オペレーティングシステムを再アクティベートする必要があります。

Windows を新しい仮想マシンにゲスト OS としてインストールする場合、物理コンピュータにインストールする場合と同じようにアクティベートする必要があります。別のソースから仮想マシンをインポートした場合、Boot Camp パーティションを仮想マシンとして実行した場合、または物理 PC を仮想マシンに移行した場合、Windows は仮想ハードウェアが異なるものと認識します。

お持ちの Windows オペレーティングシステムのライセンスのタイプによって、Fusion 仮想マシンで Windows を使い始める際のアクティベーションの方法に影響することがあります。

- OEM ライセンスの場合、Windows は製造元によってロードされたハードウェアに直接結び付けられています。Windows のほとんどのプレインストールバージョンには OEM ライセンスがあります。通常、OEM ライセンスは別のコンピュータまたは仮想マシンには転送できません。Fusion の [PC を移行する] 機能を使用してこれらのタイプのシステムのいずれかを仮想マシンに移行する場合は、Microsoft から別のライセンス（またはプロダクト キー）を購入することが必要になる場合があります。プロダクト キーがもう 1 つ必要な場合は、現在仮想マシンに存在するオペレーティングシステムをアクティベートするために Microsoft サポートに連絡するときに、Microsoft の担当者から入手できます。
- Windows をベンダーから購入した場合の製品ライセンスの場合は、必要なだけ何回でもプラットフォームを変更できます。この場合、Windows を再アクティベートするには、インターネットを使用するか、または Microsoft サポートとの電話によって行うことができます。
- エンタープライズ ライセンスの場合は、オペレーティングシステムを自由に移動できます。

開始する前に

Windows をアクティベートする前に、仮想マシンに VMware Tools をインストールします。VMware Tools はアクティベーション キーを追跡します。VMware Tools がインストールされていないと、仮想マシンを起動するたびに、Windows を再アクティベートする必要があります。

手順

- ◆ Windows をオンラインまたは電話でアクティベートします。

Windows [スタート] メニューの [ヘルプとサポート] 項目から、そのオペレーティングシステムのバージョンのアクティベーションに関する特定の情報を参照できます。

次に進む前に

アクティベーションについての質問がある場合は、Microsoft に問い合わせてください。

リモート サーバへの仮想マシンのアップロード

リモート サーバに仮想マシンをアップロードすると、Fusion Pro は選択したリモート ホストおよびデータストアに仮想マシンをコピーします。元の仮想マシンは、ホスト システムに残ります。

開始する前に

次の条件が満たされていることを確認します。

- 仮想マシンをアップロードするサーバへのログイン認証情報があること。
- このサーバが、仮想マシン ライブラリで定義されていること。
- 仮想マシンを格納できるだけの十分な領域がサーバにあること。
- リモート サーバが VMware Workstation Pro、VMware ESX、または VMware vCenter Server を実行していること。
- 仮想マシンは暗号化されていません。暗号化された仮想マシンはアップロードできません。
- 仮想マシンがパワーオンまたはサスペンドされていないこと。仮想マシンはパワーオフされている必要があります。

手順

- 1 [ファイル] - [サーバに接続] を選択します。

- 2 ホスト サーバの名前を入力するか、[最近使用したサーバ] をクリックして、リストからサーバを選択します。
- 3 ログイン認証情報を入力して、[接続] をクリックします。
- 4 [仮想マシンのライブラリ] から仮想マシンを選択します。
- 5 仮想マシンをサーバにドラッグします。
- 6 [仮想マシンのアップロード] ダイアログ ボックスで、ホストとデータストア フォルダまたは共有フォルダを選択します。
- 7 [アップロード] をクリックします。

VMware vCloud Air への仮想マシンのアップロード

VMware® vCloud® Air™ に仮想マシンをアップロードする場合、Fusion Pro は VMware vCloud Air サーバおよび選択した仮想データ センターに仮想マシンをコピーします。元の仮想マシンは、ホスト システムに残ります。

開始する前に

- 仮想マシンが暗号化されていないことを確認します。暗号化された仮想マシンはアップロードできません。
- リモート ホストが仮想マシンのハードウェア バージョンをサポートしていることを確認します。リモート ホストがそのハードウェア バージョンをサポートしていない場合、エラー メッセージが表示されます。
- 仮想マシンがオフになっていることを確認します。
- VMware vCloud Air へのログイン認証情報があることを確認します。

注意 Fusion では、VMware vCloud Air に対して Windows 仮想マシンのアップロードのみがサポートされます。

VMware vCloud Air の詳細については、『vCloud Air - Virtual Private Cloud OnDemand ユーザー ガイド』を参照してください。

手順

- 1 [ファイル] - [VMware vCloud Air に接続]を選択します。
- 2 VMware vCloud Air サーバのユーザー名とパスワードを入力し、[接続] をクリックします。
- 3 [仮想マシンのライブラリ] から仮想マシンを選択します。
- 4 仮想マシンをサーバにドラッグします。
- 5 仮想マシンの新しい名前を入力します。
- 6 アップロードされた仮想マシンを格納する仮想データ センターを選択します。
- 7 [アップロード] をクリックして、仮想データ センターに仮想マシンをアップロードします。

リモート サーバからの仮想マシンのダウンロード

ユーザーは、リモート サーバやホストしているインスタンスから仮想マシンをダウンロードできます。

開始する前に

次の条件が満たされていることを確認します。

- 仮想マシンをダウンロードするサーバへのログイン認証情報があること。
- このサーバが、仮想マシン ライブラリで定義されていること。
- 仮想マシンを格納できるだけの十分な領域が Mac ホストにあること。
- リモート サーバが VMware Workstation Pro、VMware ESX、または VMware vCenter Server を実行していること。

- 仮想マシンがパワーオンまたはサスペンドされていないこと。仮想マシンはパワーオフされている必要があります。

手順

- 1 [ファイル] - [サーバに接続] を選択します。
- 2 ホスト サーバの名前を入力するか、[最近使ったサーバ] アイコンをクリックして、最近アクセスしたサーバのリストからサーバを選択します。
- 3 ログイン認証情報を入力して、[接続] をクリックします。
- 4 リモート サーバから仮想マシンを選択します。
- 5 仮想マシンを仮想マシン ライブラリにドラッグします。
- 6 [[保存] をクリックします。

既存の物理 PC から仮想マシンへの移行

既存の PC を Mac に移行できます。Fusion が PC を仮想マシンとして作り直すので、PC のアプリケーションとファイルを引き続き使用できます。

開始する前に

- Windows XP から Windows 10 までの Windows オペレーティングシステムで [PC を移行する] がサポートされていること。
- Mac で Mac OS X 10.9 以降が実行されていること。

手順

- 1 [PC からのファイル転送を受け付けるための Mac の設定](#) (P. 48)
仮想マシンを作成するために必要なファイルの物理 PC からの転送を許可するには、Mac で共有およびファイアウォールシステムの環境設定を行う必要があります。
- 2 [移行のための PC への接続](#) (P. 49)
PC を移行するために使用する接続の種類を選択できます。
- 3 [移行前の Windows Vista 以降の UAC の無効化](#) (P. 49)
PC から Fusion への移行を成功させるには、PC 移行機能を使用する前に、ユーザー アカウント制御 (UAC) を無効にする必要があります。
- 4 [Fusion PC Migration Agent の PC へのインストールと実行](#) (P. 50)
Mac が物理 PC に接続して移行を開始できるようにするためには、Fusion PC Migration Agent を PC にインストールする必要があります。
- 5 [Mac での移行アシスタントの実行](#) (P. 50)
移行アシスタントは、物理 PC に接続し、Mac での仮想マシンの作成に必要なファイルの変換と転送を実行します。
- 6 [移行する仮想マシンに VMware Tools がインストールされていることの確認](#) (P. 51)
ゲスト OS のパフォーマンスを向上させるには、VMware Tools をインストールします。

PC からのファイル転送を受け付けるための Mac の設定

仮想マシンを作成するために必要なファイルの物理 PC からの転送を許可するには、Mac で共有およびファイアウォールシステムの環境設定を行う必要があります。

手順

- 1 Apple メニューで [システム環境設定] を選択し、[インターネットとネットワーク] セクションで [共有] をクリックします。
- 2 [ファイル共有] を選択し、[オプション] をクリックします。

- 3 適切なアカウントの [SMB を使用してファイルやフォルダを共有] を選択し、[完了] をクリックします。
- 4 [すべてを表示] をクリックして [システム環境設定] に戻ります。
- 5 [パーソナル] セクションで [セキュリティ] をクリックし、[ファイアウォール] をクリックして [ファイアウォール] パネルに移動します。
- 6 SMB ファイル共有に対する受信接続が許可されていることを確認します。
- 7 [システム環境設定] ウィンドウを閉じます。

次に進む前に

Mac を物理 PC に接続する方法を決定します。

移行のための PC への接続

PC を移行するために使用する接続の種類を選択できます。

直接接続、有線ネットワーク、またはワイヤレス ネットワークを経由して PC を移行できます。

手順

- ◆ 使用する接続を実装します。

オプション	説明
直接接続	イーサネット ケーブルまたは FireWire ケーブルを使用して PC を直接 Mac に接続します。これは最も高速な接続方法です。
有線ネットワーク	イーサネット ケーブルを使用して、PC と Mac を同じネットワークに接続します。
ワイヤレス ネットワーク	PC と Mac をワイヤレス ネットワークに接続します。ワイヤレス ネットワークを経由した移行処理は非常に低速です。 ワイヤレス ネットワーク経由で移行する場合、物理 PC 上のスクリーン セーバーの待ち時間を、移行に必要な時間よりも長く設定します。PC のデスクトップ上で右クリックし、[プロパティ] を選択します。[スクリーン セーバー] タブを選択し、[待ち時間] を 9999 に設定し、[OK] をクリックします。

次に進む前に

物理 PC が Windows Vista、Windows 7、Windows 8、または Windows 10 を実行している場合は、移行する前に UAC を無効にします。または、PC Migration Agent を物理 PC にロードします。

移行前の Windows Vista 以降の UAC の無効化

PC から Fusion への移行を成功させるには、PC 移行機能を使用する前に、ユーザー アカウント制御 (UAC) を無効にする必要があります。

手順

- 1 PC で [コントロール パネル] を開きます。
- 2 [ユーザー アカウント] を選択します。
- 3 [ユーザー アカウント制御設定の変更] を選択し、スライダを [通知しない] まで移動します。
- 4 PC を再起動します。

次に進む前に

Fusion PC Migration Agent を物理 PC にインストールします。

Fusion PC Migration Agent の PC へのインストールと実行

Mac が物理 PC に接続して移行を開始できるようにするためには、Fusion PC Migration Agent を PC にインストールする必要があります。

開始する前に

Windows PC にパスワードが設定されていない場合は、パスワードを作成してから移行処理を開始する必要があります。パスワードを作成するには、[コントロール パネル] の [ユーザー アカウント] に移動します。

移行は、管理者アカウントで実行する必要があります。

手順

- 1 Windows 物理 PC の電源オプションを設定して、モニタとハードディスクが自動的にオフになったり、システムがスタンバイになったりしないようにします。
 - a [コントロール パネル] で [電源オプション] をクリックします。
 - b [電源設定] パネルで [モニターの電源を切る]、[ハード ディスクの電源を切る]、および [システム スタンバイ] を [なし] に設定します。
- 2 (オプション) ワイヤレス接続経由で移行する場合、物理 PC のスクリーン セーバーの待ち時間を、移行に要する時間よりも長く設定します。
 - a PC のデスクトップ上で右クリックし、[プロパティ] を選択します。
 - b [スクリーン セーバー] タブを選択し、[待ち時間] を **9999** に設定し、[OK] をクリックします。
- 3 Fusion 製品ダウンロード ページの [ドライバおよびツール] から VMware Fusion PC Migration Agent をダウンロードします。
- 4 インストーラ ファイルを実行します。
- 5 インストール ウィザードの開始ページで [次へ] をクリックし、使用許諾契約書のページで [使用許諾契約書の条項に同意します] をクリックして、[次へ] をクリックします。
- 6 PC Migration Agent を保存するフォルダを選択し、[次へ] をクリックします。
- 7 [インストール] をクリックします。
- 8 [完了] をクリックします。
- 9 PC を再起動します。

PC に [VMware Fusion PC Migration Agent] ウィンドウが表示され、Mac とその PC の間の通信を開くために必要な 4 桁のパスコードが表示されます。

パスコードはウィンドウが開いているときにのみ有効です。ウィンドウを閉じて Agent を再起動すると、または PC を再起動すると、新しいパスコードに置き換わります。

次に進む前に

Mac の Migration Assistant が通信できるように、PC Migration Agent を実行したままにしてください。[「Mac での移行アシスタントの実行 \(P. 50\)」](#) を参照してください。

Mac での移行アシスタントの実行

移行アシスタントは、物理 PC に接続し、Mac での仮想マシンの作成に必要なファイルの変換と転送を実行します。

開始する前に

- Mac と PC が同じネットワーク上に存在し、移行中はパワーオン状態になっている必要があります。ワイヤレス ネットワークを使用しても PC を移行できますが、ネットワーク ケーブルで Mac と PC を接続するとプロセスが大幅に速くなります。

- PC Migration Agent が PC で実行していて、4桁のパスコードを表示している必要があります。

手順

- 1 [ファイル] - [PC を移行する] を選択します。
移行アシスタントが表示されます。
- 2 [続ける] をクリックします。
[PC に接続する] パネルが表示されます。
- 3 PC の PC Migration Agent で表示されている 4 桁のパスコードを入力し、[続ける] をクリックします。
- 4 PC のユーザー名とパスワードを入力し、[続ける] をクリックします。
- 5 新しい仮想マシンを Mac に保存するかどうかを指定します。
Fusion は、デフォルトでは <user>/書類/仮想マシン フォルダに仮想マシンを保存します。[選択] をクリックして Finder を使用することで、場所を変更できます。
- 6 [続ける] をクリックして移行を開始します。
アシスタントに進行状況バーと推定残り時間が表示されます。
- 7 [完了] をクリックします。

PC が仮想マシンのライブラリからアクセス可能な仮想マシンに複製されます。

次に進む前に

VMware Tools が仮想マシンにインストールされていることを確認します。

移行する仮想マシンに VMware Tools がインストールされていることの確認

ゲスト OS のパフォーマンスを向上させるには、VMware Tools をインストールします。

注意 場合によっては、VMware Tools のインストールが完了する前に変更の検出が終了し、再起動を求めるダイアログが表示されることがあります。VMware Tools によって要求されるまで、再起動しないでください。

開始する前に

移行アシスタントが実行されて完了したがパワーオフされており、仮想マシンはシングル ウィンドウ モードになっています。

手順

- 1 仮想マシンを起動します。
VMware Tools がインストールを開始します。
- 2 (オプション) Windows にログインします。
- 3 (オプション) Windows 8、Windows 7 および Windows Vista で VMware Tools のインストールを確認できるようにします。
Windows 8、Windows 7 および Windows Vista では、VMware Tools のインストール ダイアログは自動的に表示されません。
 - a  をクリックします。
 - b [対話型サービスの検出] ウィンドウで [メッセージの表示] をクリックします。
- 4 VMware Tools によって要求されたら、仮想マシンを再起動します。

次に進む前に

VMware Tools のインストールが正常に完了しない場合、VMware Tools を手動でインストールします。[\[VMware Tools のインストールと使用 \(P. 55\)\]](#) を参照してください。

パワーオンするときに、新しい仮想マシンで Windows オペレーティングシステムの再アクティベートが必要になる場合があります。

Windows 仮想マシンのインポート

Parallels Desktop、Microsoft Virtual PC、および Open Virtualization Format (OVF) を使用している仮想マシンで作成された Fusion 仮想マシンをインポートできます。

Fusion は、Parallels、Microsoft Virtual PC、または OVF で作成された仮想マシンをインポートできます。

Parallels または Virtual PC の仮想マシンをインポートすると、Fusion は元の仮想マシンに基づいて VMware 仮想マシンを作成します。インポート プロセスは非破壊的方法で実行されるため、元のソース仮想マシンは、そのソース仮想マシンの作成に使用した製品で引き続き使用することができます。

Fusion は、Boot Camp パーティションの内容を仮想マシンとしてインポートすることもできます。これにより、そのパーティションに基づいた完全に新しい VMware 仮想マシンが作成されます。これは個別のエンティティであり、[\[仮想マシンとしての Boot Camp パーティションのパワーオン \(P. 16\)\]](#) で説明されている仮想マシンのようにパーティションには結び付けられません。その後、Boot Camp パーティションを削除して領域を再利用できます。これにより、そのドライブは単一ボリュームにリストアされます。

サポートされているインポート可能なオペレーティング システム

ゲスト OS とは、仮想マシン内で実行するシステムのことです。Fusion は、一部のオペレーティング システムを搭載した Parallels 仮想マシンおよび Virtual PC 仮想マシンのインポートをサポートしています。

Fusion は、以下のオペレーティング システムのインポートをサポートしています。

- Microsoft Windows 10
- Microsoft Windows 8
- Microsoft Windows 7
- Microsoft Windows Vista
- Microsoft Windows XP Service Pack 3
- Microsoft Windows XP Service Pack 2

インポートの前に仮想マシンをパワーオフする必要があります。

ボリュームライセンス キーでライセンスされている Windows でない場合は、Fusion 内で Windows を起動したときに再アクティベートが必要となることがあります。

インポートが設定に与える影響

設定および仮想ハードウェアによっては、インポートした仮想マシンの変更が必要になる場合があります。

インポートされた VMware 仮想マシンには、ハードウェアに依存する一部のドライバおよび場合によってはマップされたドライブ文字を除き、ソース仮想マシンのディスク状態が完全にコピーされています。インポートされた仮想マシンは、IDE または SCSI 仮想ディスクで作成されます。インポート プロセスが完了すれば、このディスクを SATA に手動で変更できます。

ソース コンピュータからの設定

ソース コンピュータからの以下の設定は同じ状態が保たれます。

- オペレーティング システムの設定（コンピュータ名、セキュリティ ID、ユーザー アカウント、プロファイルと環境設定など）

- アプリケーションおよびデータ ファイル
- 各ディスク パーティションのボリューム シリアル番号

ソースおよびターゲットの仮想マシンまたはシステム イメージは同じ識別情報（名前、SID など）を持っているため、同じネットワーク上で両方のマシンを実行すると競合が発生する可能性があります。ソースの仮想マシンまたはシステム イメージを再配布する場合は、ソースとターゲットの仮想マシンまたはシステム イメージが同じネットワーク上で同時に実行されていないことを確認してください。

たとえば、Fusion Importer を使用して、VMware 仮想マシンとしての Parallels または Virtual PC 仮想マシンの実行可能性をテストするときに、VMware ではない元のマシンをあらかじめ削除していなかった場合は、重複 ID の問題をまず解決する必要があります。

仮想ハードウェアへの変更

移行されたアプリケーションの設定ファイルとデータ ファイルはソース仮想マシンと同じ場所に置かれるため、ほとんどのアプリケーションはソース仮想マシン内で正常に動作するはずです。基盤ハードウェアに固有の特性（シリアル番号やデバイスのメーカーなど）に依存するアプリケーションは、動作しないことがあります。

仮想マシンのインポート後にトラブルシューティングを行う場合は、次のようなハードウェア変更が行われていないか注意してみてください。

- CPU モデルとシリアル番号（アクティベートされている場合）が移行後に変わっている可能性があります。CPU モデルとシリアル番号は、VMware 仮想マシンをホストする物理コンピュータに対応しています。
- イーサネット アダプタの MAC アドレスが異なっている可能性があります（AMD PCNet または VMXnet）。各インターフェイスの IP アドレスは個別に再設定する必要があります。
- グラフィック カードが異なっている可能性があります（VMware SVGA カード）。
- ディスクとパーティションの数は変わっていないものの、各ディスク デバイスのモデルとメーカー名が異なっている可能性があります。
- プライマリ ディスク コントローラがソース マシンのコントローラと異なっている可能性があります。
- 仮想マシン内から使用できないデバイスに依存するアプリケーションは、動作しないことがあります。

Parallels 仮想マシンまたは Virtual PC 仮想マシンのインポート

既存のサードパーティ仮想マシンをインポートして、Fusion で実行できます。

手順

- 1 [ファイル] - [インポート] を選択します。
- 2 インポートしたい既存の仮想マシンを参照し、[開く] をクリックします。
- 3 インポートする仮想マシンの名前を [名前を付けて保存] フィールドに入力し、保存先を指定します。
デフォルトのインポート先フォルダは、Fusion が作成する仮想マシン フォルダです。
Fusion にインポートに必要なディスク領域と現在のディスクの空き領域が表示されます。
- 4 [インポート] をクリックします。
インポートが完了すると、仮想マシン リストにパワーオフ状態で仮想マシンが追加されたことがわかります。
- 5 [完了] をクリックします。

Fusion は、仮想マシンをパワーオンした後に VMware Tools をインストールし、完了したらシステムを再起動します。

サードパーティ仮想マシンの個別の Fusion バージョンが得られます。

Boot Camp パーティションのインポート

Boot Camp パーティションを仮想マシンとしてインポートできます。これにより、そのパーティションをコピーする VMware 仮想マシンが作成されます。

手順

- 1 [ウィンドウ] - [仮想マシンのライブラリ] を選択します。
- 2 [仮想マシンのライブラリ] ウィンドウで [Boot Camp パーティション] を選択し、[インポート] をクリックします。
- 3 [名前] フィールドでインポートする仮想マシンの名前をデフォルトの **Boot Camp** から別の一意の名前に変更し、保存先を指定します。

デフォルトのインポート先フォルダは、Fusion が作成する仮想マシン フォルダです。

Fusion にインポートに必要なディスク領域と現在のディスクの空き領域が表示されます。

- 4 [インポート] をクリックします。

インポートが完了すると、仮想マシン リストにパワーオフ状態で仮想マシンが追加されたことがわかります。

- 5 [完了] をクリックします。

Fusion は、仮想マシンをパワーオンした後に VMware Tools をインストールし、完了したらシステムを再起動します。

Open Virtualization Format の仮想マシンのインポート

Open Virtualization Format (OVF) 仮想マシンをインポートして Fusion で実行できます。**.ovf** および **.ova** ファイルの両方をインポートできます。

Fusion は、仮想マシンを OVF フォーマットから VMware ランタイム (**.vmx**) フォーマットに変換します。

OVF はプラットフォームに依存せず、効率的、拡張可能、そしてオープン パッケージな仮想マシンのための配布フォーマットです。たとえば、Workstation Pro からエクスポートされた OVF 仮想マシンを Fusion にインポートできます。OVF 1.0 以降のファイルだけをインポートできます。

スタンドアロン OVF Tool を使用して、OVF 仮想マシンを VMware ランタイム フォーマットに変換することもできます。OVF Tool の使用については、『OVF Tool ユーザー ガイド』を参照してください。

開始する前に

OVF 仮想マシン ファイル (**.ovf** または **.ova** ファイル) を Mac にアクセス可能な場所にダウンロードまたはコピーします。

手順

- 1 [ファイル] - [インポート] を選択します。
- 2 [ファイルを選択] をクリックし、**.ovf** または **.ova** ファイルを選択し、[開く] をクリックします。
- 3 インポートする仮想マシンの名前を [別名で保存] ボックスに入力し、保存先を指定します。

デフォルトのインポート先フォルダは、Fusion が作成する仮想マシン フォルダです。

Fusion にインポートに必要なディスク領域と現在のディスクの空き領域が表示されます。

- 4 [インポート] をクリックします。

Fusion は OVF 仕様適合性および仮想ハードウェアの準拠の検査を実行します。ステータスバーにインポート プロセス状況が示されます。

インポートが完了すると、仮想マシンが仮想マシン ライブラリおよび別の仮想マシン ウィンドウに表示されます。仮想マシンがシャットダウンされます。

VMware Tools のインストールと使用

VMware Tools は、仮想マシンのゲスト オペレーティング システムのパフォーマンスを強化し、仮想マシンの管理を拡張するユーティリティ形式です。

たとえば、次の機能は VMware Tools がインストールされている場合にのみ使用できる機能の一部にすぎません。

ゲスト OS は VMware Tools がなくても実行できますが、重要な機能を使用できなくなったり、不便になったりします。

Windows 簡易インストール機能または Linux 簡易インストール機能を使用して、オペレーティング システムのインストールが終了した直後に VMware Tools をインストールできます。

Windows 簡易インストールまたは Linux 簡易インストールの場合、Fusion は、オペレーティング システムのインストール終了後すぐに VMware Tools をインストールします。その他の方法でインストールした場合、新しい仮想マシンへのオペレーティング システムのインストールが終了し、仮想マシンを再起動したら、VMware Tools をインストールします。

これらすべての機能がすべてのゲストでサポートされるわけではありません。


VMware Tools プロパティを使用してさまざまなオプションを設定することで、ゲスト OS を仮想マシンに合わせて最適化できます。

VMware Tools のインストールまたはアップグレード

VMware Tools のインストールは新しい仮想マシンの作成プロセスの一部であり、VMware Tools のアップグレードは仮想マシンを最新の状態に維持するプロセスの一部です。

VMware Tools をインストールまたはアップグレードする方法は、オペレーティング システムおよび Tools に使用するソースによって異なります。

VMware Tools は頻繁にアップグレードされており、新しいデバイスのサポートや、仮想マシンのパフォーマンスを向上させる機能拡張が追加されています。Fusion をアップグレードするときは、VMware Tools もアップグレードする必要があります。

Windows 仮想マシンでは、アップグレードが使用可能になったときに通知するように VMware Tools を設定することができます。この通知オプションが有効になっている場合、VMware Tools のアップグレードが使用可能になると、黄色の警告マーク () がついた VMware Tools アイコンが Windows タスクバーに表示されます。

Windows 仮想マシンでの VMware Tools の手動インストールまたは手動アップグレード

サポートされているすべての Windows ゲスト OS は、VMware Tools をサポートしています。

VMware Tools をアップグレードする前に、仮想マシンが実行される環境を考慮し、さまざまなアップグレード方法のメリットを検討します。たとえば、最新バージョンの VMware Tools をインストールして、仮想マシンのゲスト OS のパフォーマンスを向上させて仮想マシンの管理機能を強化したり、既存のバージョンを引き続き使用して、環境における柔軟性を高めてダウンタイムを回避したりすることができます。

開始する前に

- 仮想マシンをパワーオンします。
- ゲスト OS が実行中であることを確認します。
- オペレーティング システムをインストールしたときに、仮想マシンの仮想 CD/DVD ドライブを ISO イメージ ファイルに接続していた場合、仮想 CD/DVD ドライブが物理ドライブを自動検出する構成になるように設定を変更します。

自動検出設定を使用することで、仮想マシンの最初の仮想 CD/DVD ドライブが、VMware Tools のインストール用の VMware Tools ISO ファイルを検出して接続できます。この ISO ファイルは、ゲスト OS では物理 CD のように表示されます。CD/DVD ドライブが物理ドライブを自動検出するように設定するには、仮想マシン設定エディタを使用します。

- 以前の Windows オペレーティング システムを使用するのでない限り、管理者としてログインします。ユーザは Windows 95、Windows 98、または Windows ME ゲスト OS で VMware Tools をインストールできます。これらのバージョンより新しいオペレーティング システムの場合は、管理者としてログインする必要があります。

手順

- 1 ホストの VMware Fusion メニュー バーで、[仮想マシン] - [VMware Tools のインストール] を選択します。
古いバージョンの VMware Tools がインストールされている場合は、メニュー項目は [VMware Tools のアップデート] になります。
- 2 初めて VMware Tools をインストールする場合、VMware Tools のインストール情報ページで[OK]をクリックします。
autorun がゲスト OS の CD-ROM ドライブで有効の場合、VMware Tools インストール ウィザードが起動します。
- 3 自動再生が有効になっていない場合は、ウィザードを手動で起動するため、[スタート] - [ファイル名を指定して実行] をクリックして **D:\setup.exe** と入力します。ここで、**D:** は最初の仮想 CD-ROM ドライブです。64 ビット Windows ゲスト OS 用の **D:\setup64.exe** を使用します。
- 4 後は画面の指示に従ってください。
- 5 新しいハードウェア ウィザードが表示された場合、プロンプトに従い、デフォルトに同意してください。
- 6 ベータ バージョンや RC バージョンの VMware Tools をインストールしていてパッケージまたはドライブに署名がない警告が表示される場合は、[インストールを続行する] をクリックしてインストールを完了します。
- 7 プロンプトが表示されたら、仮想マシンを再起動します。

次に進む前に

新しい仮想ハードウェア バージョンが仮想マシンで使用可能な場合は、仮想ハードウェアをアップグレードします。

Linux 仮想マシンでの VMware Tools の手動インストールまたは手動アップグレード

Linux 仮想マシンの場合、VMware Tools はコマンド ラインを使用して手動でインストールまたはアップグレードします。

開始する前に

- 仮想マシンをパワーオンします。
- ゲスト OS が実行中であることを確認します。
- VMware Tools インストーラは Perl で記述されているため、ゲスト OS に Perl がインストールされていることを確認します。

手順

- 1 ホストの VMware Fusion メニュー バーで、[仮想マシン] - [VMware Tools のインストール] を選択します。
古いバージョンの VMware Tools がインストールされている場合は、メニュー項目は [VMware Tools のアップデート] になります。
- 2 仮想マシンで、root としてゲスト OS にログインし、ターミナル ウィンドウを開きます。
- 3 Linux ディストリビューションで VMware Tools の仮想 CD-ROM イメージが自動的にマウントされたかどうかを確認するには、引数なしで **mount** コマンドを実行します。

CD-ROM デバイスがマウントされている場合、CD-ROM デバイスとそのマウント ポイントが次のように表示されます。

```
/dev/cdrom on /mnt/cdrom type iso9660 (ro,nosuid,nodev)
```


- 4 VMware Tools の仮想 CD-ROM イメージがマウントされていない場合、CD-ROM ドライブをマウントします。

- a マウント ポイントのディレクトリが存在しない場合は作成します。

```
mkdir /mnt/cdrom
```

一部の Linux ディストリビューションでは、異なるマウント ポイント名を使用します。たとえば、いくつかのディストリビューションのマウント ポイントは、**/mnt/cdrom** ではなく **/media/VMware Tools** です。ご使用のディストリビューションの規則を反映するようにコマンドを変更してください。

- b CD-ROM ドライブをマウントします。

```
mount /dev/cdrom /mnt/cdrom
```

一部の Linux ディストリビューションでは、異なるデバイス名を使用したり、**/dev** ディレクトリが異なっていたりすることがあります。CD-ROM ドライブが **/dev/cdrom** ではない場合、または CD-ROM のマウント ポイントが **/mnt/cdrom** でない場合は、ディストリビューションの規則を反映するようにコマンドを変更してください。

- 5 作業ディレクトリ (**/tmp** など) に変更します。

```
cd /tmp
```

- 6 VMware Tools をインストールする前に、前回の **vmware-tools-distrib** ディレクトリを削除します。

このディレクトリの場所は、前回のインストール中にこのディレクトリを配置した場所に応じて異なります。多くの場合、このディレクトリの場所は **/tmp/vmware-tools-distrib** です。

- 7 マウント ポイントのディレクトリの内容を一覧表示し、VMware Tools tar インストーラのファイル名を書き留めます。

```
ls <mount-point>
```

- 8 インストーラを展開します。

```
tar xzpf /mnt/cdrom/VMwareTools-<x.x.x>-<yyyy>.tar.gz
```

値 **<x.x.x>** は製品のバージョン番号を、**<yyyy>** は製品リリースのビルド番号を示します。

RPM インストールの実行後に **tar** インストールを実行するか、その逆の順序でインストールを実行すると、インストーラは前回のインストールを検出するため、続行する前にインストーラのデータベース形式を変換する必要があります。

- 9 必要に応じて、CD-ROM イメージのマウントを解除します。

```
umount /dev/cdrom
```

CD-ROM が自動的にマウントされる Linux ディストリビューションの場合は、イメージのマウントを解除する必要はありません。

- 10 インストーラを実行して VMware Tools を構成します。

```
cd vmware-tools-distrib  
./vmware-install.pl
```

通常、インストーラ ファイルの実行が終了した後に、**vmware-config-tools.pl** 構成ファイルが実行されます。

- 11 使用する構成として適切である場合は、プロンプトに従ってデフォルト値をそのまま使用します。

- 12 スクリプトの最後の指示に従います。

使用する機能に応じて、これらの指示には X セッションの再開、ネットワーク処理の再開、再ログイン、および VMware ユーザー プロセスの開始などが含まれます。または、ゲスト OS を再起動してこれらのタスクを実行することもできます。

次に進む前に

新しい仮想ハードウェア バージョンが仮想マシンで使用可能な場合は、仮想ハードウェアをアップグレードします。

Mac OS X 仮想マシンでの VMware Tools の手動インストールまたは手動アップグレード

Mac OS X Server の仮想マシンでは、インストーラ アシスタントを使用して VMware Tools をインストールまたはアップグレードします。

開始する前に

- 仮想マシンをパワーオンします。
- ゲスト OS が実行中であることを確認します。

手順

- 1 ホストの VMware Fusion メニュー バーで、[仮想マシン] - [VMware Tools のインストール] を選択します。
古いバージョンの VMware Tools がインストールされている場合は、メニュー項目は [VMware Tools のアップデート] になります。
- 2 VMware Tools の仮想ディスク上で [VMware Tools のインストール] を開き、インストーラ アシスタントのプロンプトに従い、[OK] をクリックします。

仮想マシンは、再起動して VMware Tools を有効化します。

Windows 仮想マシンでのモジュールの修復または変更

強化されたグラフィックス表示やマウス アクション、または VMware Tools に依存する機能に問題がある場合は、インストールされているモジュールの修復または変更が必要な場合があります。

VMware Tools のアップグレード中は、新しいモジュールの一部がインストールされないことがあります。手動でインストールされているモジュールを変更することによって、新しいモジュールをインストールすることができます。

重要 VMware Tools を修復または変更するために、Windows のコントロール パネル上にあるゲスト OS の [プログラムの追加と削除] 項目を使用しないでください。

開始する前に

- 仮想マシンをパワーオンします。
- ゲスト OS にログインします。

手順

- 1 ホストの VMware Fusion メニュー バーで、[仮想マシン] - [VMware Tools のインストール] を選択します。
古いバージョンの VMware Tools がインストールされている場合は、メニュー項目は [VMware Tools のアップデート] になります。
- 2 CD-ROM ドライブの自動再生が有効になっていない場合は、VMware Tools のインストール ウィザードを手動で起動するため、[スタート] - [ファイル名を指定して実行] をクリックして **D:\setup.exe** と入力します。ここで、**D:** は最初の仮想 CD-ROM ドライブです。
- 3 ウィザードの開始画面で [次へ] をクリックします。
- 4 モジュールの修復または変更を指定します。
 - [修復] をクリックして、すでにインストールされているコンポーネントのファイル、レジストリ設定などを修復します。
 - [修正] をクリックして、インストールされているモジュールを指定します。
- 5 後は画面の指示に従ってください。

次に進む前に

それでも機能が動作しない場合は、VMware Tools をアンインストールして再インストールしてください。

VMware Tools のアンインストール

VMware Tools のアップグレード プロセスが未完了の場合は、VMware Tools をアンインストールしてから、再インストールします。

開始する前に

- 仮想マシンをパワーオンします。
- ゲスト OS にログインします。

手順

- ◆ VMware Tools のアンインストール方法を選択します。

オペレーティング システム	操作
Windows 7、8、8.1、または Windows 10	ゲスト OS で、[プログラム] - [プログラムのアンインストール] を選択します。
Windows Vista および Windows Server 2008	ゲスト OS で、[プログラムと機能] - [プログラムのアンインストール] を選択します。
Windows XP 以前	ゲスト OS で、[プログラムの追加と削除] を選択します。
Linux	ルートとしてログインし、端末ウィンドウに vmware-uninstall-tools.pl と入力します。
Mac OS X Server	/Library/Application Support/VMware Tools にある [VMware Tools のアンインストール] アプリケーションを使用します。

次に進む前に

VMware Tools を再インストールします。

Fusion Pro を使用した仮想マシンのクローン作成

ゲスト OS とアプリケーションのインストールには、時間がかかることがあります。Fusion Pro を使用すると、一度のインストールと構成で仮想マシンのコピーを多数作成することが可能です。

クローンは、多数の同一仮想マシンをグループに配置する必要がある場合に便利です。たとえば、MIS 部は構成済みのオフィス アプリケーションが入っている仮想マシンのクローンを作成し、各従業員に提供することができます。完全な開発環境があり、ソフトウェアテスト用の基本構成として繰り返しクローンを作成する仮想マシンを構成することもできます。

この既存の仮想マシンを親仮想マシンと呼びます。作成できるクローンには、リンク クローンとフル クローンの 2 つのタイプがあります。リンク クローンはフル クローンよりも短時間で作成できますが、親仮想マシンに依存します。フル クローンは作成に時間がかかりますが、親仮想マシンから完全に独立しています。

クローンに対して加えた変更は親仮想マシンに影響を与えず、親仮想マシンに対して加えた変更もクローンには影響しません。クローンの MAC アドレスは親仮想マシンとは異なります。

リンク クローンの使用

リンク クローンは、クローン作成後継続的に親仮想マシンと仮想ディスクを共有する、仮想マシンのコピーです。リンク クローンは、Fusion Pro でしか作成できません。

リンク クローンは親のスナップショットから作成されるので、ディスク スペースが節約され、複数の仮想マシンが同じソフトウェア インストールを使用できます。スナップショットの設定の瞬間に親仮想マシンで利用可能なすべてのファイルは、リンク クローンで使用し続けることができます。

親仮想マシンの仮想ディスクへの継続的な変更は、リンク クローンには影響せず、リンク クローンのディスクへの変更は、親仮想マシンには影響しません。リンク クローンは親仮想マシンへのアクセスが必要になります。親仮想マシンにアクセスできない場合は、リンク クローンを使用できません。

リンク クローンは素早く作成されるので、各タスクで一意的な仮想マシンを作成できます。他のユーザーがリンク クローンをすばやく作成できるように、ローカル ネットワーク上に仮想マシンを保存して、他のユーザーと仮想マシンを共有することも可能です。たとえば、サポート チームは仮想マシンのバグを複製し、エンジニアはその仮想マシンのリンク クローンを作成してバグの処理を行うことができます。

リンク クローンからリンク クローンを作成できますが、そのリンク クローンのパフォーマンスは低下します。可能であれば、オリジナルの親仮想マシンの新しいリンク クローンを作成することをお勧めします。リンク クローンから完全クローンを作成すると、その完全クローンは、リンク クローンまたはその親にあたるマシンへのアクセスを必要としない独立した仮想マシンになります。

重要 リンク クローンを破棄せずにそのリンク クローンのスナップショットを削除することはできません。スナップショットを安全に削除できるのは、このスナップショットに依存するクローンも削除する場合のみです。また、リンク クローンまたは親仮想マシンを移動すると、リンク クローンと親の接続が切れます。

リンク クローンは親に依存関係があるため、クローンを持つ親は削除できません。親仮想マシンを削除するには、最初にすべてのリンク クローンとスナップショットを削除する必要があります。

フル クローンの使用

フル クローンは、完全で独立した仮想マシンのコピーです。フル クローンは、クローン作成操作後に親仮想マシンと共有されません。フル クローンの進行中の操作は、親仮想マシンから分離されます。フル クローンは、Fusion Pro でのみ作成できます。

フル クローンは仮想ディスクを親仮想マシンと共有しないため、一般に、パフォーマンスはリンク クローンよりも高くなります。フル クローンはリンク クローンより作成に時間がかかります。関連ファイルが大きい場合のフル クローンの作成は、数分かかる場合があります。

フル クローンは、クローン作成時の仮想マシンの状態のみを複製するため、親仮想マシンのスナップショットにアクセスできません。

フル クローンは、親仮想マシンに影響を与えることなく削除できます。

仮想マシンのクローン作成

Fusion Pro がある場合にのみ仮想マシンのクローンを作成できます。親仮想マシンのファイルを検索して手動でコピーする必要はありません。

注意

- クローン オプションには、右クリック メニュー、スタート メニュー、仮想マシン メニュー、およびスナップショット マネージャからアクセスできます。
- 暗号化された仮想マシンからリンク クローンを作成できません。
- 制限された仮想マシンからリンク クローンまたはフル クローンを作成できません。
- Boot Camp 仮想マシンからリンク クローンまたはフル クローンを作成できません。
- 単一仮想マシン アクセス モードからリンク クローンまたはフル クローンを作成できません。
- 暗号化された仮想マシンからフル クローンを作成できます。
- 親仮想マシンのスナップショットをパワー オフしてクローン仮想マシンを作成できます。

開始する前に

- クローンのタイプを把握しておいてください。「[リンク クローンの使用 \(P. 59\)](#)」および「[フル クローンの使用 \(P. 60\)](#)」を参照してください。

- 仮想マシンの現在の状態からリンク クローンまたはフル クローンを作成する場合は、仮想マシンをパワー ダウンします。

手順

- 1 (オプション) 仮想マシンの現在の状態からクローンを作成するには:
 - a 仮想マシンのライブラリから仮想マシンを選択します。
 - b [仮想マシン] をクリックして、作成するクローンのタイプに基づいて [フル クローンを作成] または [リンク クローンを作成] を選択します。
Fusion はリンク クローンの作成時に選択した仮想マシンのスナップショットを作成します。
- 2 (オプション) 仮想マシンのスナップショットからクローンを作成するには:
 - a 仮想マシンのライブラリから仮想マシンを選択します。
 - b [スナップショット] をクリックします。
 - c スナップショットを選択して右クリックします。作成するクローンのタイプに基づいて [フル クローンを作成] または [リンク クローンを作成] を選択します。
- 3 クローンの名前を入力して [保存] をクリックします。
複製される仮想ディスクのサイズによって異なりますが、完全クローンの作成には数分を要します。

このクローンは、仮想マシンのライブラリに表示されます。

リンク クローン仮想マシンは、[仮想マシンのライブラリ] でクローン パッチにより表されます。親仮想マシン名は、[仮想マシンのライブラリ] に表示される仮想マシン名の下に示されます。スナップショット マネージャで、リンク クローン仮想マシンを含むスナップショットは、スナップショット パッジで示されます。

次に進む前に

親仮想マシンが固定 IP アドレスを使用している場合、IP アドレスの競合を避けるため、クローンがネットワークに接続する前にクローンの固定 IP アドレスを変更します。

クローン プロセスではクローンの新しい MAC アドレスが作成されますが、仮想マシンの名前や静的 IP アドレス構成などの他の構成情報は親仮想マシンと同一です。

仮想マシンの使用

物理マシンを使用するのと同じ方法で、仮想マシンを使用できます。Mac と仮想マシンが情報交換することもできます。

この章では次のトピックについて説明します。

- [Fusion Pro および仮想マシンの実行 \(P. 63\)](#)
- [ユニティ モード表示中に Windows または Linux アプリケーションを開く \(P. 70\)](#)
- [アプリケーション メニューから Windows または Linux のアプリケーションを開く \(P. 71\)](#)
- [Mac とのファイルの移動と共有 \(P. 71\)](#)
- [Mac と Windows 仮想マシン間でのアプリケーションの共有 \(P. 73\)](#)
- [Mac の Dock への Windows または Linux アプリケーションの格納 \(P. 74\)](#)
- [パワーオンされている仮想マシン間の切り替え \(P. 75\)](#)
- [仮想マシンでの Mac 入力デバイスの使用 \(P. 75\)](#)
- [仮想マシン上でのキーボードとマウスの入力の有効化 \(P. 76\)](#)

Fusion Pro および仮想マシンの実行

仮想マシンのスタートアップ、シャットダウン、サスペンド、一時停止、レジューム、再起動、およびリセットを行うことができます。ゲスト OS または仮想マシンのどちらかに、電源コマンドを送信できます。

既存の仮想マシンを開く

[仮想マシンのライブラリ] ウィンドウから、またはアプリケーションのメニューから、既存の仮想マシンを開くことができます。


Fusion Pro を使用して Horizon FLEX 仮想マシンを開く手順については、『VMware Horizon FLEX ユーザー ガイド』を参照してください。

手順

- [仮想マシンのライブラリ] から仮想マシンを開きます。
 - a [ウィンドウ] - [仮想マシンのライブラリ] を選択します。
 - b 認識されている仮想マシンのリストから仮想マシンを選択します。
 - c 実行ボタンをクリックします。

- アプリケーション メニューから仮想マシンを開く

- a

メニュー バーのアプリケーション メニュー ステータス項目 () をクリックします。

アプリケーション メニューが表示され、最後にアクセスされた仮想マシンが青いタイトル バーに表示されます。

- b

タイトル バーのポップアップ メニューをクリックし、仮想マシンを選択します。

- c

[レジューム] または [スタートアップ] をクリックします。

仮想マシンの選択

既存の仮想マシンを開く 1 つの方法は、パッケージ ファイルを検索して開くことです。

手順

- 1 [ファイル] - [開く] を選択します。

- 2 ファイルの選択ウィンドウから、仮想マシンパッケージを検索して選択する、または構成ファイルを選択して仮想マシンを開きます。

仮想マシン パッケージ ファイルには拡張子 **.vmwarevm** が付いています。仮想マシン設定ファイルには拡張子 **.vmx** が付いています。ファイルの拡張子は、[ファイル] - [情報を見る] を選択して確認できます。

- 3 [開く] ボタンをクリックします。

Fusion が仮想マシンを開いてパワーオンします。

Finder から仮想マシンを開く

仮想マシンのパッケージ ファイルから、既存の仮想マシンを開くことができます。

手順

- 1 Finder で、仮想マシン フォルダ (通常は <user>/書類内) を参照し、仮想マシンのパッケージまたは構成ファイルを検索します。

仮想マシン パッケージ ファイルには拡張子 **.vmwarevm** が付いています。仮想マシン設定ファイルには拡張子 **.vmx** が付いています。

- 2 (オプション) ファイルの拡張子は、[ファイル] - [情報を見る] を選択して確認できます。

- 3 仮想マシン パッケージまたは構成ファイルをダブルクリックして、Fusion で仮想マシンを開きます。

Fusion が実行されていない場合、自動的に起動します。

仮想マシンのオペレーティング システムの起動

仮想マシンのパワーオフされているゲスト OS を起動できます。

仮想マシンの構成を変更するなどの一部のアクションでは、オペレーティング システムをパワーオンしないで仮想マシンを開く必要があります。アクションが完了した後で、オペレーティング システムを起動できます。

手順

- ◆ 仮想マシンの状態およびゲスト OS に応じて、仮想マシンのオペレーティング システムを起動します。

- ◆ 仮想マシンが実行していない場合は、Finder または仮想マシンのライブラリから仮想マシンを開きます。

仮想マシンを開くと、Fusion により仮想マシンのオペレーティング システムが起動します。

- ◆ 仮想マシンが Fusion ですでに開かれていても、オペレーティング システムがシャットダウンしている場合は、[仮想マシン] - [スタートアップ] を選択します。

パワーオンせずに仮想マシンを開く

一部の設定作業には、仮想マシンをパワーオフする必要があります。仮想マシンのライブラリ では、パワーオンしないで仮想マシンにアクセスできます。

手順

- 1 [仮想マシンのライブラリ] ウィンドウで、作業する仮想マシンを選択します。
- 2 (オプション) 設定する仮想マシンがサスペンドまたはパワーオンとして表示される場合は、仮想マシンを開いてパワーオフします。
 - ツールバーの [シャットダウン] ボタンを使用します。
 - [仮想マシン] メニューの [シャットダウン] コマンドを使用します。

Fusion がパワーオンしないで仮想マシンを開くか、またはウィンドウで仮想マシンを開きます。

- 3 [設定] ボタンをクリックします。

仮想マシンをパワーオフする必要がある設定を変更できます。

仮想マシンのオペレーティング システムのシャットダウン

仮想マシンのゲスト OS をシャットダウンできます。

複数の方法で、仮想マシンのオペレーティング システムをシャットダウンできます。次に示すのは推奨される方法です。

手順

- ◆ [仮想マシン] - [シャットダウン] を選択します。

Fusion Pro にある仮想マシンをサスペンドおよびレジュームする

サスペンドおよびレジューム機能を使用すると、Fusion Pro をしばらく終了する場合でも、仮想マシンの現在の状態を保存し、後で同じ状態から作業を続けることができます。

Fusion は Boot Camp 仮想マシンでのサスペンドとレジュームをサポートしていません。これは、サスペンドとレジュームでは、将来変更されることのない既知の状態を保存できることが必要なためです。Boot Camp パーティションでは Windows をネイティブに起動できます。これを行うと、既知の状態が失われてデータの損失が発生します。

手順

- ◆ 次のいずれかを実行します。
 - 仮想マシンをサスペンドするには、[仮想マシン] - [サスペンド] を選択します。
また、仮想マシン ウィンドウを閉じるときに仮想マシンがサスペンドされるように、Fusion Pro 環境設定を設定することもできます。
 - 仮想マシンをレジュームするには、[仮想マシン] - [レジューム] を選択します。

レジューム コマンドのキャンセル

Fusion が仮想マシンの状態をリストアしている間に、レジューム コマンドをキャンセルできます。

サスペンドした仮想マシンをレジュームするとき、Fusion は順番に 2 つの進行状況バーを表示します。2 つ目のバーにキャンセル ボタンがあります。

手順

- ◆ 進行状況バーが 100 パーセントに達する前にキャンセル ボタンをクリックしてください。

仮想マシンの一時停止

仮想マシンを一時停止すると、仮想マシンの現在の状態が停止します。一時停止した仮想マシンをレジュームすると、仮想マシンの状態は、一時停止したときとまったく同じになります。

注意 仮想マシンを一時停止したときに、仮想マシンの現在の状態は保存されません。仮想マシンが一時停止しているときに Fusion を終了すると、Fusion は、Fusion の環境設定に応じて、仮想マシンをサスペンドまたはシャットダウンします。

手順

- ◆ [仮想マシン] - [一時停止] をクリックします。

次に進む前に

仮想マシンを操作する準備ができれば、仮想マシンをレジュームします。

仮想マシンの再起動

Mac を再起動しないで仮想マシンを再起動できます。

手順

- ◆ 仮想マシンのオペレーティング システムを再起動します。
 - 仮想マシンで、物理マシンと同様にオペレーティング システムを再起動します。
再起動方法は、仮想マシンで稼働しているオペレーティング システムによって異なります。
 - Fusion で、[仮想マシン] - [再起動] を選択します。

仮想マシンのリセット

Fusion コマンドを選択して、物理コンピュータが応答しなくなったときにリセット ボタンを押すのと同様に、仮想マシンをリセットできます。



注意 仮想マシンをリセットするとデータの損失が発生することがあります。

手順

- ◆ [Option] キーを押して [仮想マシン] - [強制的に再起動] (ハード電源オプション) をクリックし、仮想マシンのオペレーティング システムをリセットします。

Finder を使用した仮想マシンのアンインストール

仮想マシンのファイルを削除することで、仮想マシンをアンインストールできます。

仮想マシンをアンインストールする方法の 1 つは、Finder を使用して仮想マシンのパッケージを削除することです。

開始する前に

仮想マシンをシャットダウンまたはパワーオフしてください。

Fusion を終了します。

手順

- 1 仮想マシン フォルダ (通常は <user>/書類内) を参照し、アンインストールする仮想マシンを選択します。
- 2 仮想マシンのパッケージ ファイルをゴミ箱に移動します。

次に進む前に

Fusion を開きます。仮想マシン ライブラリにアンインストールされた仮想マシンがある場合、それを右クリックして [削除] を選択します。

仮想マシンのライブラリ を使用した仮想マシンのアンインストール

仮想マシンのファイルを削除することで、仮想マシンをアンインストールできます。

仮想マシンをアンインストールする方法の 1 つは、仮想マシンのライブラリを使用して仮想マシンのファイルを削除することです。

開始する前に

仮想マシンをシャットダウンまたはパワーオフしてください。

手順

- 1 [ウィンドウ] - [仮想マシンのライブラリ] を選択します。
- 2 アンインストールする仮想マシンのサムネイルをクリックします。
- 3 [編集] - [削除] を選択します。
- 4 [仮想マシンの削除] ダイアログ ボックスで、仮想マシンをアンインストールする方法を選択します。

アンインストールしている仮想マシンのタイプによっては、仮想マシンを削除するためのオプションが異なって表示される場合があります。

オプション	操作
ゴミ箱に入れる	仮想マシンを [仮想マシンのライブラリ] ウィンドウから削除し、すべての仮想マシン ファイルをゴミ箱に移動します。
ファイルの保持	仮想マシンを [仮想マシンのライブラリ] ウィンドウから削除しますが、仮想マシン フォルダ内にある仮想マシン ファイルはそのままにします。
永久に削除	仮想マシンを [仮想マシンのライブラリ] ウィンドウから削除し、仮想マシン ファイルを永久に削除します。これらのファイルは永久に削除され、ゴミ箱に移動されません。

仮想マシンへの Ctrl + Alt + Delete コマンドの送信

Fusion コマンドを使用して、Ctrl + Alt + Delete キーの組み合わせを Windows 仮想マシンに送信できます。

手順

- ◆ 次のいずれかの方法で、キーストロークの組み合わせを送信できます。
 - [仮想マシン] - [Ctrl - Alt - Del の送信] の順に選択します。
 - 外付け PC キーボードを使用している場合は、Ctrl + Alt + Delete を押します。
 - フルサイズの Mac キーボードの場合は、Fwd Del + Ctrl + Option を押します。⌘ Fwd Del キーは Help キーの下にあります。
 - Mac ノートパソコンのキーボードでは、Fn + Ctrl + Option + Delete を押します。

Windows または Linux 仮想マシンへの特殊なキー コマンドの送信

一部のキーボードにあるすべてのキーを備えていないキーボードであっても、特殊なキー コマンドをゲスト OS に送信できます。

手順

- 1 [仮想マシン] - [キーの送信] の順に選択します。

2 ポップアップ メニューからキー コマンドを選択します。[「特殊なキー コマンド \(P. 68\)」](#)を参照してください。


Fusion が仮想マシンのゲスト OS にキー コマンドを送信します。

特殊なキー コマンド

仮想マシンで特殊なキー コマンドを使用できます。


仮想マシン メニューの [キーの送信] 項目に含まれるキー コマンドの中には、キーボードによっては使用できないものがあります。

表 5-1. 特殊なキー コマンド

[キーの送信] メニュー項目で仮想マシンに送信できるキー コマンド
[Help] (Insert)
[Home]
[End]
 (Forward Delete)
[Caps Lock]
[Clear (Num Lock)]
[Scroll Lock]
[Print Scrn]
[Pause]
[Break]
[Menu]
[F8]
[F9]
[F10]
[F11]
[F12]
[F13]
[F14]
[F15]
[F16]
変換 (Henkan)
無変換 (Muhenkan)
ひらがな (Hiragana)

デフォルト オプションからの電源コマンドの切り替え

Fusion の電源コマンド オプションを、[仮想マシン] メニューに表示されるデフォルト オプションから切り替えることができます。

仮想マシンのデフォルトがソフト オプションの場合、Option キーまたは Alt キーを押すと、[仮想マシン] メニューおよびアプリケーション メニュー () のコマンドがハード オプションに切り替わります。また、ハード オプションはソフト オプションに切り替わります。

注意 Option キーまたは Alt キーを押すと切り替わるのは、[仮想マシン] メニューおよびアプリケーション メニューの電源コマンドだけです。ツールバーの電源ボタンは変化しません。

手順

- 1 [仮想マシン] を選択して、[仮想マシン] メニューを表示します。
- 2 Option キー (Mac キーボード) または Alt キー (PC キーボード) を押して、代替電源オプションを選択します。

表 5-2. 電源コマンド

ソフト オプション	ハード オプション
起動	強制スタートアップ
レジューム	強制レジューム
シャットダウン	強制シャットダウン
サスペンドする	強制サスペンド
再起動	強制再起動

電源コマンドの詳細については、[\[Fusion の電源コマンドのオプション \(P. 69\)\]](#) を参照してください。

Fusion の電源コマンドのオプション

ソフト電源オプションまたはハード電源オプションを備えるように、仮想マシンを設定できます。

Fusion の電源コマンドの動作は、仮想マシンの設定によって異なります。仮想マシンが Fusion で作成された場合、電源コマンドはデフォルトでソフト オプションになります。ゲスト OS で電源コマンドが有効になります。他の VMware 製品で作成された仮想マシンは、デフォルトでハード オプションに設定される場合があります。ハード オプションの電源コマンドは、物理コンピュータのパワー サプライにおける電源ボタンとリセット ボタンと同じ動作を仮想マシンに対して行います。

表 5-3. 仮想マシン メニューの電源コマンドのソフト オプションとハード オプション

コマンドキー	結果
[スタートアップ] (ソフト オプション) [強制スタートアップ] (ハード オプション)	これらのコマンドの結果は同じで、仮想マシンのオペレーティングシステムが起動します。
[レジューム] (ソフト オプション)	レジューム スクリプトを実行します。このスクリプトをカスタマイズできます。詳細については、ドキュメント 『VMware Tools のインストールと構成』 (http://www.vmware.com/pdf/vmware-tools-installation-configuration.pdf) を参照してください。
[強制レジューム] (ハード オプション)	仮想マシンをサスペンド状態からレジュームします。

表 5-3. 仮想マシン メニューの電源コマンドのソフト オプションとハード オプション (続き)

コマンドキー	結果
[シャットダウン] (ソフト オプション)	シャットダウン信号をゲスト OS に送信します。この信号を認識すると、オペレーティング システムは正常にシャットダウンし、再起動します。ただし、すべてのゲスト OS がこのボタンからのシャットダウン信号に応答するわけではありません。オペレーティング システムが応答しない場合は、物理マシンと同じように、オペレーティング システム内からシャットダウンしてください。
[強制シャットダウン] (ハード オプション)	コンピュータのパワー サプライの電源スイッチと同じ動作を行います。仮想マシンは、進行中の作業を考慮することなく、突然パワー オフします。このため、データが失われてしまうことがあります。可能な場合は、仮想マシンをパワー オフする前に、仮想マシンのオペレーティング システムをシャットダウンしてください。
[サスペンド] (ソフト オプション)	サスペンド スクリプトを実行します。このスクリプトをカスタマイズできます。詳細については、ドキュメント『VMware Tools のインストールと構成』(http://www.vmware.com/pdf/vmware-tools-installation-configuration.pdf) を参照してください。
[強制サスペンド] (ハード オプション)	[強制サスペンド] コマンドは仮想マシンをサスペンドします。
[再起動] (ソフト オプション)	再起動信号をゲスト OS に送信します。この信号を認識すると、オペレーティング システムが正常にシャットダウンし、再起動します。ただし、すべてのゲスト OS がこの再起動信号に応答するわけではありません。オペレーティング システムが応答しない場合は、物理マシンと同じように、オペレーティング システム内から再起動してください。
[強制再起動] (ハード オプション)	リセット スイッチとして動作します。仮想マシンは、進行中の作業を考慮することなく、突然パワー オフします。可能な場合は、仮想マシンのオペレーティング システムをシャットダウンしてください。リセット オプションは、仮想マシンのオペレーティング システムがフリーズした場合の最後の手段として使用してください。


ユニティ モード表示中に Windows または Linux アプリケーションを開く

仮想マシンがユニティ モードで実行しているときは、ゲスト OS のデスクトップは表示されませんが、デスクトップが表示されていなくてもアプリケーションを開くことができます。

オペレーティング システムでアプリケーションを使用するときは、複数の方法でアプリケーションを起動できます。デスクトップのアイコンをクリックしたり、スタート メニューやそれと同等の方法を使用したりします。仮想マシンでユニティ モードを使用しているときは、Mac のデスクトップに表示されるのはアクティブなアプリケーションのウィンドウだけなので、これらの方法は使用できません。

手順

- アプリケーション メニューから直接アプリケーションを選択します。



- a Apple メニュー バーのアプリケーション メニュー ステータス項目 () をクリックします。
- b タイトル バーのポップアップ メニューをクリックし、目的のアプリケーションを含む仮想マシンを選択します。
- c リストでアプリケーションのアイコンをクリックするか、[すべてのプログラム] をクリックして探します。

- Mac の Dock に仮想マシン アプリケーションを格納します。
 - a アプリケーションを開いたまま、ユニティ モードに切り替えます。
アプリケーションが Mac の Dock 内に表示されます。
 - b Dock 内のアプリケーションを Control キーを押しながらクリックするか、右クリックして、**[オプション]-[Dock に追加]** を選択します。
アプリケーションは Dock に保持され、Fusion が現在実行していなくても Dock からアプリケーションを開くことができます。
- Windows のタスクバーを表示して [スタート] メニューを使用します。
 - a **[表示]-[ユニティでタスクバーを表示]** を選択します。
タスクバーを表示するには、Mac Dock の位置を動かすことが必要になる場合があります。
 - b [スタート] メニューをクリックしてアプリケーションを選択します。

アプリケーション メニューから Windows または Linux のアプリケーションを開く

アプリケーション メニューは Mac のアップル メニュー バーに状況項目として表示されるので、表示されているインターフェイスに関係なく仮想マシンのアプリケーションを開くことができます。

手順

-  アプリケーション メニュー () からアプリケーションを直接選択します。[「アプリケーション メニューを使用したゲスト アプリケーションの検索 \(P. 18\)」](#) を参照してください。
- アプリケーション メニューを使用して、アプリケーションを検索します。

Mac とのファイルの移動と共有

Fusion を使用すると、仮想マシンと Mac の間でファイルを移動および共有できます。

仮想マシンと Mac 間でのファイルとテキストの移動およびコピー

ファイルとフォルダをドラッグして、仮想マシンと Mac の間でそれらを移動およびコピーできます。コピー アンド ペーストまたはカット アンド ペーストを使用して、テキストを移動できます。

Windows アプリケーションと Mac アプリケーションの間でイメージをドラッグすることもできます。Windows 仮想マシンから Mac に Outlook 添付ファイルをドラッグできます。仮想マシン内のファイルを Mac アプリケーションに直接ドラッグできます。

Windows または Linux の仮想マシンと Mac の間で、イメージおよび書式設定されたテキストをコピー アンド ペーストできます。

これらの機能には VMware Tools が必要です。

仮想マシンと Mac 間でのファイルとフォルダのドラッグ

マウスを使用して、どちらの方向にでもファイルおよびフォルダをドラッグできます。

手順

- ◆ 仮想マシンまたは Mac のいずれかで、移動するファイルまたはフォルダのアイコンの上にマウス ポインタを置き、マウスの主ボタンを押したまま、ファイルまたはフォルダを別の場所にドラッグします。

Fusion により、ファイルまたはフォルダが指定した場所にコピーされます。

メニューを使用した仮想マシンと Mac 間でのコピー アンド ペースト

仮想マシンと Mac の間でコピー アンド ペーストを行うことができます。

Windows および Linux の仮想マシンと Mac の間で、イメージおよびテキストをコピー アンド ペーストできます。

手順

- 1 仮想マシンまたは Mac のいずれかで、テキストを選択します。
- 2 [編集] メニューから、テキストをコピーする場合は [コピー] を選択し、テキストを移動する場合は [カット] を選択します。
- 3 マウス ポインタを別の場所に移動します。
- 4 [編集] メニューから、[ペースト] を選択して、テキストを別の場所にコピーまたは移動します。

キーボード ショートカットを使用した仮想マシンと Mac 間でのコピー アンド ペースト

仮想マシンと Mac の間でコピー アンド ペーストを行うことができます。

Windows および Linux の仮想マシンと Mac の間で、イメージおよびテキストをコピー アンド ペーストできます。

開始する前に

これらのショートカットを使用する場合は、Fusion の環境設定で [Mac OS キーボード ショートカットを有効にする] が選択されていることを確認してください。

手順

- 1 仮想マシンまたは Mac のいずれかで、テキストを選択します。
- 2 テキストをコピーするには Mac キーボード ショートカット **⌘**[+ C] を使用し、テキストを移動するには **⌘**[+ X] を使用します。
- 3 マウス ポインタを別の場所に移動します。
- 4 テキストを新しい場所にコピーまたは移動するには、Mac キーボード ショートカット **⌘**[+ V] を使用します。

Windows エクスプローラを使用した Windows ゲストでの共有フォルダの表示

Windows エクスプローラを使用して、Mac と Windows 間の共有フォルダを表示できます。

手順

- 1 Windows エクスプローラを開きます。
- 2 アドレス バーに、**\\vmware-host\Shared Folders** と入力します。

エクスプローラ ウィンドウに共有フォルダが表示されます。

共有フォルダをドライブとしてマッピングして Windows ゲスト内で表示

Windows で共有フォルダをドライブとしてマッピングすることで、Mac と Windows 間の共有フォルダを表示できます。

手順

- 1 Windows エクスプローラを起動します。
- 2 [マイ コンピュータ] または [コンピュータ] に移動します。

- 3 ネットワーク ドライブをマッピングするコマンドを実行します。

オプション	説明
Windows Vista、Windows 7、Windows 8、および Windows 10	[ネットワーク ドライブの割り当て] をクリックします。
Windows Vista、Windows 7、Windows 8、Windows 10 以外の Windows オペレーティング システム	[ツール] - [ネットワーク ドライブの割り当て] をクリックします。

- 4 割り当てるドライブを選択します。
- 5 [フォルダ] フィールドに `\\vmware-host\Shared Folders\` と入力します。
- 6 [完了] をクリックします。
- 共有フォルダが、マッピングしたドライブの状態で Windows エクスプローラに表示されます。

Linux ゲストで共有フォルダを表示

特定のディレクトリに移動して共有フォルダを検索できます。

手順

- ◆ Linux ゲスト上の共有フォルダを表示するには、`/mnt/hgfs` ディレクトリを開きます。

Mac と Windows 仮想マシン間でのアプリケーションの共有

仮想マシンの [設定] ウィンドウの [アプリケーション] パネルでは、Mac で仮想マシンのアプリケーションを開くことができるように、仮想マシンで Mac のアプリケーションを開くことができるように、またはこの両方とも可能のように、Fusion を設定できます。

Mac 上のアプリケーションで仮想マシン内のファイルを開く

仮想マシンでファイルを選択すると、Mac 上で適切なアプリケーションを使用してそのファイルを開くことができます。

開始する前に

次の条件が満たされていることを確認します。

- 仮想マシンの [設定] ウィンドウの共有パネルで、[共有フォルダ] を有効にしている。
- [設定] ウィンドウの [デフォルト アプリケーション] パネルで、[Mac アプリケーションを使用して Windows のファイルおよび Web リンクを開く] を有効にしている。
- 共有するフォルダを 1 つ以上選択している。
- 開くファイルが共有フォルダに存在している。

手順

- ファイルを 1 回だけ開くには、ファイルを右クリックし、[このアプリケーションで開く] を選択して、[Default Host Application] を選択します。

Fusion は Mac 上で適切なアプリケーションを判別し、そのアプリケーションを使用してファイルを開きます。

- 特定のファイルを常に Mac アプリケーションで開く場合は、ファイルを右クリックし、[プロパティ] を選択し、このアプリケーションで開く の [変更] をクリックして、[このアプリケーションで開く] ダイアログ ボックスで [Default Host Application] を選択します。

そのファイルを開くときは常に、Mac アプリケーションで開かれます。

- このタイプのファイルを常に Mac アプリケーションで開くには、ファイルを右クリックして [このアプリケーションで開く] を選択し、[Default Host Application] - [プログラムの選択] を選択し、[この種類のファイルを開くときは、選択したプログラムをいつも使う] を選択します。

Fusion は Mac 上で適切なアプリケーションを判別し、このタイプのファイルを開くときは常にそのアプリケーションを使用します。

仮想マシン内のアプリケーションで Mac 上のファイルを開く

仮想マシン内の適切なアプリケーションを使用して、Mac 上のファイルを開くことができます。

Windows 仮想マシンの場合、1 回だけのイベントとして仮想マシンのアプリケーションで Mac のファイルを開くことも、ファイルを開くときに常に使用するアプリケーションを設定することもできます。

開始する前に

次の条件が満たされていることを確認します。

- 仮想マシンの [設定] ウィンドウの共有パネルで、[共有フォルダ] を有効にしている。
- 共有するフォルダを 1 つ以上選択している。
- 開くファイルが共有フォルダに存在している。
- [設定] ウィンドウの [デフォルト アプリケーション] パネルで、[共有フォルダ] を有効にしている。

手順

- 1 回だけのイベントの場合は、ファイルを右クリックし、[このアプリケーションで開く] を選択して、メニューからアプリケーションを選択します。

複数の仮想マシンに同じアプリケーションが存在する場合があるので、メニュー エントリでは仮想マシンの名前とアプリケーション名が示されます。

ファイルはメニューに表示されるアプリケーションで開かれます。

- 常に仮想マシンのアプリケーションで開くには、ファイルを右クリックし、[情報を見る] を選択し、[このアプリケーションで開く] ポップアップ メニューからアプリケーションを選択します。
- (オプション) そのアプリケーションを使用してそのタイプのすべてのファイルを開く場合は、[すべてを変更] をクリックします。

そのファイルを開くときは常に、選択したアプリケーションで開かれます。

Mac の Dock への Windows または Linux アプリケーションの格納

Windows または Linux のアプリケーションのアイコン タイルを Mac の Dock に格納し、Mac アプリケーションを開くのと同じ方法でそのアプリケーションを開くことができます。VMware Fusion のメニュー バーまたはゲスト OS のインターフェイスを使用しなくても、仮想マシンのアプリケーションにアクセスできます。

手順

- 1 アプリケーションを開いたまま、ユニティ モードに切り替えます。
アプリケーションが Mac の Dock 内に表示されます。
- 2 Dock 内のアプリケーションを Control キーを押しながらクリックするか、右クリックして、[オプション] - [Dock に追加] を選択します。

パワーオンされている仮想マシン間の切り替え

同時に複数の仮想マシンを操作でき、それらの間を簡単に切り替えることができます。

手順

- ◆ Fusion の [ウィンドウ] メニューから使用する仮想マシンを選択します。

仮想マシンでの Mac 入力デバイスの使用

仮想マシンで Mac のキーボード、マウス、トラックパッドを使用するには、設定を変更し、PC コマンドに相当するキーの組み合わせを使用することが必要な場合があります。

Apple Mighty Mouse の副ボタンの有効化

仮想マシンで Apple Mighty Mouse を使用すると、Control + クリックを実行しても右クリック操作が行われません。仮想マシンで右クリックを実行するには、副ボタンを使用可能にする必要があります。

手順





- 1 [VMware Fusion] - [環境設定] の順に選択し、[キーボードとマウス] をクリックします。
- 2 [副ボタン] チェック ボックスを選択します。
- 3 (オプション) 副ボタンのショートカットを変更するには、現在のショートカットをダブルクリックし、新しいショートカットを選択して [OK] をクリックします。

仮想マシンでの Mac キーボードの使用

PC と Mac ではキーボードが異なるため、Mac のキーボードで PC コマンドを入力するには、特定のキーの組み合わせを使用する必要があります。

Fusion の [仮想マシン] メニューには、対応するキーがキーボードに存在しない場合に使用する [キーの送信] 項目があります。

表 5-4. PC と Mac で同等のキーボード

PC のキーボード	Apple の外付けキーボード	MacBook および MacBook Pro 内蔵キーボード
F1 ~ F12	F1 ~ F12	fn + F1 ... fn + F12
Print Screen	F14	([キーの送信] を使用)
Scroll Lock	F15	([キーの送信] を使用)
Pause/Break	F16	([キーの送信] を使用)
Backspace	delete	delete
delete  (Forward Delete)	delete 	fn + delete
Insert (上書きと切り替え)	help (初期モデル)	([キーの送信] を使用し、[ヘルプ] 項目を選択)
Num Lock	clear	fn + num lock F6
コマンド (Windows ロゴ キー、Ctrl キーと Alt キーの間)		
Alt	alt option	alt option


仮想マシン上でのキーボードとマウスの入力の有効化

マウスとキーボードの入力を仮想マシンに取り込むように設定することができます。そうすると、マウス ポインタは仮想マシン ウィンドウ内に限定され、キーボードとマウスのすべての入力は仮想マシンに送られます。

通常、VMware Tools がインストールされている場合、仮想マシン内をクリックすると、Fusion がキーボードとマウスの入力を仮想マシンに送信します。Mac デスクトップ上をクリックすると、キーボードとマウスの入力は Mac ホストに送られます。すべての入力を仮想マシンに送ることができます。

手順

- ◆ キーボードとマウスの入力を取得または解除します。

オプション	操作
仮想マシンでキーボードとマウスの入力を有効にする	キーボードでコマンド キー + G を押します。
仮想マシンでキーボードとマウスの入力を強制解除する	キーボードで Ctrl +  を押します。

Windows と Mac 間のファイルの共有

ゲスト OS で共有フォルダを設定して、Mac と Windows および他の仮想マシン間でファイルを共有できます。

仮想マシンの [設定] ウィンドウの [共有] パネルでは、Mac 上の共有フォルダを選択し、仮想マシンで使用できるようにすることができます。この機能には VMware Tools が必要です。

Windows 仮想マシンのフォルダと Mac のフォルダをミラーリングできます。ミラー フォルダにより、仮想マシンの主要なフォルダと Mac フォルダ ([デスクトップ]、[ドキュメント]、[ダウンロード]、[ムービー]、[ミュージック]、および [ピクチャ]) が対応付けられます。

共有フォルダを使用するには、仮想マシンを設定して共有フォルダを有効にし、共有する Mac 上のディレクトリを指定する必要があります。共有フォルダは、Mac ファイル システム内に存在しても、Mac からアクセスできるネットワーク ディレクトリであってもかまいません。

共有フォルダの表示方法は、ゲスト OS によって異なります。共有フォルダは、特定の Windows および Linux ゲスト OS で表示できます。リストについては、[「共有フォルダをサポートするゲスト OS \(P. 77\)」](#) を参照してください。共有フォルダを表示するには、先に共有フォルダ機能を有効にして設定する必要があります。

注意 複数のアプリケーションで同時に共有フォルダのファイルを開かないでください。たとえば、Mac のオペレーティング システムのアプリケーションと、仮想マシンのオペレーティング システムの別のアプリケーションを使用して、同じファイルを同時に開かないでください。一方のアプリケーションがファイルに書き込むと、データが壊れる可能性があります。

この章では次のトピックについて説明します。

- [共有フォルダをサポートするゲスト OS \(P. 77\)](#)
- [ミラー フォルダをサポートするゲスト OS \(P. 78\)](#)
- [仮想マシン用の共有フォルダまたはミラー フォルダの有効化 \(P. 78\)](#)
- [ミラー フォルダの追加または削除 \(P. 79\)](#)
- [共有フォルダの追加 \(P. 79\)](#)
- [共有フォルダの削除 \(P. 79\)](#)

共有フォルダをサポートするゲスト OS

一部のオペレーティング システムを実行する仮想マシンで共有フォルダを使用できます。

Fusion は、Windows、Mac OS X Server、および Linux の特定のオペレーティング システムで共有フォルダをサポートします。

- Windows 10
- Windows 8.1

- Windows 8
- Windows 7
- Windows Server 2012
- Windows Server 2008
- Windows Server 2003
- Windows Vista
- Windows XP
- Windows 2000
- Windows NT 4.0
- Mac OS X Server 10.5.8、10.6、10.7、10.8、10.9、10.10、10.11
- カーネルのバージョンが 2.4 以降のサポートされる Linux ゲスト OS

ミラー フォルダをサポートするゲスト OS

さまざまな Windows オペレーティングシステムを実行する仮想マシンでミラー フォルダを使用できます。

Fusion は、次の Windows オペレーティングシステムでミラー フォルダをサポートします。

- Windows 10
- Windows 8
- Windows 7
- Windows Vista
- Windows XP

Fusion は、Windows 2000 以前または Windows Server 2003 と Windows Server 2008 でミラー フォルダをサポートしません。サポートされないゲスト OS が仮想マシンに搭載されている場合は、[設定] ウィンドウの [共有] パネルで選択項目が無効になります。

仮想マシン用の共有フォルダまたはミラー フォルダの有効化

共有またはミラーリングするフォルダを識別するには、先に仮想マシンに共有フォルダを設定する必要があります。

手順

- 1 [ウィンドウ] - [仮想マシンのライブラリ] を選択します。
- 2 [仮想マシンのライブラリ] ウィンドウで仮想マシンを選択し、[設定] をクリックします。
- 3 [設定] ウィンドウの [システム設定] で、[共有] をクリックします。
- 4 [共有フォルダを有効にする] チェック ボックスを選択します。

これによって、共有フォルダが有効になります。また、サポートされる Windows ゲスト OS のミラー フォルダも有効になります。

ミラー フォルダの追加または削除

Fusion ミラー フォルダでは、デスクトップ、書類、ダウンロード、ムービー、ミュージック、ピクチャなどの Mac の特殊なフォルダを、特定の Windows 仮想マシンの対応するフォルダにマップできます。

手順

- 1 [ウィンドウ] - [仮想マシンのライブラリ] を選択します。
- 2 [仮想マシンのライブラリ] ウィンドウで仮想マシンを選択し、[設定] をクリックします。
- 3 [設定] ウィンドウの [システム設定] で、[共有] をクリックします。
- 4 [共有フォルダを有効にする] チェック ボックスを選択します。
- 5 [ミラー フォルダ] セクションで、ミラーリングする Mac フォルダを選択し、ミラーリングしないフォルダを選択解除します。

共有フォルダの追加

共有フォルダを使用して、仮想マシンと Mac の間でファイルを共有できます。

手順

- 1 [ウィンドウ] - [仮想マシンのライブラリ] を選択します。
- 2 [仮想マシンのライブラリ] ウィンドウで仮想マシンを選択し、[設定] をクリックします。
- 3 [設定] ウィンドウの [システム設定] で、[共有] をクリックします。
- 4 [共有フォルダを有効にする] チェック ボックスを選択します。
- 5 表示されているボックスの下にある追加 (x) ボタンをクリックします。[]
- 6 [Finder] シートで、共有するフォルダの場所を検索し、そのフォルダを選択して [追加] をクリックします。
- 7 [アクセス許可] フィールドで、Mac の共有フォルダの内容に対する仮想マシンのアクセス許可を設定します。

オプション	説明
[読み取り/書き込み]	仮想マシンから Mac 上の共有フォルダの内容を変更できるようになります。
[読み取り専用]	仮想マシンにより Mac 上の共有フォルダの内容が変更されることはありません。

Mac でのアクセス許可の設定によっても、共有フォルダ内のファイルへのアクセスが左右されます。ファイルまたはフォルダの読み取り専用アクセス許可は、共有フォルダ アクセス許可設定より優先されます。

共有フォルダの削除

共有フォルダのリストからフォルダを削除して、共有を停止できます。

手順

- 1 [ウィンドウ] - [仮想マシンのライブラリ] を選択します。
- 2 [仮想マシンのライブラリ] ウィンドウで仮想マシンを選択し、[設定] をクリックします。
- 3 [設定] ウィンドウの [システム設定] で、[共有] をクリックします。
- 4 [共有] パネルの上部に表示されているボックスで、削除するフォルダを選択します。
- 5 表示されているボックスの下にある削除 (-) ボタンをクリックします。[]

仮想マシンの保護

スナップショット、AutoProtect、無償のアンチ ウイルス ソフトウェア、およびバックアップ アプリケーションを使用することで、データの損失や他の問題から、仮想マシンを保護できます。

この章では次のトピックについて説明します。

- [スナップショット \(P. 81\)](#)
- [AutoProtect \(P. 83\)](#)
- [Windows 仮想マシンへの McAfee AntiVirus Plus のインストール \(P. 84\)](#)
- [外部メディアへの仮想マシンのコピー \(P. 85\)](#)
- [Mac 上の Fusion での Time Machine の使用 \(P. 85\)](#)

スナップショット

Fusion でスナップショットをとると、仮想マシンの状態を保存でき、保存した状態に戻ることができます。

仮想マシン上で結果が不確かな操作を行う前などに、いつでもスナップショットをとることができます。たとえば、仮想マシンのシステム ソフトウェアに OS のアップグレードや主要な構成の変更などの変更を加える前に、スナップショットをとることができます。変更後に想定通りに機能しないものがある場合は、スナップショットを復元して、仮想マシンを前の状態に戻ることができます。

また、インターネットにアクセスする前や、不明なネットワークにログインする前にも、スナップショットをとることができます。コンピュータがソフトウェア ウイルスやスパイウェアに感染した場合、スナップショットを復元して、仮想マシンを感染前の状態に戻ることができます。

スナップショットは、スナップショットをとった時点での仮想マシンの全体的な状態を取得します。

- **メモリの状態** 仮想マシンのメモリの内容
- **設定の状態** 仮想マシンの設定
- **ディスクの状態** すべての仮想ディスクの状態

スナップショットはバックアップとは異なります。スナップショットは仮想マシンのコピーではありません。

仮想マシンのスナップショットの表示

[スナップショット] ウィンドウには、仮想マシンのすべてのスナップショットが表示されます。

[スナップショット] ウィンドウには、手動スナップショットと AutoProtect スナップショットが表示されます。

手順

- 1 スナップショットを表示する仮想マシンを選択するには、次のいずれかを実行します。
 - [仮想マシンのライブラリ] から仮想マシンを選択します。
 - 仮想マシンを開きます。
- 2 選択した仮想マシンの [スナップショット] ウィンドウを開くには、次のいずれかを実行します。
 - [仮想マシン]-[スナップショット] を選択します。
 - 仮想マシンのツールバーにある [スナップショット] ボタンをクリックします。

スナップショットをとる

仮想マシンの [スナップショット] ウィンドウから、仮想マシンの現在の状態のスナップショットをとることができます。

仮想マシンをパワーオンしなくても、スナップショットをとることができます。

Boot Camp 仮想マシンのスナップショットはとることができません。スナップショットは、将来変更されることのない既知の状態を保存できることが要件です。Boot Camp の場合、Boot Camp パーティションで Windows をネイティブに起動できるので、これは不可能です。Windows がネイティブに起動されると、既知の状態が失われてデータの損失が発生する場合があります。

手順

- 1 仮想マシンの [スナップショット] ウィンドウで、[現在の状態] が選択されていない場合は選択します。
- 2 [作成] をクリックします。
- 3 ダイアログで新しいスナップショットに名前を付け、説明を入力します。
- 4 [作成] をクリックします。
Fusion によって仮想マシンの現在の状態のスナップショットが作成されます。
- 5 [スナップショット] ウィンドウを閉じます。

仮想マシンをスナップショットの状態にリストアする

以前の状態に仮想マシンをリストアすることができます。

手順

- 1 [仮想マシン]-[スナップショット] を選択します。
- 2 リストアするスナップショットを選択します。
- 3 [リストア] をクリックします。
- 4 仮想マシンを選択したスナップショットの状態にリストアする前に現在の状態のスナップショットを保存するために [保存] をクリックするか、スナップショットを [保存しない] をクリックします。

選択したスナップショットによって取得された状態に仮想マシンがリストアされます。

スナップショットの削除

スナップショットが不要になったとき、または使用できるディスク領域を増やす必要があるときは、スナップショットを手動で削除できます。

スナップショットによって作成される仮想ディスク ファイルには、仮想マシンの仮想ディスクの内容全体は含まれません。スナップショットを削除するときは、そのスナップショットによって取得された変更を元の親仮想ディスクに統合する必要があります。

開始する前に

仮想ディスクの統合に十分な時間をかけます。サービス パックのアップグレードなどにより、スナップショットが取得した状態が以前の状態で大きく異なる場合、この統合には数時間かかる場合があります。

手順

- 1 [仮想マシン] - [スナップショット] を選択します。
- 2 削除するスナップショットを選択します。

オプション	操作
隣接する複数のスナップショットを選択する。	Shift キーを押しながらクリック
隣接しない複数のスナップショットを選択する。	コマンドキーを押しながらクリック

- 3 [削除] をクリックします。
 - 4 [削除] をクリックしてスナップショットの削除を確認します。
- スナップショットが削除され、仮想ディスクの統合が実行されます。

AutoProtect

Fusion では、AutoProtect 機能を使用して、一定間隔で仮想マシンの状態のスナップショットをとることができます。この機能により手動でスナップショットをとることができ、更にいつでもそれをとることができるようになります。

AutoProtect を使用して、30 分ごと、毎時、または毎日スナップショットを自動的にとるように Fusion に指示します。

AutoProtect での自動スナップショットの設定

Fusion では、AutoProtect 機能を使用して、設定した間隔で仮想マシンの状態のスナップショットを自動的にとることができます。また、いつでも手動でスナップショットをとることができます。

AutoProtect を有効にする場合は、一度に保持する AutoProtect スナップショットの最大数を設定します。所定の回数に達すると、Fusion は範囲内の最も古い AutoProtect スナップショットを削除して、最新のスナップショットのためのスペースを確保します。

この数は、手動でとって保存できるスナップショットの数に影響することがあります。1 つの仮想マシンに対して作成できるスナップショットは 100 個までで、仮想ディスク ファイルのタイプおよびサイズによってはこれよりも少なくなることがあります。AutoProtect スナップショットの合計数が上限に達すると、手動でスナップショットをとることができなくなります。

Fusion はこの設定を使用して、AutoProtect スナップショットが使用するハード ディスク領域の最低量を推定します。その情報はパネルの下部に表示されます。ハードディスク領域の最大量は、スナップショットとスナップショットの間に行った変更の量に応じて、推定を大きく上回る場合があります。

注意 仮想マシンの手動スナップショットまたは AutoProtect スナップショットがある場合は、仮想ハード ディスクの追加または変更はできません。

手順

- 1 仮想マシンを開くか、[仮想マシンのライブラリ] で仮想マシンを選択します。
- 2 [仮想マシン] - [スナップショット] を選択します。
- 3 [AutoProtect 設定] をクリックします。
- 4 [AutoProtect を有効化] チェック ボックスを選択します。
- 5 スナップショットをとる頻度を選択します。

- 6 AutoProtect スナップショットを保存する回数を選択します。
所定の回数に達すると、Fusion は範囲内の最も古い AutoProtect スナップショットを削除して、最新のスナップショットのためのスペースを確保します。
- 7 [完了] をクリックして AutoProtect の設定を適用します。
- 8 スナップショット表示を閉じ、仮想マシンに戻ります。

AutoProtect スナップショットの削除の防止

AutoProtect は、設定されている許容数を超えないようにするため、新しいスナップショットをとると最も古いスナップショットを削除します。ただし、AutoProtect スナップショットが削除されないようにできます。

手順

- 1 [スナップショット] ウィンドウで、AutoProtect スナップショットの上にカーソルを重ねた状態で、情報ボタン (i) をクリックします。
- 2 [スナップショットを保持] をクリックします。

Fusion では、AutoProtect スナップショットは手動でとったスナップショットと同じものとして認識されます。次の AutoProtect スナップショットをとっても、このスナップショットは削除されません。

Windows 仮想マシンへの McAfee AntiVirus Plus のインストール

Mac 上で Windows を安全に安心して使用できるように、VMware は、アンチ ウィルス ソフトウェアの実行をお勧めします。

VMware は McAfee, Inc. と提携しており、Fusion のユーザーに McAfee AntiVirus[®] Plus の 90 日間無償のサブスクリプションを提供します。

開始する前に

McAfee AntiVirus Plus は次のゲスト OS でサポートされています。

- Windows 10 (32 および 64 ビット)
- Windows 8 (32 および 64 ビット)
- Windows 7 SP1 x64
- Windows 7 SP1 x86
- Windows Vista SP2 x64
- Windows Vista SP2 x86
- Windows XP SP3
- Windows 2000 Professional SP4

手順

- 1 アンチウイルス ソフトウェアのインストーラにアクセスします。
 - VMware Tools のインストール後に仮想マシンを作成する場合、McAfee AntiVirus Plus をインストールするよう求めるダイアログが表示されます。[インストール] をクリックして McAfee AntiVirus Plus のダウンロードを開始します。
 - 既存の Windows 仮想マシンで、[仮想マシン] - [McAfee AntiVirus Plus をインストール] を選択します。McAfee のインストール ウィザードが表示されます。
- 2 [McAfee Security Center] ウィンドウで [次へ] をクリックして、Windows 仮想マシンにアンチウイルス ソフトウェアをインストールします。

外部メディアへの仮想マシンのコピー

仮想マシンはファイルなので、コピーすることでバックアップできます。

仮想マシンは他のプログラムを実行し、ファイルを操作しますが、仮想マシンがファイルであることに変わりはありません。そのため、外部メディアにコピーすることで仮想マシンをバックアップし、コピーして戻すことでリストアできます。

注意 Boot Camp 仮想マシンをコピーすることはできません。これは、Boot Camp 仮想マシンの場合、Fusion 仮想マシンは仮想ハード ディスクではなく Boot Camp パーティションを使用するためです。

開始する前に

仮想マシンをシャットダウンまたはパワーオフし、Fusion をシャットダウンします。

手順

- 1 仮想マシンをコピーする先のメディアに接続します。
- 2 仮想マシン フォルダ（通常は <user>/書類 フォルダ内）を参照し、コピーする仮想マシンを選択します。
- 3 右クリックして、["<仮想マシン名>" をコピー] を選択します。
- 4 Finder で外部メディアを開き、右クリックして、[項目をペースト] を選択します。

仮想マシン パッケージの内容が外部メディアにコピーされます。逆の手順を実行することで、コピーした仮想マシンを Mac にリストアできます。

Mac 上の Fusion での Time Machine の使用

Time Machine を使用する場合は、バックアップから仮想マシンを除外します。

仮想マシンの仮想ハード ディスク ファイルを変更すると、ファイル全体がバックアップされます。仮想マシンが 40 GB の場合、Time Machine がそれを 1 時間ごとにバックアップすると、ハード ディスクはすぐにいっぱいになってしまいます。

■ Time Machine からの仮想マシンの除外 (P. 85)

仮想マシンの問題を防ぎ、バックアップ メディアの領域を節約するため、Time Machine では仮想マシンをバックアップしないようにする必要があります。

■ Time Machine で Mac をバックアップする場合の共有フォルダとミラー フォルダの使用 (P. 86)

Time Machine を使用して仮想マシンからデータと書類をバックアップするには、これらのファイルを Mac 上に置いておきます。

Time Machine からの仮想マシンの除外

仮想マシンの問題を防ぎ、バックアップ メディアの領域を節約するため、Time Machine では仮想マシンをバックアップしないようにする必要があります。

Time Machine によるバックアップから仮想マシンを除外しないと、Time Machine は実行中の仮想マシンをバックアップする可能性があります。この種のバックアップからリストアを行うと、不完全で壊れている可能性のある仮想マシンによって、現在の仮想マシンが上書きされます。仮想マシンをバックアップする場合にお勧めする方法については、「[外部メディアへの仮想マシンのコピー \(P. 85\)](#)」を参照してください。

手順

- 1 Mac の [システム環境設定] を開き、[Time Machine] をクリックします。
- 2 [オプション] をクリックします。
- 3 [バックアップから除外する項目] リストの下にある追加 (+) ボタンをクリックします。[]

- 4 Mac の書類フォルダを参照し、仮想マシンフォルダを選択して、[除外] をクリックします。

仮想マシン フォルダが [バックアップから除外する項目] リストに表示され、すべての仮想マシンによって使用される総メモリが表示されます。

- 5 [完了] をクリックして、[Time Machine] ウィンドウを閉じます。

Time Machine で Mac をバックアップする場合の共有フォルダとミラー フォルダの使用

Time Machine を使用して仮想マシンからデータと書類をバックアップするには、これらのファイルを Mac 上に置いておきます。

仮想マシンで共有フォルダおよびミラー フォルダを使用する場合は、書類とデータをゲストではなくホスト上のファイルとして保存します。こうすることで、仮想マシンは Time Machine のバックアップから除外しても、共有フォルダおよびミラー フォルダ内のファイルは仮想マシンに存在しないため Time Machine でバックアップできます。[「仮想マシン用の共有フォルダまたはミラー フォルダの有効化 \(P. 78\)」](#)を参照してください。

開始する前に

Time Machine から仮想マシンを除外します。

手順

- ◆ 共有フォルダまたはミラー フォルダを有効にします。

仮想マシンの設定

仮想マシンによる Mac システムのハードウェアおよび接続されているデバイスの使用方法を設定できます。仮想ハードディスクを管理できます。

この章では次のトピックについて説明します。

- [Fusion の全般的なシステム設定 \(P. 87\)](#)
- [Fusion の起動時に仮想マシンが起動するように設定 \(P. 88\)](#)
- [仮想プロセッサとメモリの設定 \(P. 88\)](#)
- [デフォルト アプリケーションの有効化 \(P. 91\)](#)
- [キーボードおよびマウス プロファイルの設定 \(P. 92\)](#)
- [リモート仮想マシンでの CD/DVD ドライブの有効化 \(P. 92\)](#)
- [リモート仮想マシンでのフロッピー ドライブの有効化 \(P. 93\)](#)
- [サーバまたはリモート仮想マシンの状態の表示 \(P. 93\)](#)
- [3D グラフィックスの高速化の有効化 \(P. 93\)](#)
- [Retina ディスプレイ サポートの有効化 \(P. 94\)](#)
- [仮想マシンのホットキーの有効化 \(P. 94\)](#)
- [ディスクリート グラフィックスの管理の設定 \(P. 95\)](#)
- [仮想マシンのデフォルト プリンタの設定 \(P. 95\)](#)
- [デバイスの追加 \(P. 96\)](#)
- [起動デバイスの選択 \(P. 116\)](#)
- [仮想マシンの暗号化と制限 \(P. 117\)](#)
- [仮想マシンの互換性 \(P. 120\)](#)
- [仮想マシンのゲストの隔離オプションの構成 \(P. 122\)](#)
- [詳細設定の管理 \(P. 122\)](#)

Fusion の全般的なシステム設定

全般的なシステム設定では、仮想マシンに関する基本的な情報を確認できます。

仮想マシンの全般的なシステム設定には、仮想マシンの名前、ゲスト OS、説明などがあります。一部の設定はこのパネルで直接変更できます。

表 8-1. 全般的なシステム設定

設定	説明
名前	これを作成した時に指定した仮想マシンの名前です。この名前は、[仮想マシンのライブラリ] に表示されます。仮想マシンの名前はいつでも変更できます。
OS	仮想マシンにインストールされたゲスト OS です。この名前は、仮想マシンを作成した時に選択したゲスト OS として通常は提供されます。このゲスト OS をアンインストールして異なる OS をインストールすると、ここに一覧表示されるゲスト OS が変更されます。
注意	この仮想マシンに関する説明、仮想マシンの用途、またはその他の情報をいつでも追加できます。
Fusion 起動時に自動的に起動します	Fusion が起動したときに仮想マシンが起動します。

注意 制限された仮想マシンは、すべての設定のサブセットだけを表示します。

全般的なシステム設定には、仮想マシンのハード ディスクに関する情報も表示されます。ディスクのクリーンアップについての推奨について全般的なシステム設定を確認します。

Fusion の起動時に仮想マシンが起動するように設定

Fusion の起動時に任意の仮想マシンを起動するように設定できます。

Fusion の起動時に任意の数の仮想マシンを起動するように設定できます。このオプションは、Fusion の起動時に起動する各仮想マシンで選択する必要があります。

多くの仮想マシンを起動する必要がある場合、仮想マシンを Fusion の起動時に起動するように設定しておく便利です。Fusion が起動するたびに常にレジュームする必要がある仮想マシンをラップトップを使用して実行する場合などに、Fusion の起動時に仮想マシンを起動します。

手順

- 1 [ウィンドウ]-[仮想マシンのライブラリ] を選択します。
- 2 [仮想マシンのライブラリ] ウィンドウで仮想マシンを選択し、[設定] をクリックします。
- 3 [設定] ウィンドウの [システム設定] で、[一般] を選択します。
- 4 [VMware Fusion 起動時に自動的に起動します] チェック ボックスを選択します。

Fusion が起動するたびに仮想マシンが起動します。

仮想プロセッサとメモリの設定

プロセッサの数、使用できる仮想メモリの量、およびハイパーバイザー アプリケーションおよびコード プロファイリング アプリケーションを有効にするかどうかを、仮想マシンのプロセッサ設定で設定できます。

仮想プロセッサ数の設定

使用可能なプロセッサ数を増やすことによって、同時に実行できるタスク数が増えるため、仮想マシンのパフォーマンスを向上できます。仮想マシンに仮想プロセッサを割り当てると、Mac で使用可能なプロセッサ リソースが減少します。

生産性向上用の Office およびインターネット アプリケーションを主に実行する Windows 仮想マシンの場合、複数の仮想プロセッサを使用してもメリットはないので、デフォルトの単一仮想プロセッサが最善です。サーバの負荷および数値計算が集中するアプリケーションでは、追加の仮想プロセッサによってアプリケーション パフォーマンスが改善する場合があります。

アプリケーション	推奨されるプロセッサ数
デスクトップ アプリケーション	1 個のプロセッサ
サーバ オペレーティング システム	2 個のプロセッサ
ビデオ エンコーディング、モデリング、および科学的	4 個のプロセッサ

状況によっては、プロセッサを追加すると仮想マシンおよび Mac で全般的なパフォーマンスが低下することがあります。これは、オペレーティング システムまたはアプリケーションがプロセッサを効率的に使用していない場合に発生します。この場合は、プロセッサ数を少なくしてください。

Mac のすべてのプロセッサを仮想マシンに割り当てると、極端なパフォーマンス低下が生じます。Mac アプリケーションが実行されていない場合であっても、Mac OS X はバックグラウンド タスクの実行を続行する必要があります。すべてのプロセッサを仮想マシンに割り当てると、重要な Mac のタスクの完了が妨げられます。

開始する前に

仮想マシンをシャットダウンまたはパワーオフしてください。仮想マシンがパワーオンまたはサスペンド状態の場合、設定を変更することはできません。

手順

- 1 [ウィンドウ]-[仮想マシンのライブラリ] を選択します。
- 2 [仮想マシンのライブラリ] ウィンドウで仮想マシンを選択し、[設定] をクリックします。
- 3 [設定] ウィンドウの [システム設定] で、[プロセッサとメモリ] をクリックします。
- 4 仮想マシンのプロセッサ コア数を選択します。
プロセッサの選択数についての情報は、[プロセッサ&メモリ] ウィンドウの下に表示されます。
- 5 仮想マシンを再起動します。

仮想メモリ量の設定

使用可能なメモリを増やすことによって、特定のアプリケーションのパフォーマンスを向上できます。オペレーティング システムで使用可能なメモリが増えると、キャッシングが促進され、仮想マシンのパフォーマンスが向上する可能性があります。仮想マシンで使用可能な仮想メモリ量を変更できます。

Windows と Mac アプリケーションのパフォーマンスを最善のバランスにするには、Windows に割り当てるメモリが多すぎないようにします。これは、多すぎると Mac が遅くなる場合があるためです。Windows XP の場合、インターネットおよび生産性向上用 Office アプリケーションには、512 MB のメモリが最適です。

Windows Vista、Windows 7、Windows 8、および Windows 10 の場合は、インターネットおよび生産性向上用 Office アプリケーションには、1 GB のメモリが最適です。Windows 7、Windows 8、および Windows 10 では、32 ビット版と 64 ビット版の両方で 1 GB のメモリが適しています。デフォルトでは、Mac のメモリが 6 GB 以上ある場合、Fusion は、64 ビット版の Windows 7、Windows 8、または Windows 10 ゲストに対して 2 GB のメモリを使用します。これらの設定は、Fusion 簡易インストールで作成される Windows 仮想マシン用のデフォルトのメモリ設定です。

注意 製造メーカーの推奨設定は、パフォーマンスに関して一般的に仮想化を考慮に入れていません。良好なパフォーマンスは、仮想マシンの要件と Mac の要件のバランスに基づきます。

開始する前に

仮想マシンをシャットダウンまたはパワーオフしてください。仮想マシンがパワーオンまたはサスペンド状態の場合、設定を変更することはできません。

手順

- 1 [ウィンドウ]-[仮想マシンのライブラリ] を選択します。
- 2 [仮想マシンのライブラリ] ウィンドウで仮想マシンを選択し、[設定] をクリックします。

- 3 [設定] ウィンドウの [システム設定] で、[プロセッサとメモリ] をクリックします。
- 4 スライダ コントロールを使用して、仮想マシンに割り当てるメモリの量を設定します。
メモリ スライダ コントロールは、仮想マシンの推奨メモリ量を表示します。

プロセッサ オプションの詳細設定

ハイパーバイザー アプリケーション、パフォーマンス カウンタを使用するアプリケーション、または特定の仮想マシンで両方を有効にできます。

Fusion 仮想マシンでは、以下の詳細オプションを使用できます。

- 仮想マシン内で Workstation Pro や Fusion などのハイパーバイザー アプリケーションを実行できます。たとえば、Fusion を使用して仮想マシンを作成し、その仮想マシンに Workstation Pro をインストールし、Workstation Pro のそのバージョンを使用して仮想マシンを作成できます。
- VTune または OProfile などのコード プロファイリング アプリケーションを使用して、仮想マシン内で実行するソフトウェアを最適化またはデバッグできます。

[この仮想マシンでハイパーバイザー アプリケーションを有効にする] 設定は、[優先される仮想化エンジン] と呼ばれる詳細な仮想マシン設定と関係があります。ハイパーバイザー アプリケーションを有効にする場合、[優先される仮想化エンジン] 設定で行った選択は上書きされ、[Intel VT-x/EPT] と呼ばれる設定が使用されます。

選択する優先されるエンジンは環境設定のみです。仮想マシンで動作しない環境設定を選択すると、通常は別の仮想化エンジンが使用されます。このため、最善の方法としては、[この仮想マシンでハイパーバイザー アプリケーションを有効にする] 設定を古い Windows OS で使用しないでください。使用すると、仮想マシンはバイナリ変換を使用することができず、OS は特定の種類の状態を解決できなくなります。

[この仮想マシンでハイパーバイザー アプリケーションを有効にする] 設定は、組み込まれたハイパーバイザーを持つゲスト OS の有効に関係ありません。たとえば、Windows 8 に組み込まれている Hyper-V のハイパーバイザーを有効にするには、[この仮想マシンでハイパーバイザー アプリケーションを有効にする] 設定を使用しないでください。その代わりに、[一般] 仮想マシン設定にリストされている OS を [Hyper-V (サポートされていない)] に変更してください。さらに、Windows Hyper-V ゲスト OS がある仮想マシンを所有しており、[この仮想マシンでハイパーバイザー アプリケーションを有効にする] チェック ボックスを選択した後にクリアすると、ハイパーバイザー アプリケーションは実行できなくなります。

重要 これらの設定のいずれかを有効にして仮想マシンを別のホスト システムに移動する場合、同じ種類の CPU を新しいホスト システムで使用していることを確認してください。

開始する前に

- 仮想マシンが Fusion 8 以降の仮想マシンと互換性があることを確認します。
- 仮想マシンに古いゲスト OS、たとえば Windows XP より古いバージョンの Windows がインストールされていないことを確認します。
- ホスト システムに、Virtualized Intel VT-x/EPT、パフォーマンス カウンタ、またはその両方をサポートするために十分に新しい CPU が搭載されていることを確認します。たとえば、高度なオプションをサポートするホスト CPU には、Nehalem、Westmere、または Sandy Bridge マイクロアーキテクチャに基づく Intel CPU が含まれます。現在の Intel 命名規則では、これらのプロセッサには、Intel Core i5 などの Intel Core i プロセッサが含まれます。

ハイパーバイザー アプリケーションをサポートするプロセッサがホスト システムに搭載されていない場合、仮想マシンのハイパーバイザー アプリケーションを有効にすると、仮想マシンを起動するときに、次のようなメッセージが表示されます。「このプラットフォームでは、仮想化 Intel VT-x/EPT がサポートされていません。仮想化 Intel VT-x/EPT なしで続行しますか?」
- 仮想マシンをシャットダウンまたはパワーオフしてください。仮想マシンがパワーオンまたはサスペンド状態の場合、設定を変更することはできません。

手順

- 1 [ウィンドウ]-[仮想マシンのライブラリ] を選択します。
- 2 [仮想マシンのライブラリ] ウィンドウで仮想マシンを選択し、[設定] をクリックします。
- 3 [設定] ウィンドウの [システム設定] で、[プロセッサとメモリ] をクリックします。
- 4 クリックして [詳細オプション] を展開し、使用したいオプションのチェック ボックスを選択します。

デフォルト アプリケーションの有効化

ファイルが Mac 上にあるか仮想マシン内にあるかにかかわらず、特定のアプリケーションでそのファイルを開くことができるように Fusion を設定できます。

デフォルト アプリケーション設定で、仮想マシンのアプリケーションを Mac の [アプリケーション] メニューおよび Spotlight に追加することができます。

開始する前に

- VMware Tools がインストールをされていることを確認します。
- 仮想マシンがサスペンドされている場合は、パワーオンします。

手順

- [ウィンドウ]-[仮想マシンのライブラリ] を選択します。
- [仮想マシンのライブラリ] ウィンドウで仮想マシンを選択し、[設定] をクリックします。
- [設定] ウィンドウの [システム設定] で、[デフォルト アプリケーション] をクリックします。
- Mac と仮想マシン間で共有するアプリケーションのデフォルトを選択します。

複数のオプションを同時に有効にできます。

オプション	説明
Windows アプリケーションを使用して Mac のファイルおよび Web リンクを開く	仮想マシン内のアプリケーションを使用して、Mac に存在するファイルを開くことができます。たとえば、Mac 上に保存されている Microsoft Word の書類を仮想マシンの Microsoft Office アプリケーションで開くことができます。
Mac アプリケーションを使用して Windows のファイルおよび Web リンクを開く	Mac アプリケーションを使用して、仮想マシン内のファイルを開くことができます。
Mac のアプリケーション フォルダから Windows アプリケーションを実行します	Mac のアプリケーション フォルダまたは Spotlight を使用して、Windows にインストールされているアプリケーションを検索します。このオプションには VMware Tools が必要です。このオプションを有効にするには、仮想マシンが実行されている必要があります。

- (オプション) [設定] をクリックし、メールや Web ページなどの管理に使用するアプリケーションを割り当てます。
- (オプション) [アプリケーションのリストア] をクリックして、Mac のアプリケーション フォルダに一覧表示されているアプリケーションを、デフォルトで Windows に含まれていないアプリケーションのみにリストアします。

Mac のアプリケーション フォルダからデフォルトで含まれていない Windows アプリケーションを削除していた場合、それらの削除されたアプリケーションがリストアされます。

Mac のアプリケーション フォルダにデフォルトで含まれているアプリケーションを追加した場合、それらのアプリケーションが Mac のアプリケーション フォルダから削除されます。

- (オプション) [アプリケーションのクリーンアップ] をクリックすると、Mac のアプリケーション フォルダ内の Windows アプリケーションのうち、どの仮想マシンでも使用されていないものが削除されます。

App Nap のサポート

Fusion 7.0 以降では、App Nap 機能がサポートされます。App Nap 機能によって、バックグラウンドで実行されている UI アプリケーションが使用するシステム リソースが節約されます。

Fusion 7 以降で App Nap を無効にする必要はありません。



キーボードおよびマウス プロファイルの設定




これらのプロファイルは、Windows 8 のショートカットに対するキーの組み合わせを含み、Mac のキーの組み合わせとマウス ショートカットが仮想マシンのショートカットにどのように割り当てられるかを指定します。

キーボードとマウスのプロファイルを使用すれば、仮想マシンの代わりにキーボード ショートカットが Mac に送付されるかどうか指定でき、Fusion 固有のどのキーボード ショートカットを有効にするかを指定できます。

Fusion 環境設定でキーボードおよびマウスのプロファイルを作成および編集することもできますが、仮想マシンの設定を使用して、特定の仮想マシンでどのプロファイルを使用するかを選択します。

Fusion で提供されているデフォルトのプロファイルを編集できます。また、新しいプロファイルを追加するか、既存のプロファイルをコピーおよび編集して、追加のプロファイルを作成することもできます。

- [プロファイル] では、一般的な Macintosh キーの組み合わせ（ + C や  + X など）を Windows および Linux キーの組み合わせ（Control + C や Control + X など）にマップします。
- [Mac プロファイル] にはほとんどキーボード マッピングはありません。ほとんどのキーストロークは、Mac OS X ゲストに直接渡されます。
- [Windows 8 プロファイル] は、Charms バーを開くために Windows-C を押すなど、Windows 8 機能専用のキー マッピングのセットを持ちます。

多くの Windows 8 固有のキーボード ショートカットには Windows キー（通常は Mac OS X の  キーにマップされる）が含まれるため、Fusion には Windows 8 固有のプロファイルが用意されています。残念ながら、これらの  キーの組み合わせの多くは、Mac OS X のシステム ホット キーでも使用されています。競合を回避するために、Windows 8 プロファイルでは、 + Shift のキーの組み合わせを使用して、Windows 8 の Windows キーにマップできます。ただし、別のキーの組み合わせを構成することもできます。

リモート仮想マシンでの CD/DVD ドライブの有効化

CD/DVD ドライブを有効にして、リモート サーバでホストされている仮想マシンでディスク イメージを選択できます。物理 CD/DVD ドライブにあるソフトウェアにアクセスしたり、物理 CD/DVD ドライブからリモート仮想マシンにソフトウェアをインストールしたりできます。

開始する前に

次の条件が満たされていることを確認します。

- 仮想マシンがホストされているサーバへのログイン認証情報があること。
- 仮想マシンがパワーオンされます。

手順

- 1 [ファイル] - [サーバに接続] を選択します。
- 2 ホスト サーバの名前を入力するか、[最近使ったサーバ] ドロップダウン メニューからサーバを選択します。
- 3 ログイン認証情報を入力して、[接続] をクリックします。
- 4 [仮想マシン] - [設定] を選択します。
- 5 [CD/DVD ドライブ] をクリックします。
- 6 [CD/DVD ドライブの有効化] チェック ボックスを選択します。

- 7 [リモート ディスクの画像を選択] ドロップダウン メニューからリモート ディスク イメージを選択します。
- 8 (オプション) [詳細オプション] を展開して、ドロップダウン メニューからバス タイプを選択します。
- 9 (オプション) [リモート CD/DVD ドライブ] をクリックして、仮想マシンが使用する CD/DVD ドライブに戻ります。

リモート仮想マシンでのフロッピー ドライブの有効化

フロッピー ドライブを有効にして、リモート サーバでホストされている仮想マシンでディスク イメージを選択できます。物理フロッピー ドライブにあるソフトウェアにアクセスしたり、物理フロッピー ドライブからリモート仮想マシンにソフトウェアをインストールしたりできます。

開始する前に

次の条件が満たされていることを確認します。

- 仮想マシンがホストされているサーバへのログイン認証情報があること。
- 仮想マシンがパワーオンされます。

手順

- 1 [ファイル] - [サーバに接続] を選択します。
- 2 ホスト サーバの名前を入力するか、[最近使ったサーバ] ドロップダウン メニューからサーバを選択します。
- 3 ログイン認証情報を入力して、[接続] をクリックします。
- 4 [仮想マシン] - [設定] を選択します。
- 5 [フロッピー] をクリックします。
- 6 [フロッピー ドライブの有効化] チェック ボックスをクリックします。
- 7 ドロップダウン メニューからフロッピー イメージを選択します。

サーバまたはリモート仮想マシンの状態の表示

サーバの電源状態、CPU 使用率、ディスク領域の使用率またはリモート仮想マシンの構成情報を表示することができます。

開始する前に

仮想マシンがホストされているサーバへのログイン認証情報があることを確認します。サーバには、vCenter Server ホストを使用することはできません。

手順

- 1 [ファイル] - [サーバに接続] を選択します。
- 2 サーバの名前を入力するか、[最近使ったサーバ] ドロップダウン メニューからサーバを選択します。
- 3 ログイン認証情報を入力して、[接続] をクリックします。
- 4 サーバを選択して、CPU 使用率、メモリ使用率、および使用可能なストレージ情報を表示します。
- 5 仮想マシンを選択して、スナップショット、構成ファイル、ハードウェア互換性情報を表示します。

3D グラフィックスの高速化の有効化

一部の仮想マシンでは、Fusion は 3D グラフィックスの高速化をサポートします。

Fusion は、Windows XP 以降を実行している仮想マシン上で、DirectX 9.0c Shader Model 3 および OpenGL 2.1 の 3D グラフィックスの高速化をサポートしています。Windows Vista 以降を実行する仮想マシンでは、Fusion は DirectX 9.0EX with Aero および Open GL 2.1 をサポートします。

Windows Vista 以降を実行する仮想マシンでは、Fusion は DirectX 10 および Open GL 3.3 をサポートしています。ハードウェア バージョン 12 が必要です。

Linux を実行する仮想マシンでは、Fusion は OpenGL 3.3 をサポートしており、3D グラフィックスの高速化に対応しています。ハードウェア バージョン 12 が必要です。3D グラフィックスの高速化をサポートする Linux カーネルおよび Mesa 3D のバージョンが必要です。

開始する前に

仮想マシンをシャットダウンまたはパワーオフしてください。仮想マシンがパワーオンまたはサスペンド状態の場合、設定を変更することはできません。

手順

- 1 [ウィンドウ]-[仮想マシンのライブラリ] を選択します。
- 2 [仮想マシンのライブラリ] ウィンドウで仮想マシンを選択し、[設定] をクリックします。
- 3 [設定] ウィンドウの [システム設定] で、[ディスプレイ] をクリックします。
- 4 [3D グラフィックスの高速化] チェック ボックスを選択します。

Retina ディスプレイ サポートの有効化

Retina ディスプレイ オプションは、高解像度ディスプレイの仮想マシンの表示を制御します。

開始する前に

- Retina ディスプレイや別の高解像度ディスプレイを使用しているか確認します。
- ハードウェア バージョン 11 以降を使用していることを確認します。推奨されるハードウェア バージョンは 12 です。
- 最新バージョンの VMware Tools をインストールしていることを確認します。
- 最高の表示とパフォーマンスを実現するためには、Mac ホストの [システム環境設定] にある [ディスプレイ] パネルで [ディスプレイに最適] を選択します。

手順

- 1 [ウィンドウ]-[仮想マシンのライブラリ] を選択します。
- 2 [仮想マシンのライブラリ] ウィンドウで仮想マシンを選択し、[設定] をクリックします。
- 3 [設定] ウィンドウの [システム設定] で、[ディスプレイ] をクリックします。
- 4 [Retina ディスプレイのフル解像度を使用] チェック ボックスを選択します。

[Retina ディスプレイでフル解像度を使用] オプションをオフにすると、仮想マシンの解像度は Retina ディスプレイの解像度の半分に設定されます。この設定は、非 Retina のディスプレイサイズと同じですが、画質が荒くなる場合があります。

[Retina ディスプレイでフル解像度を使用] オプションをオンにすると、仮想マシンの解像度は Retina ディスプレイの完全な解像度に設定されます。

仮想マシンのホットキーの有効化

Fusion Pro がある場合、キーボードショートカットを作成し、ホット キーの組み合わせを定義して仮想マシンを起動できます。

- ホット キーの組み合わせには、Control または Command のような修飾キーを少なくとも 1 つと、その他の修飾キーを含める必要があります。
- ホット キーの組み合わせは、1 つの仮想マシンに対して一意である必要があります。

- ホット キーは、Return、Escape、Insert、Delete、Home、End、Page Up、Page Down、F キー、Print Screen、Scroll Lock、Pause または矢印キーのようなファンクション キーまたは特別に定義されたキーとして使用することはできません。
- ホット キーの組み合わせをアプリケーションに割り当てることはできません。
- Tab キーをホット キーとして使用することはできません。

手順

- 1 [VMware Fusion] - [環境設定] を選択します。
- 2 [仮想マシン別にキーボードショートカットを有効にする] チェック ボックスを選択します。
- 3 [ウィンドウ] - [仮想マシンのライブラリ] を選択します。
- 4 [仮想マシンのライブラリ] ウィンドウで仮想マシンを選択し、[設定] をクリックします。
- 5 [設定] ウィンドウの [システム設定] で、[キーボードとマウス] をクリックします。
- 6 キーボード ショートカットを入力して仮想マシンを起動します。

ディスクリート グラフィックスの管理の設定

ディスクリート グラフィックスの管理では、バッテリーの使用状況と仮想マシンで 3D グラフィックスを使用するアプリケーションのパフォーマンスを管理できます。

開始する前に

- お使いの MacBook Pro に、統合されたグラフィックス カードとディスクリート グラフィックス カードがあることを確認します。ディスクリート グラフィックス管理により、オペレーティングシステムが 2 枚のカード間で切り替えを行うことができます。
- 3D グラフィックスが有効になっていることを確認します。

手順

- 1 [ウィンドウ] - [仮想マシンのライブラリ] を選択します。
- 2 [仮想マシンのライブラリ] ウィンドウで仮想マシンを選択し、[設定] をクリックします。
- 3 [設定] ウィンドウの [システム設定] で、[ディスプレイ] をクリックします。
- 4 [3D グラフィックスの高速化] チェック ボックスが選択されていることを確認します。
- 5 [バッテリー寿命] ドロップダウン メニューから、グラフィックス パフォーマンス オプションを選択します。

オプション	説明
高性能グラフィックスを使用しない (バッテリーを節約します)	バッテリー寿命を最大化します。
3Dアプリケーションにのみ高性能グラフィックスを使用する	バッテリー寿命と 3D アプリケーションのパフォーマンスのバランスを取ります。
常に高性能グラフィックスを使用する (バッテリー寿命は短くなります)	バッテリー寿命を最小化します。

仮想マシンのデフォルト プリンタの設定

Fusion を使用すると、Mac にインストールされているすべてのプリンタが仮想マシンに自動的に追加されます。

[設定] の [プリンタ] パネルで変更しない限り、Mac のデフォルト プリンタが仮想マシンのデフォルトのプリンタとして使用されます。

手順

- 1 [ウィンドウ]-[仮想マシンのライブラリ] を選択します。
- 2 [仮想マシンのライブラリ] ウィンドウで仮想マシンを選択し、[設定] をクリックします。
- 3 [設定] ウィンドウの [取外し可能デバイス] で [プリンタ] をクリックします。
- 4 [Mac プリンタを Windows と共有する] チェック ボックスを選択します。
- 5 この仮想マシンのデフォルト プリンタを選択します。

オプション	説明
Mac のデフォルト プリンタに一致させる	この仮想マシンのプリント ジョブは Mac でデフォルトに設定されたプリンタに送信されます。
異なるデフォルト プリンタを許可する	この仮想マシンのプリント ジョブは、仮想マシンのオペレーティング システムの環境設定でデフォルトに設定されたプリンタに送信されます。たとえば、Windows XP 仮想マシンでは、[スタート]-[プリンタと FAX] を選択してプリンタのデフォルトを設定します。

デバイスの追加

取外し可能デバイスを追加して、仮想マシンで使用できます。

以下のデバイスを仮想マシンに追加できます。

- ネットワーク アダプタ
- ハード ディスク
- カメラ
- CD/DVD
- サウンド カード
- USB および Bluetooth
- シリアル ポート
- パラレル ポート

ネットワーク接続の構成

ネットワーク環境内の他の仮想マシンに接続するには、仮想マシンに Fusion 仮想ネットワーク コンポーネントを構成して実装します。

Fusion は、イーサネット ベースのネットワークのみをサポートしますが、ネットワークに接続するために複数のオプションを提供します。

- 仮想マシンは、ホストシステムの IP アドレスを共有するために NAT を使用できます。
- ホストシステムで固有のネットワーク インタフェースにブリッジするために仮想マシンを設定できます。Fusion では、ブリッジ ネットワークで IPv6 を使用できます。
- ホストシステムの仮想マシンだけを含む VPN を作成できます。

注意 Fusion Pro には、高度なネットワーク機能があります。これらの高度な機能を使用すれば、キー ネットワーク設定の変更、リモート仮想ネットワークの追加、およびカスタム仮想ネットワーク構成の作成ができます。行った変更は、ホストシステムで実行中のすべての仮想マシンに適用されます。たとえば、どのサブネットを Fusion で使用するかや、無差別モードで実行する前にネットワーク アダプタで確認を求めるかどうかを指定できます。

この機能は、Fusion 環境設定ダイアログ ボックスで使用できます。カスタム ネットワーク構成を追加するには、管理者パスワードを入力する必要があります。

Fusion では、仮想ネットワーク アダプタの設定を編集する場合、ネットワーク接続のいくつかのタイプから選択できます。

表 8-2. ネットワーク接続オプション

オプション	説明
[Mac を共有]	Mac のダイヤルアップ ネットワーク接続を使用してインターネットや他の TCP/IP ネットワークに接続する際に、仮想マシンに外部ネットワーク上の IP アドレスを設定できない場合、仮想マシンがそのネットワークにアクセスするための最も簡単な方法として、このオプションを選択します。仮想マシンは、外部ネットワークに独自の IP アドレスを持ちません。仮想マシンは、プライベート IP アドレスを VMware 仮想 DHCP サーバから取得します。
[ブリッジされたネットワーキング] 項目	ブリッジされたネットワーキングリストに、ワイヤレスおよびイーサネットを含む、Mac のネットワーク インタフェースのひとつにブリッジするためのさまざまな選択が表示されます。これらのオプションのひとつを使用することが、ネットワークに仮想マシンをアクセスするための最も簡単な方法となります。 ブリッジされたネットワーキングのひとつを使用すると、仮想マシンは Mac と同じ物理イーサネット ネットワーク上の追加コンピュータとして認識されます。仮想マシンは、ファイル サーバ、プリンタ、ゲートウェイなどを含み、ブリッジ先のネットワークで利用できるサービスを使用できます。同様に、ブリッジ ネットワークで構成されている物理ホストや他の仮想マシンは、その仮想マシンのリソースを使用することができます。
[Mac をプライベート]	このタイプのネットワーク接続を使用すると、仮想マシンは通常、Mac 外部には公開されない仮想プライベート ネットワーク上で Mac オペレーティングシステムに接続されます。同じ Mac 上でホストオンリー ネットワークに設定された複数の仮想マシンは、同じネットワーク上に存在することになります。

■ ネットワーク アダプタの接続と設定 (P. 97)

仮想マシン用に仮想ネットワーク アダプタを接続し、使用するネットワークのタイプを設定できます。

■ 仮想マシンへの MAC アドレスの手動割り当て (P. 98)

仮想マシンの仮想ネットワーク アダプタに常に同じ MAC アドレスを確実に割り当てる必要がある場合は、MAC アドレスを手動で割り当てることができます。

■ ネットワーク アダプタの追加 (P. 98)

仮想マシンには、最大 10 個の仮想ネットワーク アダプタを追加できます。

■ リモート仮想マシンでのネットワーク アダプタの変更 (P. 99)

リモート サーバにホストされている仮想マシンの仮想ネットワーク アダプタを有効化および変更できます。これによって、仮想マシンが複数のネットワークにアクセスできるようになります。

■ ネットワーク アダプタの削除 (P. 99)

仮想マシンからネットワーク アダプタを削除できます。

ネットワーク アダプタの接続と設定

仮想マシン用に仮想ネットワーク アダプタを接続し、使用するネットワークのタイプを設定できます。

開始する前に

Fusion は VPN へのブリッジ ネットワークをサポートしません。Mac のシステム環境設定で VPN の優先順位を最も高く設定している場合、仮想マシンでブリッジされたネットワーキングを自動検出して使用するには、優先順位を下げます。

手順

- 1 [ウィンドウ] - [仮想マシンのライブラリ] を選択します。
- 2 [仮想マシンのライブラリ] ウィンドウで仮想マシンを選択し、[設定] をクリックします。
- 3 [設定] ウィンドウの [取外し可能デバイス] で、[ネットワーク アダプタ] をクリックします。
- 4 [ネットワーク アダプタを接続] チェック ボックスを選択します。

選択した設定は Fusion によって保持され、仮想マシンをスタートアップすると再適用されます。

- 5 ネットワークのタイプを選択します。

オプション	説明
Mac を共有	仮想マシンは、外部ネットワークに独自の IP アドレスを持ちません。仮想マシンは、プライベート IP アドレスを VMware 仮想 DHCP サーバから取得します。
ブリッジ ネットワーク項目	ワイヤレスおよびイーサネットを含む、Mac のネットワーク インタフェースのひとつにブリッジするためのさまざまな選択が表示されます。これらのオプションのひとつを使用することが、ネットワークに仮想マシンをアクセスするための最も簡単な方法となります。 自動検出以外のネットワーク タイプを選択すれば、[システム環境設定] をクリックして、ホスト システムの物理ネットワーク設定の詳細を見ることができます。
Mac をプライベート	仮想マシンは仮想プライベート ネットワークを使用してホスト OS にだけ接続され、Mac の外では見えません。

- 6 (Fusion Pro) [詳細オプション] を使用して、無差別モードを実行する前に、選択した仮想マシンのネットワーク アダプタの許可を求めます。

チェック ボックスが選択されなければ、仮想マシンはこのネットワーク アダプタが無差別モードで実行される前に確認を求めません。この機能は、ネストされた ESXi サーバを Fusion Pro で作成するときに便利です。

仮想マシンへの MAC アドレスの手動割り当て

仮想マシンの仮想ネットワーク アダプタに常に同じ MAC アドレスを確実に割り当てる必要がある場合は、MAC アドレスを手動で割り当てることができます。

確実に次の状況になるようにするには、MAC アドレスを Fusion で割り当てるのではなく、手動で割り当てます。

- 仮想マシンを移動した場合でも、常に特定の仮想マシンの仮想ネットワーク アダプタに同じ MAC アドレスが割り当てられる。
- ネットワーク環境内の各仮想マシンが固有の MAC アドレスを持つ。

物理マシンを仮想マシンに変換すると、ネットワーク アダプタの MAC アドレスが変更されます。ライセンスが MAC アドレスとリンクされているソフトウェアの場合、これは問題になることがあります。これを解決するには、正しい MAC アドレスを手動で割り当てます。

開始する前に

仮想マシンをシャットダウンまたはパワーオフしてください。仮想マシンがパワーオンまたはサスペンド状態の場合、設定を変更することはできません。

手順

- 1 [ウィンドウ] - [仮想マシンのライブラリ] を選択します。
- 2 [仮想マシンのライブラリ] ウィンドウで仮想マシンを選択し、[設定] をクリックします。
- 3 [設定] ウィンドウの [取外し可能デバイス] で、[ネットワーク アダプタ] をクリックします。
- 4 [詳細オプション] をクリックします。
- 5 新しい MAC アドレスを入力します。
 - 既知の MAC アドレスを入力します。
 - Fusion の [生成] をクリックして、固有のアドレスを作成します。

ネットワーク アダプタの追加

仮想マシンには、最大 10 個の仮想ネットワーク アダプタを追加できます。

開始する前に

- ネットワーク設定のさまざまなタイプを理解します。[「ネットワーク接続の構成 \(P. 96\)」](#) を参照してください。

- 仮想マシンをシャットダウンまたはパワーオフしてください。仮想マシンがパワーオンまたはサスペンド状態の場合、設定を変更することはできません。

手順

- 1 [ウィンドウ] - [仮想マシンのライブラリ] を選択します。
- 2 [仮想マシンのライブラリ] ウィンドウで仮想マシンを選択し、[設定] をクリックします。
- 3 [デバイスを追加] をクリックします。
- 4 [ネットワーク アダプタ] をクリックします。
- 5 [追加] をクリックします。
- 6 リストからネットワーク構成を選択するか、Fusion Pro を所有している場合は、リストの [構成] をクリックして新しいネットワークを作成します。

次に進む前に

カスタム ネットワークの作成の詳細については、[「カスタム ネットワークの作成 \(P. 29\)」](#)を参照してください。新しいネットワーク アダプタの構成の詳細については、[「ネットワーク アダプタの接続と設定 \(P. 97\)」](#)を参照してください。

リモート仮想マシンでのネットワーク アダプタの変更

リモート サーバにホストされている仮想マシンの仮想ネットワーク アダプタを有効化および変更できます。これによって、仮想マシンが複数のネットワークにアクセスできるようになります。

開始する前に

次の条件が満たされていることを確認します。

- 仮想マシンがホストされているサーバへのログイン認証情報があること。
- 仮想マシンがパワーオンされます。

手順

- 1 [ファイル] - [サーバに接続] を選択します。
- 2 ホスト サーバの名前を入力するか、[最近使ったサーバ] ドロップダウン メニューからサーバを選択します。
- 3 ログイン認証情報を入力して、[接続] をクリックします。
- 4 [仮想マシン] - [設定] を選択します。
- 5 [ネットワーク アダプタ] をクリックします。
- 6 [ネットワーク接続] ドロップダウン メニューからネットワーク アダプタを選択します。

ネットワーク アダプタの削除

仮想マシンからネットワーク アダプタを削除できます。

開始する前に

仮想マシンをシャットダウンまたはパワーオフしてください。仮想マシンがパワーオンまたはサスペンド状態の場合、設定を変更することはできません。

手順

- 1 [ウィンドウ] - [仮想マシンのライブラリ] を選択します。
- 2 [仮想マシンのライブラリ] ウィンドウで仮想マシンを選択し、[設定] をクリックします。
- 3 [設定] ウィンドウの [取外し可能デバイス] で、[ネットワーク アダプタ] をクリックします。
- 4 [詳細オプション] で、[ネットワーク アダプタを削除] をクリックします。

- 5 確認ダイアログ ボックスで、[削除] をクリックします。

仮想ハード ディスクの管理

仮想ハード ディスクの追加、削除、サイズ変更を実行できます。

仮想マシンのディスク領域を増やす必要がある場合は、既存の仮想ハード ディスクのサイズを変更したり、別のハード ディスクを追加したりできます。

注意 仮想マシンで手動または AutoProtect によるスナップショット作成を実行すると、仮想ハード ディスクを変更できなくなります。変更を加えるには、スナップショットを削除する必要があります。

仮想ハード ディスクの作成

たとえば、大きなアプリケーションをインストールしたり、多数のファイルを操作したりする場合に、仮想マシンで多くのディスク容量を必要とする場合があります。仮想マシンにすでに関連付けられている仮想ディスクのサイズを増やすか、または新しい仮想ディスクを追加できます。仮想ハード ディスクを作成して、仮想マシンに追加することができます。

開始する前に

仮想マシンをシャットダウンまたはパワーオフしてください。仮想マシンがパワーオンまたはサスペンド状態の場合、設定を変更することはできません。

手順

- 1 [ウィンドウ]-[仮想マシンのライブラリ] を選択します。
- 2 [仮想マシンのライブラリ] ウィンドウで仮想マシンを選択し、[設定] をクリックします。
- 3 [デバイスを追加] をクリックします。
- 4 [新しいハード ディスク] をクリックします。
- 5 [追加] をクリックします。

新しいハード ディスクが表示されます。新しいハード ディスクは選択されており、[ファイル名] ポップアップ メニューにデフォルトのファイル名が表示されます。

- 6 (オプション) 新しい仮想ハード ディスクのファイル名を変更します。
 - a ポップアップ メニューでファイル名を選択し、[別名で保存] を選択します。
 - b [名前] フィールドにハード ディスクのファイル名を入力し、[保存] をクリックします。

Fusion は、このファイル名で仮想ディスク ファイルを作成し、それをバンドル ディレクトリに格納します。

- 7 [ディスク サイズ] スライダーで、ハード ディスクの最大容量を設定します。

ハード ディスクの最大サイズは 8TB です。

- 8 (オプション) [詳細オプション] で、ハード ディスクの [バス タイプ] を、[IDE] または [SATA] に設定します。

この設定は、上級ユーザー以外は変更しないことをお勧めします。Fusion が仮想マシンのゲスト OS に最も適したバス タイプを選択します。

- 9 ファイルシステムの制約に応じて、ディスク領域の設定を行います。

オプション	説明
事前にディスク領域を割り当てる	このオプションを選択すると、仮想マシンのパフォーマンスを向上させることができます。すべてのディスクを割り当てると、その後 VMware Tools のディスクを圧縮する機能が使用できなくなります。すべてのディスク領域を割り当てることは多くの時間を要する操作であり、途中でキャンセルできないうえに、仮想ディスク用に指定したサイズと同じぐらい大きな物理ディスク領域を必要とします。
ディスクを複数のファイルに分割	デフォルトです。FAT や UFS などの一部のファイル システムでは、大容量のファイルに対応していません。仮想マシンを作成するハード ドライブで、大容量ファイルに対応していないファイル システムを使用している場合は、このオプションを使用します。このオプションは、仮想ディスクを複数のファイルに分割します。また、外部の FAT ドライブに仮想マシンを格納したり、外部ドライブに仮想マシンを移動したりする場合にも、このオプションを使用します。

- 10 [適用] をクリックします。

ハード ディスクが作成されます。仮想マシンの [設定] - [取外し可能デバイス] で新しいハード ディスクを表示します。

ハード ディスクのサイズ変更

仮想ハード ディスクの使用可能な領域を増やすことができます。ハード ディスクのサイズを減らすことはできません。フォーマットした後に空のハード ディスクのサイズを小さくすることはできません。

開始する前に

仮想マシンで手動または AutoProtect によるスナップショット作成を実行すると、仮想ハード ディスクを変更できなくなります。変更を加えるには、スナップショットを削除する必要があります。

仮想マシンをシャットダウンまたはパワーオフしてください。仮想マシンがパワーオンまたはサスペンド状態の場合、設定を変更することはできません。

手順

- [ウィンドウ] - [仮想マシンのライブラリ] を選択します。
- [仮想マシンのライブラリ] ウィンドウで仮想マシンを選択し、[設定] をクリックします。
- [設定] ウィンドウで、サイズ変更するハード ディスクをクリックします。
- [ディスク サイズ] スライダを使用して新しいサイズを設定します。

ハード ディスクの最大ディスク サイズは 8TB です。

- (オプション) [詳細オプション] で、ハード ディスクの [バス タイプ] を、[IDE] または [SATA] に設定します。

この設定は、上級ユーザー以外は変更しないことをお勧めします。Fusion が仮想マシンのゲスト OS に最も適したバス タイプを選択します。

- ファイルシステムの制約に応じて、ディスク領域の設定を行います。

オプション	説明
事前にディスク領域を割り当てる	このオプションを選択すると、仮想マシンのパフォーマンスを向上させることができます。すべてのディスクを割り当てると、その後 VMware Tools のディスクを圧縮する機能が使用できなくなります。すべてのディスク領域を割り当てることは多くの時間を要する操作であり、途中でキャンセルできないうえに、仮想ディスク用に指定したサイズと同じぐらい大きな物理ディスク領域を必要とします。
ディスクを複数のファイルに分割	デフォルトです。FAT や UFS などの一部のファイル システムでは、大容量のファイルに対応していません。仮想マシンを作成するハード ドライブで、大容量ファイルに対応していないファイル システムを使用している場合は、このオプションを使用します。このオプションは、仮想ディスクを複数のファイルに分割します。また、外部の FAT ドライブに仮想マシンを格納したり、外部ドライブに仮想マシンを移動したりする場合にも、このオプションを使用します。

- 7 変更を適用します。Windows ゲストの場合は、パーティションのサイズを自動で変更するか手動で変更するかを選択します。

オプション	説明
[適用] をクリックします。	Windows ゲストの場合、ハードディスクのサイズが変更されるとパーティションのサイズが自動的に変更されます。
[Option] キーを押しながら [適用] をクリックします。	ハードディスクのサイズは変更されますが、パーティションのサイズは変更されません。ゲストのパーティションのサイズを手動で変更する方法については、 「ディスクの管理ツールによる Windows パーティションのサイズ変更 (P. 102)」 を参照してください。

Fusion は、仮想ディスクの再ビルドの進捗状況をダイアログ ボックスで表示します。

ディスクの管理ツールによる Windows パーティションのサイズ変更

仮想ハード ディスクを大きくしたときは、追加領域を利用するために、ゲスト OS のパーティションも拡大する必要があります。

仮想ハードディスクのサイズを変更すると、Fusion によりゲスト OS のパーティションのサイズが変更されます。[Option] キーを押しながら [適用] をクリックしてディスクのサイズを変更すると、Windows パーティションのサイズを手動で変更できます。Windows Vista および Windows 7 以降の場合は、オペレーティングシステムのディスク管理ツールを使用してパーティションのサイズを変更できます。

開始する前に

仮想ハードディスクが、パーティションサイズの拡大に対応できる十分な大きさであることを確認します。[「ハードディスクのサイズ変更 \(P. 101\)」](#)を参照してください。

手順

- 1 [コンピュータ] を右クリックし、[管理] を選択します。
- 2 [記憶域] をダブルクリックします。
- 3 [ディスクの管理] をダブルクリックします。
- 4 一覧で、拡大するパーティションを右クリックして [ボリュームの拡張] を選択します。
- 5 指示に従ってパーティションのサイズを変更し、[完了] をクリックします。
[ディスクの管理] パネルのパーティション項目に、新しいサイズが表示されます。
- 6 [コンピュータの管理] ウィンドウを閉じます。

仮想ハード ディスクのクリーンアップ

一部の仮想ハード ディスクの圧縮とデフラグを実行して、Mac 上の領域を増やすことができます。

仮想マシンからファイルを削除しても、Fusion はそのファイルの領域を Mac に戻しません。ハードディスクをクリーンアップして仮想マシンを圧縮すると、空き領域が Mac に戻ります。

開始する前に

仮想マシンをシャットダウンまたはパワーオフしてください。仮想マシンがパワーオンまたはサスペンド状態の場合、設定を変更することはできません。

手順

- 1 [ウィンドウ] - [仮想マシンのライブラリ] を選択します。
- 2 [仮想マシンのライブラリ] ウィンドウで仮想マシンを選択し、[設定] をクリックします。
- 3 [設定] ウィンドウの [システム設定] で、[一般] をクリックします。

4 [仮想マシンのクリーンアップ] をクリックします。

Fusion は、仮想ディスクのクリーンアップの進捗状況をダイアログ ボックスで表示します。

既存の仮想ハード ディスクの追加

既存の仮想ハード ディスクを仮想マシンに追加することができます。ディスクを仮想マシンにコピーまたは移動することも、仮想マシン間で共有することもできます。



注意 仮想ハード ディスクを移動すると、仮想ハード ディスクを使用する他の仮想マシンを停止させることができます。これは、物理コンピュータからハード ディスクを取り外して別のコンピュータに取り付けるのと同じことです。

手順

- 1 [ウィンドウ]-[仮想マシンのライブラリ] を選択します。
- 2 [仮想マシンのライブラリ] ウィンドウで仮想マシンを選択し、[設定] をクリックします。
- 3 [デバイスを追加] をクリックします。
- 4 [既存のハード ディスク] をクリックします。
- 5 [デバイスを追加] をクリックします。
- 6 [開く] ダイアログ ボックスで、既存の **.vmdk** ハード ディスク ファイルの場所を参照します。
- 7 仮想ハード ディスク ファイルを追加する方法を選択します。

オプション	説明
仮想ディスクの個別のコピーを作成する	デフォルトです。仮想ハード ディスク ファイルをこの仮想マシンのパッケージにコピーします。仮想ハード ディスクをコピーすると、この仮想マシンが、仮想ハード ディスクを使用する可能性がある他のどの仮想マシンとも競合することがなくなります。
この仮想ディスクを作成した仮想マシンと仮想ディスクを共有する	仮想ハード ディスク ファイルは、元の場所に置かれたままとなります。このファイルが元の仮想マシンでも使用されている場合は、これにより競合が発生する可能性があります。
現在このディスクを使用している仮想マシンからディスクを取り除く	仮想ハード ディスク ファイルをこの仮想マシンのパッケージに移動します。

8 [開く] をクリックします。

9 [適用] をクリックします。

仮想ディスクのコピーを選択した場合、Fusion はその進捗状況をダイアログ ボックスで表示します。

リモート仮想マシンへの VMDK の追加

仮想ハード ディスクを追加して、リモート サーバでホストされている仮想マシンでディスク イメージを選択できます。

開始する前に

次の条件が満たされていることを確認します。

- 仮想マシンがホストされているサーバへのログイン認証情報があること。
- 仮想マシンがパワーオフされていること。

手順

- 1 [ファイル]-[サーバに接続] を選択します。
- 2 ホスト サーバの名前を入力するか、[最近使ったサーバ] ドロップダウン メニューからサーバを選択します。
- 3 ログイン認証情報を入力して、[接続] をクリックします。
- 4 [仮想マシン]-[設定] を選択します。

- 5 [デバイスを追加] をクリックします。
- 6 [ハード ディスク] をクリックします。
- 7 [ファイル名] ドロップダウン メニューから **.vmdk** ファイルを選択します。
- 8 ディスク サイズ スライダを使用して、仮想ディスクのサイズを指定します。
- 9 (オプション) [詳細オプション] を展開して、バス タイプを選択して、ディスク領域の割り当て方法を選択します。

ハード ディスクの削除

仮想マシンから仮想ハード ディスクを削除できます。

開始する前に

仮想マシンをシャットダウンまたはパワーオフしてください。仮想マシンがパワーオンまたはサスペンド状態の場合、設定を変更することはできません。

手順

- 1 [ウィンドウ] - [仮想マシンのライブラリ] を選択します。
- 2 [仮想マシンのライブラリ] ウィンドウで仮想マシンを選択し、[設定] をクリックします。
- 3 [設定] ウィンドウで、仮想マシンから削除するハード ディスクをクリックします。
- 4 [詳細オプション] で、[ハード ディスクを削除] をクリックします。
- 5 確認ウィンドウで、ハード ディスクを削除するオプションを選択します。

オプション	説明
[ファイルの保持]	仮想ハード ディスクを仮想マシンから切断しますが、ハード ディスク ファイルは仮想マシン パッケージに残します。
[ゴミ箱に入れる]	仮想ハード ディスク ファイルを仮想マシン パッケージから削除します。

CD/DVD ドライブの設定

仮想マシンの CD/DVD ドライブは、Mac 物理 CD/DVD ドライブや CD または DVD の ISO イメージに接続することができます。

- [CD/DVD ドライブの追加](#) (P. 105)
仮想 CD/DVD ドライブを仮想マシンに追加することができます。
- [CD/DVD ドライブの削除](#) (P. 105)
仮想マシンから物理または仮想 CD/DVD ドライブを削除できます。
- [CD/DVD ドライブの接続と設定](#) (P. 105)
CD/DVD ドライブを設定し、常に検出されるようにしたり、手動で接続する必要があるようにしたりします。
- [設定 ウィンドウを使用しない CD/DVD ドライブの接続と切断](#) (P. 106)
ステータス バーのボタンを使用して、デバイスを接続および切断できます。
- [CD/DVD イメージの作成](#) (P. 106)
Apple のディスク ユーティリティを使用すると、CD/DVD ディスク イメージを作成できます。
- [リモート仮想マシンでの CD/DVD ドライブの有効化](#) (P. 106)
CD/DVD ドライブを有効にして、リモート サーバでホストされている仮想マシンでディスク イメージを選択できます。物理 CD/DVD ドライブにあるソフトウェアにアクセスしたり、物理 CD/DVD ドライブからリモート仮想マシンにソフトウェアをインストールしたりできます。

CD/DVD ドライブの追加

仮想 CD/DVD ドライブを仮想マシンに追加することができます。

開始する前に

仮想マシンをシャットダウンまたはパワーオフしてください。仮想マシンがパワーオンまたはサスペンド状態の場合、設定を変更することはできません。

手順

- 1 [ウィンドウ] - [仮想マシンのライブラリ] を選択します。
- 2 [仮想マシンのライブラリ] ウィンドウで仮想マシンを選択し、[設定] をクリックします。
- 3 [デバイスを追加] をクリックします。
- 4 [CD/DVD ドライブ] をクリックします。
- 5 [追加] をクリックします。
- 6 ドライブを設定します。

オプション	説明
自動的に物理 CD/DVD ドライブを検出	仮想マシンが Mac の CD/DVD ドライブを検出します。
物理 CD/DVD ドライブの指定	仮想マシンの CD/DVD ドライブを物理ドライブに接続します。
ディスクイメージを使用	仮想マシンの CD/DVD ドライブを ISO イメージに接続します。ポップアップメニューをクリックし、ISO イメージ ファイルを参照して、選択します。

CD/DVD ドライブの削除

仮想マシンから物理または仮想 CD/DVD ドライブを削除できます。

開始する前に

仮想マシンをシャットダウンまたはパワーオフしてください。仮想マシンがパワーオンまたはサスペンド状態の場合、設定を変更することはできません。

手順

- 1 [ウィンドウ] - [仮想マシンのライブラリ] を選択します。
- 2 [仮想マシンのライブラリ] ウィンドウで仮想マシンを選択し、[設定] をクリックします。
- 3 [設定] ウィンドウの [取外し可能デバイス] で、削除する CD/DVD ドライブをクリックします。
- 4 [詳細オプション] で、[CD/DVD ドライブを削除] をクリックします。

CD/DVD ドライブの接続と設定

CD/DVD ドライブを設定し、常に検出されるようにしたり、手動で接続する必要があるようにしたりします。

仮想マシンがパワーオン状態の場合は、自動的に物理 CD/DVD を検出する機能を無効にすることができます。ただし、この機能を有効にするには、その前にパワーオフする必要があります。仮想マシンメニューの [シャットダウン] コマンドを使用します。

CD/DVD ドライブが USB デバイスの場合、Fusion はそれを CD/DVD ドライブではなく USB デバイスとして扱います。[\[USB コントローラの設定および USB デバイスの接続 \(P. 110\)\]](#) を参照してください。

手順

- 1 [ウィンドウ] - [仮想マシンのライブラリ] を選択します。

- 2 [仮想マシンのライブラリ] ウィンドウで仮想マシンを選択し、[設定] をクリックします。
- 3 [設定] ウィンドウの [取外し可能デバイス] で、接続する CD/DVD ドライブをクリックします。
- 4 [CD/DVD ドライブを接続] チェック ボックスを選択します。

設定 ウィンドウを使用しない CD/DVD ドライブの接続と切断

ステータス バーのボタンを使用して、デバイスを接続および切断できます。

手順

- ◆ 仮想マシン ウィンドウのステータス バーにある CD/DVD デバイス ボタンをクリックします。

CD/DVD イメージの作成

Apple のディスク ユーティリティを使用すると、CD/DVD ディスク イメージを作成できます。

手順

- 1 Mac で **アプリケーション/ユーティリティ/ディスク ユーティリティ** に移動し、Mac のディスク ユーティリティを起動します。
- 2 イメージが必要な CD/DVD を挿入します。
- 3 [ディスクユーティリティ] ウィンドウで、CD/DVD ディスクを選択して、[新規イメージ] をクリックします。
- 4 [イメージフォーマット] ポップダウン メニューで、DVD/CD マスターを選択します。
- 5 [暗号化] ポップダウン メニューで、[なし] を選択します。
- 6 選択した場所に CD/DVD イメージを保存します。

次に進む前に

イメージを仮想マシンに接続するには、[\[CD/DVD ドライブの接続と設定 \(P. 105\)\]](#) を参照してください。

リモート仮想マシンでの CD/DVD ドライブの有効化

CD/DVD ドライブを有効にして、リモート サーバでホストされている仮想マシンでディスク イメージを選択できます。物理 CD/DVD ドライブにあるソフトウェアにアクセスしたり、物理 CD/DVD ドライブからリモート仮想マシンにソフトウェアをインストールしたりできます。

開始する前に

次の条件が満たされていることを確認します。

- 仮想マシンがホストされているサーバへのログイン認証情報があること。
- 仮想マシンがパワーオンされます。

手順

- 1 [ファイル] - [サーバに接続] を選択します。
- 2 ホスト サーバの名前を入力するか、[最近使ったサーバ] ドロップダウン メニューからサーバを選択します。
- 3 ログイン認証情報を入力して、[接続] をクリックします。
- 4 [仮想マシン] - [設定] を選択します。
- 5 [CD/DVD ドライブ] をクリックします。
- 6 [CD/DVD ドライブの有効化] チェック ボックスを選択します。
- 7 [リモート ディスクの画像を選択] ドロップダウン メニューからリモート ディスク イメージを選択します。
- 8 (オプション) [詳細オプション] を展開して、ドロップダウン メニューからバス タイプを選択します。

9 (オプション) [リモート CD/DVD ドライブ] をクリックして、仮想マシンが使用する CD/DVD ドライブに戻ります。

フロッピー デバイスの設定

仮想フロッピー デバイスを仮想マシンに追加し、そのフロッピー デバイスを、フロッピー イメージ ファイルに接続するように設定することができます。

また、Fusion のフロッピー デバイスを接続および切断することもできます。仮想マシンには最大 2 個までのフロッピー デバイスを接続できます。

フロッピー デバイスの追加

フロッピー デバイスを仮想マシンに追加し、フロッピー ディスク イメージ ファイルのデータにアクセスできます。

開始する前に

仮想マシンをシャットダウンまたはパワーオフしてください。仮想マシンがパワーオンまたはサスペンド状態の場合、設定を変更することはできません。

次のいずれかのファイル名拡張子を持つフロッピー イメージ ファイルが必要です。

- .flp
- .img
- .dsk
- .fdd

手順

- 1 [ウィンドウ]-[仮想マシンのライブラリ] を選択します。
- 2 [仮想マシンのライブラリ] ウィンドウで仮想マシンを選択し、[設定] をクリックします。
- 3 [デバイスを追加] をクリックします。
- 4 [フロッピー ドライブ] をクリックします。
- 5 [追加] をクリックします。
- 6 フロッピー イメージ ファイルを参照し、選択します。
- 7 [開く] をクリックします。

次に進む前に

[「フロッピー デバイスの接続と設定 \(P. 107\)」](#) の手順に従って、新しいフロッピー デバイスを設定します。

フロッピー デバイスの接続と設定

仮想マシンがフロッピー デバイスを使用してフロッピー ディスク イメージ ファイル上のデータにアクセスする方法を設定できます。

手順

- 1 [ウィンドウ]-[仮想マシンのライブラリ] を選択します。
- 2 [仮想マシンのライブラリ] ウィンドウで仮想マシンを選択し、[設定] をクリックします。
- 3 [デバイスを追加] をクリックします。
- 4 [その他のデバイス] パネルのソース リストでフロッピー デバイスを選択します。
- 5 [接続完了] チェック ボックスを選択または選択解除して、フロッピー デバイスを接続または切断します。
- 6 (オプション) フロッピー デバイスの内容を読み取り専用にするには、[読み取り専用] を選択します。

- 7 フロッピー デバイスをフロッピー イメージ ファイルに接続するには、[フロッピー イメージを使用] を選択して [選択] をクリックし、フロッピー イメージ ファイルを参照します。

物理フロッピー ドライブ、またはフロッピー イメージ ファイル以外の何らかのフロッピー デバイスを使用するように仮想マシンを設定している場合は、[カスタムのサポートされていない設定を使用] オプションが選択されます。Fusion は、仮想フロッピー デバイスで使用可能なフロッピー イメージ ファイルのみサポートします。

フロッピー ディスク イメージの作成

フロッピー ディスクから仮想マシンにデータを読み取るには、仮想マシンが認識できるディスク イメージを作成する必要があります。

一部のオペレーティング システムは、インストールにフロッピー ディスクを使用する必要があります。Mac には物理フロッピー ドライブが搭載されておらず、Fusion はフロッピー イメージのみをサポートしているため、USB フロッピー ドライブを使用してフロッピー イメージを作成する必要があります。

Apple のディスク ユーティリティを使用すると、この目的でフロッピー ディスク イメージを作成することができます。

手順

- 1 USB フロッピー ドライブを Mac に接続します。
- 2 Mac で **アプリケーション/ユーティリティ/ディスク ユーティリティ** に移動し、Mac のディスク ユーティリティを起動します。
- 3 イメージが必要なフロッピー ディスクを挿入します。
- 4 [ディスクユーティリティ] ウィンドウで、フロッピー ディスクを選択して、[新規イメージ] をクリックします。
- 5 [イメージフォーマット] ポップアップ メニューで、[読み出し/書き込み] を選択します。
- 6 [暗号化] ポップアップ メニューで、[なし] を選択します。
- 7 選択した場所にフロッピー ディスク イメージを保存します。
- 8 Finder で、作成したフロッピー ディスク イメージを作成し、[情報を見る] を選択します。
- 9 [名前と拡張子] でファイル拡張子を **.dmg** から **.flp** に変更し、[情報を見る] ウィンドウを閉じます。
確認画面が表示されたら、変更を確認します。
- 10 (オプション) 作成するすべてのフロッピー ディスクに対して、この作業を繰り返します。

次に進む前に

イメージを仮想マシンに接続するには、[「フロッピー デバイスの接続と設定 \(P. 107\)」](#) を参照してください。

リモート仮想マシンでのフロッピー ドライブの有効化

フロッピー ドライブを有効にして、リモートサーバでホストされている仮想マシンでディスク イメージを選択できます。物理フロッピー ドライブにあるソフトウェアにアクセスしたり、物理フロッピー ドライブからリモート仮想マシンにソフトウェアをインストールしたりできます。

開始する前に

次の条件が満たされていることを確認します。

- 仮想マシンがホストされているサーバへのログイン認証情報があること。
- 仮想マシンがパワーオンされます。

手順

- 1 [ファイル] - [サーバに接続] を選択します。
- 2 ホスト サーバの名前を入力するか、[最近使ったサーバ] ドロップダウン メニューからサーバを選択します。
- 3 ログイン認証情報を入力して、[接続] をクリックします。

- 4 [仮想マシン]-[設定] を選択します。
- 5 [フロッピー] をクリックします。
- 6 [フロッピー ドライブの有効化] チェック ボックスをクリックします。
- 7 ドロップダウン メニューからフロッピー イメージを選択します。

サウンド カードの設定

1 台の仮想マシンには 1 個のサウンド カードしか使用できません。このため、サウンド カードを追加できるのは、既存のサウンド カードを削除した場合のみです。

サウンド カードの接続

Mac のサウンド デバイスを使用するように仮想マシンを有効化できます。

手順

- 1 [ウィンドウ]-[仮想マシンのライブラリ] を選択します。
- 2 [仮想マシンのライブラリ] ウィンドウで仮想マシンを選択し、[設定] をクリックします。
- 3 [設定] ウィンドウの [取外し可能デバイス] で [サウンド カード] をクリックします。
- 4 [サウンド カードを接続] チェック ボックスを選択します。
- 5 [出力デバイス] と [入力デバイス] を選択します。
- 6 (オプション) 仮想マシンにサウンド エコーがある場合は、[HD オーディオのエコー除去を有効にする] チェックボックスを選択します。

[設定] ウィンドウを使用しないサウンド アダプタの接続と切断

ステータス バーのボタンを使用して、デバイスを接続および切断できます。

手順

- ◆ 仮想マシン ウィンドウのステータス バーにあるサウンド デバイス ボタンをクリックします。

サウンド アダプタの追加

サウンド アダプタを削除した場合は、サウンド アダプタを追加できます。

開始する前に

仮想マシンをシャットダウンまたはパワーオフしてください。仮想マシンがパワーオンまたはサスペンド状態の場合、設定を変更することはできません。

手順

- 1 [ウィンドウ]-[仮想マシンのライブラリ] を選択します。
- 2 [仮想マシンのライブラリ] ウィンドウで仮想マシンを選択し、[設定] をクリックします。
- 3 [デバイスを追加] をクリックします。
- 4 [サウンド カード] をクリックしてから、[追加] をクリックします。
- 5 追加する出力デバイスと入力デバイスを選択します。

サウンド アダプタの削除

新しいサウンド アダプタを追加するには、その前に既存のサウンド アダプタを削除する必要があります。

開始する前に

仮想マシンをシャットダウンまたはパワーオフしてください。仮想マシンがパワーオンまたはサスペンド状態の場合、設定を変更することはできません。

手順

- 1 [ウィンドウ]-[仮想マシンのライブラリ] を選択します。
- 2 [仮想マシンのライブラリ] ウィンドウで仮想マシンを選択し、[設定] をクリックします。
- 3 [設定] ウィンドウの [取外し可能デバイス] で [サウンド カード] をクリックします。
- 4 [サウンド カードの削除] をクリックします。
- 5 確認ダイアログ ボックスで、[削除] をクリックします。

仮想マシンへのカメラの追加

仮想マシンでは 1 台以上のカメラを有効にできます。

開始する前に

次の条件が満たされていることを確認します。

- 内蔵型または USB デバイス接続型のカメラがホスト システムに 1 つ以上ある。
- 仮想マシンでハードウェア バージョン 11 以降を使用している。
- 仮想マシンがリモート サーバでホストされているのではなく、Mac に対してローカルである。

手順

- 1 [仮想マシン]-[設定] を選択します。
- 2 [デバイスを追加] をクリックします。
- 3 [カメラ] を選択します。
- 4 [追加] をクリックします。

通常、ホスト システムのデフォルト カメラは、仮想マシンに追加されます。カメラは名前で選択できます。名前付きのカメラを選択した場合、仮想マシンのカメラは、そのカメラに明示的に接続されます。この場合、仮想マシンを別のホストに移動したり、名前付きカメラをホスト システムから削除したりすると、カメラが接続されない場合があります。

USB コントローラの設定および USB デバイスの接続

仮想 USB コントローラを構成して、USB 3.0 および 2.0 のサポートを有効にできます。また、仮想マシンがアクティブなときに Mac に接続された USB デバイスを仮想マシンに接続するように、仮想 USB コントローラを構成することもできます。選択した設定は、Workstation Pro や VMware Horizon 6 などの複数の VMware 製品で持続させることができます。

USB 3.0 デバイスの接続をサポートする Mac を所有している場合、ゲスト OS は USB 3.0 として USB 3.0 デバイスに、そして USB 2.0 として USB 2.0 デバイスに接続できます。ただし、仮想 USB 2.0 ハードウェアを持つゲストは、USB 3.0 デバイスに接続するときに問題があります。仮想 USB 3.0 ハードウェアを持たないゲスト OS の例は Windows XP です。特定のデバイスによっては、パフォーマンスが低下または部分的になったり、デバイスの接続に失敗する場合があります。

古い Mac のゲストは仮想 USB 3.0 仮想ハードウェアを持つことができますが、USB 2.0 と USB 3.0 デバイスの両方が USB 2.0 モードで接続されます。仮想 USB 2.0 ハードウェアを持つゲストは、USB 2.0 および USB 3.0 デバイスで USB 2.0 モードも使用できます。

注意 Fusion では、仮想マシンにディスプレイを接続するための USB アダプタをサポートしていません。

USB コントローラの追加

仮想 USB コントローラを追加し、Mac に接続されている USB デバイスを仮想マシンで操作できます。

開始する前に

仮想マシンをシャットダウンまたはパワーオフしてください。仮想マシンがパワーオンまたはサスペンド状態の場合、設定を変更することはできません。

手順

- 1 [ウィンドウ] - [仮想マシンのライブラリ] を選択します。
- 2 [仮想マシンのライブラリ] ウィンドウで仮想マシンを選択し、[設定] をクリックします。
- 3 [設定] ウィンドウの [取外し可能デバイス] で、[USB と Bluetooth] をクリックします。
- 4 [詳細 USB オプション] で、ドロップダウン メニューを使用して、USB デバイスが Mac に接続されたときの Fusion の応答を選択します。

注意 USB 3.0 SuperSpeed デバイスのサポートには、USB 3.0 デバイスをサポートする適切に装備された Mac およびゲスト OS が必要です。

USB コントローラの削除

仮想マシンから USB コントローラを削除できます。

USB コントローラを削除すると、USB デバイスを仮想マシンに接続できなくなります。

開始する前に

仮想マシンをシャットダウンまたはパワーオフしてください。仮想マシンがパワーオンまたはサスペンド状態の場合、設定を変更することはできません。

手順

- 1 [ウィンドウ] - [仮想マシンのライブラリ] を選択します。
- 2 [仮想マシンのライブラリ] ウィンドウで仮想マシンを選択し、[設定] をクリックします。
- 3 [設定] ウィンドウの [取外し可能デバイス] で、[USB と Bluetooth] をクリックします。
- 4 [詳細 USB オプション] で、[USB コントローラの削除] をクリックします。
- 5 確認ダイアログ ボックスで、[削除] をクリックします。

USB デバイスをプラグインする場合の接続先の選択

仮想マシンの実行中に USB デバイスをプラグインする場合は、それを Mac に接続するか、仮想マシンに接続するかを選択できます。

Fusion では、USB デバイスを接続するときにどのシステムに接続するのかが選択できます。また、この選択内容を、今後そのデバイスを接続するときのデフォルトの接続として設定することもできます。

開始する前に

Fusion が開いていて、仮想マシンがパワーオンされている必要があります。

手順

- 1 USB デバイスを Mac にプラグインします。

選択ダイアログ ボックスが表示されます。ダイアログ ボックスが表示されない場合は、[USB] 設定パネルでこのデバイスのデフォルトの接続がすでに設定されています。

- 2 (オプション) 接続の設定を今後このデバイスのデフォルトにする場合は、[選択を記憶して今後確認しない] を選択します。

このデフォルトは、[USB と Bluetooth] 設定パネルでいつでも変更できます。

- 3 デバイスを接続するシステムを選択します。

操作は、開いている仮想マシン数によって異なります。

オプション	説明
1 つの仮想マシンをパワーオンしている場合	[Mac に接続する] または [<OS of your open virtual machine> に接続する] を選択します。
複数の仮想マシンをパワーオンしている場合	ポップアップ メニューで、[Mac に接続する] または選択した仮想マシンの [<virtual machine name> に接続する] を選択します。[OK] をクリックします。

USB デバイスのデフォルトのプラグイン アクションの設定

USB デバイスを接続するときに、Mac に接続するか、仮想マシンに接続するかを設定できます。

仮想マシンごとに異なる設定にすることができます。仮想マシンのデフォルトのプラグイン アクションを設定してもデバイスの接続時に仮想マシンがパワーオンされていない場合、デバイスは Mac に接続されます。

開始する前に

Fusion が開いていて、仮想マシンがパワーオンされている必要があります。

手順

- 1 [ウィンドウ] - [仮想マシンのライブラリ] を選択します。
- 2 [仮想マシンのライブラリ] ウィンドウで仮想マシンを選択し、[設定] をクリックします。
- 3 [設定] ウィンドウの [取外し可能デバイス] で、[USB と Bluetooth] をクリックします。
- 4 リストで USB デバイスを選択します。
- 5 [詳細 USB オプション] で、デバイスのプラグインの動作を選択します。

オプション	説明
動作を確認	Fusion により、デバイスを Mac または仮想マシンに接続するかどうかを確認されます。
この仮想マシンに接続する	仮想マシンのみがデバイスを識別します。Mac はデバイスを識別子しません。
Mac に接続する	Mac のみがデバイスを識別します。仮想マシンはデバイスを識別子しません。 このオプションは、デフォルトの動作です。プリンタはゲストではなくホストに接続することをお勧めします。

USB デバイスの接続と切断

USB デバイスを Mac 経由で仮想マシンに接続できます。

USB デバイスを仮想マシンに接続すると、その USB デバイスは Mac で使用できなくなります。

CD/DVD ドライブが USB デバイスの場合、Fusion はそれを CD/DVD ドライブではなく USB デバイスとして扱います。

開始する前に

USB デバイスを切断し、すぐに再接続した場合、以前に接続されていた仮想マシンに接続されます。接続を変更するには、Mac の別の USB ポートに再接続します。

手順

- 1 [ウィンドウ] - [仮想マシンのライブラリ] を選択します。
- 2 [設定] ウィンドウの [取外し可能デバイス] で、[USB と Bluetooth] をクリックします。
- 3 [USB デバイスを接続] セクションで、USB デバイスの横にあるチェック ボックスを選択または選択解除して、USB デバイスを接続または切断します。

仮想マシンのツールバーを使用した USB デバイスの接続と切断

ステータス バーのボタンを使用して、デバイスを接続および切断できます。

手順

- 1 仮想マシン ウィンドウのステータスバーにあるデバイス ボタンをクリックします。
- 2 [<name of device> に接続] をクリックします。

USB スマート カード リーダの接続

USB スマート カード リーダを接続する手順は、他の USB デバイスとは異なります。

スマート カード リーダをコンピュータに接続すると、Fusion のインターフェイスではリーダは 2 つの異なる USB デバイスとして表示されます。スマート カードは仮想モードまたは USB パススルー モードで使用できます。これらのモードを同時に使用することはできません。どちらか一方を選択する必要があります。

- 仮想モード（推奨）：スマート カード リーダ デバイスは、「仮想 <model name of your smart card reader> USB スマート カード リーダ」として使用できます。仮想リーダを仮想マシンに接続すると、ゲスト OS のデバイス リストに [仮想 <スマート カード リーダのモデル名> USB スマート カード リーダ] と表示されます。仮想モードでは、ホスト上のアプリケーション間およびホスト上の異なるゲスト内のアプリケーション間で、スマート カード リーダを共有できます。
- USB パススルー モード：スマート カード リーダ デバイスは、「<model name of your smart card reader > USB スマート カード リーダ」として使用できます。リーダをゲストに接続すると、ゲスト OS のデバイス リストに [<model name of the smart card reader> USB スマート カード リーダ] と表示されます。USB パススルー モードでは、1 つの仮想マシンで物理スマート カード リーダーを直接制御します。USB パススルーのスマート カード リーダは、ホスト上のアプリケーションまたは他の仮想マシン内のアプリケーションからは使用できません。USB パススルー モードは、仮想モードでの接続がコンピューティング環境でうまく動作しない場合にのみ使用してください。

注意 別のモードに切り替える前に、現在のモードを切断してください。

手順

- 仮想モードの場合は、[仮想マシン] - [USB と Bluetooth] - [<the model name of your smart card reader> USB スマート カード リーダ接続]の順に選択します。

仮想モードのデバイスを選択すると、Linux 仮想マシンの場合を除き、パススルー モードの [<the model name of your smart card reader> USB スマート カード リーダ] デバイスは表示されなくなります。
- USB パススルー モードの場合は、[仮想マシン] - [USB と Bluetooth] - [<the model name of your smart card reader> USB スマート カード リーダ接続]の順に選択します。
- どちらのモードでも、デバイスを切断するには、[仮想マシン] - [USB と Bluetooth] を選択し、切断するデバイスを選択して、[切断] をクリックします。

接続が確立可能になる前に USB 接続ダイアログボックスが消える

Fusion が USB デバイスを認識する前にデバイス自体がそのデバイスを切断する場合があります。

問題

USB デバイスを接続すると Fusion 簡易接続ダイアログ ボックスが表示されますが、操作を実行できるようになる前にダイアログ ボックスが消えます。その後、Mac と仮想マシンのどちらからも USB デバイスを参照できません。

原因

一部の USB デバイスは、接続してただちに応答を受信しない場合にごく短時間で接続を切断します。場合によっては、Fusion の USB 簡易接続では、そのような USB デバイスが要求する時間内に応答を生成できません。

この問題を回避するには、最初に接続の種類を問い合わせる処理を省略して Fusion が不明なデバイスを接続するように、仮想マシンを構成する必要があります。

解決方法

- 1 仮想マシンをシャットダウンまたはパワーオフしてください。
- 2 [ウィンドウ] - [仮想マシンのライブラリ] を選択します。
- 3 [仮想マシンのライブラリ] ウィンドウで仮想マシンを選択し、[設定] をクリックします。
- 4 [設定] ウィンドウの [取外し可能デバイス] で、[USB と Bluetooth] をクリックします。
- 5 [詳細 USB オプション] で、最初のオプションが [動作を確認] に設定されている場合、その設定を [この仮想マシンに接続する] または [Mac に接続する] に変更してください。
- 6 仮想マシンを起動します。

以後 USB デバイスを接続すると、USB 簡易接続ダイアログは表示されず、設定に応じてデバイスが仮想マシンまたは Mac に接続されるようになります。接続されたデバイスは Fusion のインターフェイス ([設定] - [USB と Bluetooth]) から参照できます。

パラレル ポートの追加

パラレル ポートを仮想マシンに追加できます。

開始する前に

仮想マシンをシャットダウンまたはパワーオフしてください。仮想マシンがパワーオンまたはサスペンド状態の場合、設定を変更することはできません。

手順

- 1 [ウィンドウ] - [仮想マシンのライブラリ] を選択します。
- 2 [仮想マシンのライブラリ] ウィンドウで仮想マシンを選択し、[設定] をクリックします。
- 3 [デバイスを追加] をクリックします。
- 4 [パラレル ポート] をクリックします。
- 5 [追加] をクリックします。
- 6 仮想パラレル ポートの出力ファイルを保存する場所を参照します。
- 7 [別名で保存] フィールドにファイルの名前を入力します。
- 8 [保存] をクリックします。

シリアル ポートの追加

シリアル ポートを仮想マシンに追加できます。

開始する前に

仮想マシンをシャットダウンまたはパワーオフしてください。仮想マシンがパワーオンまたはサスペンド状態の場合、設定を変更することはできません。

手順

- 1 [ウィンドウ] - [仮想マシンのライブラリ] を選択します。
- 2 [仮想マシンのライブラリ] ウィンドウで仮想マシンを選択し、[設定] をクリックします。
- 3 [デバイスを追加] をクリックします。
- 4 [シリアル ポート] をクリックします。
- 5 [追加] をクリックします。
- 6 仮想シリアル ポートの出力ファイルを保存する場所を参照します。
- 7 [別名で保存] フィールドにファイルの名前を入力します。
- 8 [保存] をクリックします。

仮想マシンで Bluetooth デバイスを共有

Bluetooth デバイスを仮想マシンに接続できます。

Fusion は以下の Bluetooth デバイスをサポートします。

- 携帯電話
- GPS 受信機
- シリアル ポート プロファイル (SPP) デバイス
- ほとんどの他のデバイス

Fusion は以下の Bluetooth デバイスを限定サポートします。

- 入力デバイス (HID) : Windows ホストではなく Linux/Mac OS ホストを使用している場合、ゲストに接続できます。
OBEX ファイル転送 : 発信 (ゲストからデバイス) 転送のみ。ゲストは OBEX サーバとして動作しません。

Fusion は以下の Bluetooth デバイスをサポートしません。

- ヘッドフォン
- ヘッドセット
- ハンズフリー オーディオ デバイス

Fusion では Bluetooth のサポートに以下のような制限があります。

- 発信接続のみが許可されます。仮想マシンはリモート Bluetooth デバイスへの接続を確立できますが、リモート デバイスは、仮想マシンが通知を試みるサービスを確認しません。
- 仮想マシンは、ホストの Bluetooth アダプタの名前、クラス、または発見可能性を変更できません。ホストは、他の Bluetooth デバイスがホストを発見でき、どの名前が使用されるかという設定を独占的に制御します。
- ホストは、ペアリング プロセス、および PIN 番号の収集または表示を独占的に制御します。ゲストはデバイスのスキャンおよびデバイスの接続開始ができます。ペアリングが必要な場合、ペアリング ダイアログ ボックスがゲストではなくホストに表示されます。ゲストの観点からは、デバイスは必要な PIN を持たないペアに見えます。

- ホストの Bluetooth ラジオのベンダー固有の機能は、ゲストを介して渡されません。たとえば、一部のラジオはベンダー固有のコマンドを提供して BDADDR を変更します。これらのコマンドはゲストには表示されません。ゲストには一般的な VMware ブランドのラジオが表示されます。
- 仮想 Bluetooth コントローラ自体は、スナップショットの一部ではありません。スナップショットの間、接続が解除され、再接続されます。Bluetooth デバイスとの外部接続は、スナップショット時に切断されます。

手順

- 1 [ウィンドウ] - [仮想マシンのライブラリ] を選択します。
- 2 [仮想マシンのライブラリ] ウィンドウで仮想マシンを選択し、[設定] をクリックします。
- 3 [設定] ウィンドウの [取外し可能デバイス] で、[USB と Bluetooth] をクリックします。
- 4 [Bluetooth デバイスを仮想マシンと共有] チェック ボックスを選択します。

仮想 Bluetooth ラジオがゲストに表示されます。新しいハードウェアが検出されたというゲスト OS からの通知が表示されます。デバイスは自動的にインストールされるので何もする必要はありません。

- 5 ゲストの Bluetooth インタフェースを使用して、ペアとする近くのデバイスを検索します。デバイスは、検出されるとリストで表示されます。
- 6 接続するデバイスを選択し、接続を選択します。
- 7 デバイスをホストとペアリングします。

過去にこのデバイスをホストとペアリングとしていない場合、ペアリングするように求められます。ホストにより PIN が求められたり、デバイスで入力する PIN が表示されたりする場合があります。

デバイスがペアリングされると、デバイスをゲストで使用できるようになります。

起動デバイスの選択

仮想マシンの起動に使用するデバイスを選択できます。

この機能は、Mac OS X Server 仮想マシンでは使用できません。

開始する前に

仮想マシンが実行されていることを確認します。仮想マシンが実行されていない場合、変更は適用されません。

手順

- 1 [ウィンドウ] - [仮想マシンのライブラリ] を選択します。
- 2 [仮想マシンのライブラリ] ウィンドウで仮想マシンを選択し、[設定] をクリックします。
- 3 [設定] ウィンドウの [その他] で、[起動ディスク] をクリックします。
- 4 使用する起動デバイスをクリックします。
- 5 [再起動] をクリックします。

[Option] キーを押しながら [ファームウェアを再起動...] をクリックして、ファームウェア設定モードで仮想マシンを再起動することもできます。

ゲスト OS が再起動し、選択したデバイスで起動します。

仮想マシンの暗号化と制限

仮想マシンを暗号化して制限し、仮想マシンの使用およびその内容へのアクセスを制御します。

仮想マシンを暗号化すると、仮想マシンを開くために必要なパスワードを設定できます。暗号の削除またはパスワードの変更はいつでも実行できます。

注意 50 GB を超えるような大きな仮想マシンは、ディスク領域が少ないという警告を生成する場合があります。

Fusion Pro を所有している場合、制限をオンにすれば、ユーザーが仮想マシンを変更できないようにすることもできます。制限を有効にしてユーザーが仮想デバイスを削除、メモリ割り当てを変更、削除可能なデバイスの変更、および仮想ハードウェアの互換性の変更ができないようにすることができます。

仮想マシンを移動またはコピーした場合に暗号化パスワードをユーザーに強制的に変更させるようにできます。たとえば、先生が仮想マシンのコピーをクラスの生徒全員に提供してこの制限を設定すると、すべての生徒は自分の暗号化パスワードを作成する必要があります。

事前に設定した日付および時刻で仮想マシンが期限切れとなるようにすることもできます。仮想マシンが期限切れになると、ユーザーは仮想マシンにアクセスできなくなります。制限を解除するか、別の日付および時刻を設定することで、期限が切れた仮想マシンを延長することができます。

制限をオンにする場合、制限パスワードを設定します。制限をオンにした後は制限をオフにしない限り、仮想マシンの設定または制限ポリシーを変更することはできません。制限をオフにするには、制限パスワードを入力する必要があります。

制限機能は、Fusion Pro を使用している場合にのみ利用できます。

仮想マシンの暗号化と制限

パスワードを使用して仮想マシンを暗号化し、仮想マシンおよびその内容へのアクセスを制御できます。Fusion Pro がある場合、仮想マシンの制限を有効にして、ユーザーが特定の仮想マシン設定を変更できないようにしたり、仮想マシンの有効期限を設定したりすることもできます。

仮想マシンの制限を有効にすると、仮想マシンの有効期限を設定できます。

暗号化と制限を設定する場合、以下のガイドラインを使用してください。

- Fusion ライセンスがある場合、仮想マシンの制限がまだ有効になっていない状態でのみ暗号化を有効または無効にできます。
- 仮想マシンの制限がすでに有効になっている場合、Fusion Pro ライセンスがなければ暗号化および制限の設定を変更することはできません。Fusion ライセンスでは、暗号化および制限の設定は読み取り専用になります。暗号化パスワードのみを変更できます。
- Fusion 5 およびそれ以降と互換性がある仮想マシンに限り制限ポリシーが適用されます。

開始する前に

- 仮想マシンをサスペンドまたはシャットダウンします。
- 仮想マシンの制限をオンにする場合、Fusion Pro ライセンスがあることを確認します。

これらの制限は、Horizon FLEX 仮想マシンに適用されません。Horizon FLEX 仮想マシンを作成するには、Horizon FLEX ライセンスのある Fusion Pro を使用する必要があります。Horizon FLEX 仮想マシンの暗号化および制限の有効化については、『VMware Horizon FLEX 管理ガイド』を参照してください。

手順

- 1 [ウィンドウ] - [仮想マシンのライブラリ] を選択します。
- 2 [仮想マシンのライブラリ] ウィンドウで仮想マシンを選択し、[設定] をクリックします。
- 3 [設定] ウィンドウの [その他] で、[暗号化と制限] をクリックします。

- 4 [暗号化を有効にする] を選択し、暗号化パスワードを設定します。

パスワードは 6 文字以上にする必要があります。

重要 暗号化パスワードを書き留めます。暗号化パスワードを忘れた場合、Fusion にはパスワードを取得する方法は用意されていません。

- 5 (オプション) [パスワードを保存する] を選択し、暗号化パスワードを Mac の Keychain のパスワード管理システムに保存します。

- 6 [OK] をクリックします。

- 7 (オプション) (Fusion Pro のみ) 仮想マシンの制限を有効にするには、次の手順を実行します。

- a [制限を有効にする] を選択し、制限パスワードを設定します。

重要 制限パスワードを書き留めます。制限パスワードを忘れた場合、Fusion にはパスワードを取得する方法は用意されていません。

- b [設定] をクリックします。

- c [制限] タブで、適切な制限オプションを選択します。

オプション	説明
暗号化パスワードを変更することをユーザーに求める	この仮想マシンを移動したりコピーしたりする場合は、ユーザーに仮想マシンの暗号化パスワードの変更を求めます。
USB デバイスをこの仮想マシンに接続することを許可する	USB デバイスの接続が許可されます。

- d [有効期限] タブで、適切な有効期限オプションを設定します。

オプション	説明
制限管理サーバ	仮想マシンの信頼された時間ソースとして使用するために HTTPS プロトコルをサポートするサーバを指定します。
サーバ接続頻度	仮想マシンが時間の確認のためにサーバに接続する頻度を設定します。
サーバ接続なしで使用できる仮想マシンの最大時間	タイム サーバに接続することなく仮想マシンを使用できる日数を選択します。
仮想マシンの有効期限	仮想マシンの期限が切れる日時を設定します。仮想マシンの期限が切れたら、有効期限を削除または延長できます。

- e [メッセージ] タブで、仮想マシンが期限切れまたは期限切れ間近のときに表示されるカスタム メッセージを指定します。

- f [証明書] タブで、タイム サーバに接続したときに仮想マシンで信頼する証明書を追加します。

- g [保存] をクリックします。

- h [ロック] アイコンをクリックし、仮想マシンの制限をロックします。

仮想マシンがロックされると、ユーザーは、現在の制限を編集するときに制限パスワードを入力する必要があります。

仮想マシンが暗号化がされます。ユーザーは、仮想マシンを開いたり、開始したり、レジュームしたりするときに暗号化パスワードを入力する必要があります。

仮想マシンの制限を有効にした場合、多くの仮想マシン構成設定が仮想マシンのユーザーに表示されなくなります。表示されないこれらの仮想マシン設定を変更するには、ユーザーは Fusion Pro を所有し、制限パスワードを入力する必要があります。

仮想マシンの有効期限を設定する場合、仮想マシンは有効期限を検証し、パワーオン時の有効期限と比較します。実行している間、仮想マシンは定期的に時間を確認し、最後の信頼されたタイムスタンプとしてすべての成功したタイムスタンプを保存します。信頼できる最後のタイムスタンプが仮想マシンの有効期限に設定された日付を越えると、警告メッセージがユーザーに表示され、仮想マシンはサスペンドされます。

暗号化された仮想マシンのパスワードの変更

暗号化された仮想マシンのパスワードはいつでも変更できます。

開始する前に

- 仮想マシンをサスペンドまたはパワーオフします。
- 暗号化された仮想マシンにパスワードが設定されていることを確認します。

Horizon FLEX 仮想マシンの暗号化パスワードを変更するには、Horizon FLEX ライセンスのある Fusion Pro を使用する必要があります。

手順

- 1 [ウィンドウ] - [仮想マシンのライブラリ] を選択します。
- 2 [仮想マシンのライブラリ] ウィンドウで仮想マシンを選択し、[設定] をクリックします。
- 3 [設定] ウィンドウの [その他] で、[暗号化と制限] をクリックします。
- 4 [パスワードを変更] をクリックします。
- 5 仮想マシンの古いパスワードを入力します。
- 6 仮想マシンを暗号化するために使用するパスワードを入力します。
このパスワードは忘れないようにしてください。このパスワードがないと仮想マシンにアクセスできません。
- 7 パスワードを再度入力します。
- 8 (オプション) [パスワードを保存する] を選択し、パスワードを Mac の Keychain のパスワード管理システムに保存します。
- 9 [OK] をクリックします。

仮想マシンの暗号化パスワードが変更されます。

仮想マシンの暗号化の解除

仮想マシンの暗号化はいつでも解除できます。

開始する前に

- 仮想マシンをサスペンドまたはパワーオフします。
- 暗号化された仮想マシンにパスワードが設定されていることを確認します。

Horizon FLEX 仮想マシンの暗号化を解除するには、Fusion Pro と Horizon FLEX ライセンスの使用が必要です。

手順

- 1 [ウィンドウ] - [仮想マシンのライブラリ] を選択します。
- 2 [仮想マシンのライブラリ] ウィンドウで仮想マシンを選択し、[設定] をクリックします。
- 3 [設定] ウィンドウの [その他] で、[暗号化と制限] をクリックします。

- 4 (オプション) [制限を有効にする] チェック ボックスが選択されている場合は、選択解除します。
制限が有効の間は、仮想マシンの暗号化を解除できません。
- 5 [暗号化を有効にする] チェック ボックスを選択解除します。
- 6 仮想マシンのパスワードを入力します。
- 7 [OK] をクリックします。

仮想マシンの暗号化が解除されます。仮想マシンとそのコンテンツにアクセスするのにパスワードが不要になります。

暗号化された仮想マシンのパスワードの Keychain への保存

暗号化された仮想マシンのパスワードは、Mac の Keychain のパスワード管理システムにいつでも保存できます。パスワードは Mac の Keychain によって記憶されます。

開始する前に

- 仮想マシンをサスペンドまたはパワーオフします。
- 暗号化された仮想マシンにパスワードが設定されていることを確認します。

手順

- 1 [ウィンドウ] - [仮想マシンのライブラリ] を選択します。
- 2 [仮想マシンのライブラリ] ウィンドウで仮想マシンを選択し、[設定] をクリックします。
- 3 [パスワードを保存する] チェック ボックスを選択します。
- 4 仮想マシンのパスワードを入力します。
- 5 [OK] をクリックします。

暗号化された仮想マシンのパスワードが Keychain に保存されます。

仮想マシンの互換性

ある仮想マシンと、別のバージョンの Fusion や他の VMware 製品との互換性は、その仮想マシンのハードウェアバージョンに依存します。仮想マシンのハードウェアバージョンは、その仮想マシンを作成するために使用した Fusion のバージョンによって決まります。

Fusion をアップグレードしたり、他の VMware 製品で仮想マシンを使用したりする場合は、仮想マシンのハードウェアバージョンをアップグレードすることを検討してください。

仮想マシンのハードウェアバージョンを変更する前に、仮想マシンをパワーオフする必要があります。

仮想マシンのハードウェア互換性の変更

使用可能な仮想マシンのハードウェアバージョンの中で最新のものを使用すると、仮想マシン内で実行されるアプリケーションのパフォーマンスと信頼性が最大限に高まります。

ハードウェアバージョン 10 以降での仮想マシンは、SATA ハードディスクまたは CD ドライブで作成されます。ハードウェアバージョン 9 以前から仮想マシンをアップグレードしても、仮想マシンのデバイスは SATA に変更されません。仮想マシンで SATA ディスクまたはドライブを使用する場合は、手動でディスクおよびドライブタイプを変更する必要があります。

開始する前に

- どのハードウェアバージョンを選択するかを決定するために、仮想マシン内で実行されているアプリケーションを評価します。アプリケーションの中には、使用可能な最新バージョンよりも古い仮想マシンのハードウェアバージョンで提供される特定のハードウェア要件を持つものがあります。

- 仮想マシンのスナップショットをとることを検討してください。仮想マシンのハードウェア バージョンを変更したために望ましくない動作が発生した場合は、ハードウェア バージョンをアップグレードする前にとったスナップショットに戻すことができます。
- 仮想マシンのハードウェア バージョンを変更する前に、仮想マシンをシャットダウンまたはパワーオフします。

手順

- 1 [ウィンドウ]-[仮想マシンのライブラリ] を選択します。
- 2 [仮想マシンのライブラリ] ウィンドウで仮想マシンを選択し、[設定] をクリックします。
- 3 [設定] ウィンドウの [その他] で、[互換性] をクリックします。
- 4 [詳細オプション] の [ハードウェア バージョンを使用] ドロップダウン メニューからハードウェア バージョンを選択します。

ハードウェア互換性設定を選択すると、その設定と互換性がある VMware 製品のリストが表示されます。たとえば、ハードウェア バージョン 10 を選択すると、このバージョンでサポートされる VMware 製品のリストが表示されます。選択したハードウェア バージョンの制限も表示されます。

一部のハードウェア オプションは、選択で使用できない場合があります。たとえば、Fusion の現在のバージョンでサポートされない古いハードウェア バージョンです。

- 5 (オプション) [元に戻す] をクリックしてお使いの仮想マシンのハードウェア バージョンに戻します。ハードウェア バージョンを元に戻すと、現在のハードウェア バージョンの互換性と制限を表示できます。
- 6 [適用] をクリックして仮想マシンのハードウェア バージョンを変更します。
- 7 [閉じる] をクリックします。

仮想マシンのハードウェア バージョンが変更されます。

次に進む前に

仮想マシンをオンにします。

仮想マシンのハードウェア バージョンの選択

仮想マシンのハードウェア バージョンをアップグレードすると、メモリの上限、使用されるプロセッサの数、仮想マシンで利用可能なディスク領域の量が増加し、パフォーマンスが向上します。

開始する前に

最新バージョンの VMware Tools をインストールしていることを確認します。

手順

- 1 [ウィンドウ]-[仮想マシンのライブラリ] を選択します。
- 2 [仮想マシンのライブラリ] ウィンドウで仮想マシンを選択し、[設定] をクリックします。
- 3 [設定] ウィンドウの [その他] で、[互換性] をクリックします。
- 4 [詳細オプション] の [ハードウェア バージョンを使用] ドロップダウン メニューからハードウェア バージョンを選択します。

ハードウェア バージョン 12 では、高速 3D グラフィックス レンダリング機能の向上など、仮想マシンのパフォーマンスがさらに向上します。

仮想マシンのゲストの隔離オプションの構成

隔離オプションを使用すると、仮想マシンとホスト システム間、および仮想マシンと他の仮想マシン間のファイル操作を制限できます。

選択した仮想マシンのゲスト隔離オプションを設定するには、[仮想マシン] - [設定] を選択し、[隔離] を選択します。

以下の制限が適用されます。

- ゲストの隔離機能を使用するには、ゲスト OS に VMware Tools がインストールされている必要があります。
- リモート仮想マシンの場合はこれらのオプションを構成できません。
- 仮想マシンのゲスト OS として Mac OS を実行している場合は、ゲスト OS とホスト間でテキストのコピー アンド ペーストが可能です。ファイルのコピーはサポートされません。

注意 ドラッグ アンド ドロップ操作とコピー アンド ペースト操作は、デフォルトで有効になっています。仮想マシンとホスト システム間でファイルが誤って転送されることを防ぐには、これらの操作を無効にしてください。

表 8-3. 分離オプション

オプション	説明
[ドラッグ&ドロップを有効にする]	<p>このチェックボックスを選択解除すると、以下のオプションが制限されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ ホスト システムから Linux または Windows ゲスト OS にファイルをドラッグ アンド ドロップする。 ■ ゲスト OS からホスト システムにファイルをドラッグ アンド ドロップする。 ■ ドラッグ アンド ドロップをサポートするアプリケーションにファイル マネージャからファイルをドラッグ アンド ドロップする。またはドラッグ アンド ドロップによる個別ファイルの抽出をサポートする Zip ファイル マネージャなどのアプリケーションからファイルをドラッグ アンド ドロップする。 <p>これらの操作を有効にするには、このチェックボックスを選択します。</p>
[コピー&ペーストを有効にする]	<p>このチェックボックスを選択解除すると、以下の操作が制限されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ ホスト システムから Linux または Windows ゲスト OS にテキストとファイルをコピー アンド ペーストする。 ■ ゲスト OS からホスト システムにコピーして貼り付ける。 ■ 仮想マシン間でテキストおよびファイルをコピーして張り付ける。 <p>これらの操作を有効にするには、このチェックボックスを選択します。</p>

詳細設定の管理

仮想マシンに対して、パワー サプライの状態の監視、VNC アクセスの有効化、または他の詳細な機能の変更を行うことができます。

ゲストとホスト OS 間の時間同期の構成

ゲスト OS の時計がホストの時計と同期されるかどうかを設定できます。

時間同期でこの詳細設定をオンにすると、ゲスト OS 内で動作する VMware Tools サービスは、ゲストとホスト OS の時計が一致しているかどうかを判断するために 1 分間に 1 度確認します。一致していない場合は、ゲスト OS の時計がホストの時計と一致するよう同期がとられます。

VMware Tools の時刻同期の動作方法や時刻同期を完全に無効にする手順の詳細については、『VMware Tools のインストールと構成』ドキュメント (<http://www.vmware.com/pdf/vmware-tools-installation-configuration.pdf>) を参照してください。

開始する前に

他の時間同期メカニズムを無効にします。ほとんどのゲストは、デフォルトで時間同期がオンになっています。

手順

- 1 [ウィンドウ]-[仮想マシンのライブラリ] を選択します。
- 2 [仮想マシンのライブラリ] ウィンドウで仮想マシンを選択し、[設定] をクリックします。
- 3 [設定] ウィンドウの [その他] で、[詳細] をクリックします。
- 4 [時間を同期] チェック ボックスを選択します。

仮想マシンでの Mac パワー サプライ状態の表示

Mac のパワー サプライの状態を表示するように、仮想マシンを設定できます。

この機能を有効にすると、Mac の電源状態に関する情報が仮想マシンに渡されます。仮想マシンでバッテリーの残量を表示でき、バッテリーが残り少なくなるとサスペンドまたはハイパネーションします。

手順

- 1 [ウィンドウ]-[仮想マシンのライブラリ] を選択します。
- 2 [仮想マシンのライブラリ] ウィンドウで仮想マシンを選択し、[設定] をクリックします。
- 3 [設定] ウィンドウの [その他] で、[詳細] をクリックします。
- 4 [電源状態を仮想マシンに送る] チェック ボックスを選択します。

優先される仮想化エンジンの変更

デフォルトとは異なる仮想化エンジンを設定できます。

デフォルトでは、Fusion は仮想マシンのオペレーティングシステムおよび Mac のプロセッサに最適な仮想化エンジンを選択します。自動設定を無効にして、特定の仮想化エンジンを選択できます。オプションについて詳しくない場合は、デフォルトの設定のままにしてください。

手順

- 1 [ウィンドウ]-[仮想マシンのライブラリ] を選択します。
- 2 [仮想マシンのライブラリ] ウィンドウで仮想マシンを選択し、[設定] をクリックします。
- 3 [設定] ウィンドウの [その他] で、[詳細] をクリックします。
- 4 [優先される仮想化エンジン] メニューからオプションを選択します。

オプション	説明
自動	Fusion のデフォルト設定です。
自動再生	Fusion ではサポートされないオプションです。Workstation Pro で作成された仮想マシンでは、この値が設定される場合があります。
バイナリ変換	x86 アーキテクチャ用の仮想化技法であり、命令ストリームが検査されて、仮想化できないマシン命令は安全なコードに置き換えられます。
Intel VT-x	ハードウェアで補助された仮想化の Intel による実装です。この技法では、CPU により、ソフトウェアは仮想化できない命令でトラップを生成して仮想化できるようになります。すべての Intel Mac がこの機能を備えています。
Intel VT-x/EPT	EPT (Extended Page Tables) はハードウェアで補助された仮想化技法を改善したもので、仮想 MMU (Memory Management Unit) をサポートします。
カスタム	Fusion.ではサポートされないオプションを示します。

仮想マシンのトラブルシューティング

仮想マシンでどのレベルのトラブルシューティング情報を収集するかを決定できます。

収集するトラブルシューティング情報のレベルは、仮想マシンのパフォーマンスに影響を及ぼす可能性があります。

手順

- 1 [ウィンドウ]-[仮想マシンのライブラリ] を選択します。
- 2 [仮想マシンのライブラリ] ウィンドウで仮想マシンを選択し、[設定] をクリックします。
- 3 [設定] ウィンドウの [その他] で、[詳細] をクリックします。
- 4 [トラブルシューティング] メニューからオプションを選択します。

オプション	説明
デフォルト	Fusion は仮想マシンに対して最善の設定を決定します。
なし	Fusion は、仮想マシンからトラブルシューティング情報を収集しません。この設定によって、仮想マシンを最も高速に実行できます。
ハング/クラッシュ	Fusion は、仮想マシンのハングまたはクラッシュについての正確性情報を収集します。
パフォーマンス	Fusion は、仮想マシンでの操作に時間がかかりすぎている場合などにパフォーマンス情報を収集します。

次に進む前に

VMware Fusion メニュー バーから、[ヘルプ]-[サポート情報の収集] を選択し、Fusion が収集した、仮想マシンに関するトラブルシューティング情報を収集します。Fusion は、トラブルシューティング データが格納された **.zip** ファイルをデスクトップに作成します。

ハード ディスク バッファリングの変更

Fusion は、使用するゲスト OS に合わせてハード ディスク バッファリングを自動的に設定しますが、設定を変更することができます。

ハード ディスク バッファリングを使用すると、仮想マシンのパフォーマンスを向上させることができます。また、ハード ディスク バッファリングは、バッファリングなしで動作するときより Mac ホストのメモリを多く消費する場合があります。Fusion は、仮想マシンのオペレーティング システムに基づいてハード ディスク バッファリングを有効または無効にします。

Windows Vista 以降のすべてのゲスト OS の場合、Fusion では Mac ホストでの I/O はデフォルトでバッファリングされません。このバージョンの Fusion で新しく作成されたすべての Windows 2000、2003、XP、および XP 64 ビットのゲストについても同様です。他のすべてのゲストは、Mac ホストではデフォルトで I/O がバッファリングされます。

オプションについて詳しくない場合は、デフォルトの設定のままにしてください。

手順

- 1 [ウィンドウ]-[仮想マシンのライブラリ] を選択します。
- 2 [仮想マシンのライブラリ] ウィンドウで仮想マシンを選択し、[設定] をクリックします。
- 3 [設定] ウィンドウの [その他] で、[詳細] をクリックします。

- 4 [ハード ディスク バッファリング] メニューからオプションを選択します。

オプション	説明
自動	Fusion は、オペレーティング システムを判断し、最適なパフォーマンスを得られるバッファリング タイプに応じて、ハード ディスク バッファリングを有効または無効にします。
有効	仮想マシンのオペレーティング システムで、バッファリングされた I/O が使用されます。
無効	仮想マシンのオペレーティング システムで、バッファリングされていない I/O が使用されます。

Boot Camp 仮想マシンを開くためのパスワード要件の設定

Boot Camp パーティションをパワー オンする仮想マシンがある場合、それを開くたびにパスワードを必要とするかどうかを設定できます。

開始する前に

Mac に Boot Camp パーティションがあり、それをパワー オンする仮想マシンを作成している必要があります。

手順

- 1 [ウィンドウ] - [仮想マシンのライブラリ] を選択します。
- 2 [仮想マシンのライブラリ] ウィンドウで仮想マシンを選択し、[設定] をクリックします。
- 3 [設定] ウィンドウの [その他] で、[詳細] をクリックします。
- 4 [Boot Camp ディスクの管理アクセス権] を設定して、パスワード要件を選択します。

オプション	説明
確認しない	Fusion で Boot Camp 仮想マシンを開くときに、パスワードを入力する必要はありません。
常に確認する	Boot Camp 仮想マシンを開くたびに、Mac の管理者アカウントのパスワードを入力する必要があります。

VNC クライアントによる仮想マシンへのリモート アクセスの有効化

すべての仮想ネットワーク コンピュータ (VNC) クライアントが Mac に接続して仮想マシンにアクセスするように仮想マシンを設定できます。

VNC ソフトウェアを使用すると、インターネット上の任意の場所にある他のコンピュータまたはモバイル デバイスから、あるコンピュータを表示したり、操作したりできます。VNC ソフトウェアはクロスプラットフォームで、異なるタイプのコンピュータ間でリモート制御できます。

表 8-4 は、VNC の設定方法を示しています。

表 8-4. VNC のオプション

オプション	説明
Remote Desktop、画面共有、または Mac ホスト上のサードパーティ VNC サーバ	<ul style="list-style-type: none"> ■ Fusion や他のアプリケーションを含め、ホスト Mac 全体を制御できます。 ■ サーバへの接続はホストの IP アドレスまたはホスト名を使用して行われます。
Fusion が提供する VNC サーバ	<ul style="list-style-type: none"> ■ 各仮想マシンで使用できます。 ■ ホスト Mac でまだ使用されていない固有のポートを使用する必要があります。 ■ ゲスト OS を実行する前であっても、パワーオン状態であればいつでも仮想マシンを制御できます。 ■ サーバへの接続はホストの IP アドレスまたはホスト名を使用して行われます。
仮想マシンのゲスト OS 内部の VNC サーバ	<ul style="list-style-type: none"> ■ VNC サーバは、仮想マシン内の他のアプリケーションと同様にインストールされます。 ■ ゲスト OS のみ制御でき、ゲストオペレーティングシステムを起動してはじめて使用できます。 ■ ブリッジネットワークを使用する場合、サーバへの接続はゲストの IP アドレスまたはホスト名を使用して行われます。

次の手順では、Fusion によって提供される VNC サーバを使用して、VNC クライアントによる仮想マシンへのリモートアクセスを有効にする方法を説明します。

手順

- 1 [ウィンドウ]-[仮想マシンのライブラリ] を選択します。
- 2 [仮想マシンのライブラリ] ウィンドウで仮想マシンを選択し、[設定] をクリックします。
- 3 [設定] ウィンドウの [その他] で、[詳細] をクリックします。
- 4 [VNC によるリモート ディスプレイ] チェック ボックスを選択します。
- 5 (オプション) パスワードを入力します。

VNC 経由で送信されるデータは暗号化されないで、通常のパスワードは使用しないでください。

- 6 Mac 上のポートを認定します。

デフォルト ポートは 5900 です。Mac で画面共有を有効にしている場合、ポート 5900 がすでに使用中で、5901 などの別のポートを使用する必要がある場合があります。複数の仮想マシンを使用する場合は、仮想マシンを追加するたびにポート番号を増加させます。

以上で 仮想マシンが VNC クライアントに表示されます。

Fusion のアップグレード

新しいバージョンの Fusion にアップグレードするには複数の方法があります。

次の手順を使用して、Fusion をアップグレードします。

この章では次のトピックについて説明します。

- [自動アップデートを使用した Fusion のアップグレード \(P. 127\)](#)
- [ダウンロードからの Fusion のアップグレード \(P. 128\)](#)
- [評価期間終了後の Fusion 完全ライセンス版へのアップグレード \(P. 128\)](#)
- [VMware Tools のアップグレード \(P. 129\)](#)
- [Fusion のアンインストール \(P. 129\)](#)
- [仮想マシンのプロセスの強制終了 \(P. 130\)](#)

自動アップデートを使用した Fusion のアップグレード

Fusion には、組み込みのソフトウェア アップデータがあり、Fusion および VMware Tools のアップデートを確認し、アップデートをダウンロードしてインストールします。

[VMware Fusion] - [環境設定] の [アップデートの自動確認] チェック ボックスが選択されていると、Fusion は開始されるたびにアップデートを確認します。Fusion により、新しいバージョンが検出されると、[ソフトウェアのアップデート] ウィンドウに表示されます。[ソフトウェアのアップデート] ウィンドウには、次のオプションがあります。

このバージョンをスキップ 説明されているバージョンにアップグレードしない場合にこのオプションを選択します。Fusion は以降の自動アップデートの確認でこのバージョンを無視します。Fusion に [ソフトウェアのアップデート] ウィンドウを再度表示するには、[VMware Fusion] - [更新の確認] を選択します。

後で通知 Fusion は、[ソフトウェアのアップデート] ウィンドウを閉じます。次に Fusion を開始するときに、[ソフトウェアのアップデート] ウィンドウが表示されます。

ダウンロードとインストール Fusion は、アップデート ファイルを Mac にダウンロードしてインストールします。

開始する前に

[VMware Fusion] - [環境設定] で [アップデートの自動確認] チェック ボックスが選択されていることを確認します。

Fusion は、この手順の一環として実行中の仮想マシンをシャットダウンできますが、開始する前に手動で仮想マシンをシャットダウンまたはサスペンドすることをお勧めします。

手順

- 1 [ソフトウェアのアップデート] ウィンドウで、[ダウンロードとインストール] をクリックします。
Fusion はアップデート ファイルを Mac にダウンロードします。
- 2 [アップデートをインストールする準備ができました] プロンプトで、実行中の仮想マシンをシャットダウンし、[インストールして再起動] をクリックします。
Fusion は、アップデート ファイルを Mac にダウンロードし、インストール中に進行状況バーを表示して、インストールの完了時に再起動します。

ダウンロードからの Fusion のアップグレード

以前のバージョンの Fusion をお持ちの場合、VMware の Web サイトから Fusion のディスク イメージを手動でダウンロードして、最新バージョンにアップグレードできます。

Fusion をアップグレードする場合、まず Mac にインストールされている Fusion のバージョンを削除することをお勧めします。Fusion のインストール、アップグレード、アンインストールによって、既存の仮想マシンが変更されることはありません。

開始する前に

すべての仮想マシンがシャットダウンされていること、および Fusion を実行していないことを確認してください。

手順

- 1 Fusion の以前のバージョンをゴミ箱にドラッグします。
Fusion は、Mac のアプリケーション フォルダにあります。
- 2 VMware Web サイト (<http://www.vmware.com/mac/>) から Fusion をダウンロードします。
 - a [ダウンロード] リンクをクリックし、Electronic Download Distribution からリンク先画面の指示に従ってダウンロードを行います。
 - b ダウンロードのリンクをクリックし、アプリケーションを Mac に保存します。
Fusion のディスク イメージがデフォルトのダウンロード ディレクトリに保存されます。ファイル名は **VMware-Fusion-<x.x.x>-<xxxxxx>.dmg** で、<x.x.x> はアプリケーションのバージョン、<xxxxxx> はダウンロード リリースのビルド番号です。
- 3 **VMware-Fusion-<x.x.x>-<xxxxxx>.dmg** ファイルをダブルクリックして、マウントします。
- 4 [VMware Fusion] アイコンをダブルクリックして、Fusion を Mac にコピーして開始します。

評価期間終了後の Fusion 完全ライセンス版へのアップグレード

無料評価版の使用後、または既存ライセンスの期限切れ後に引き続き Fusion を使用するには、VMware Web サイトでライセンスを購入する必要があります。

手順

- 1 [VMware Fusion] - [購入またはライセンスを入力] を選択します。
- 2 Fusion インストールにライセンスを付与します。

オプション	操作
ライセンス キーがある	ライセンス キーを入力します。
ライセンス キーがない	<ol style="list-style-type: none"> a [購入] をクリックします。 b VMware Web サイトの VMware Fusion ページで、購入する Fusion のバージョンを選択し、対応するボタンをクリックします。 c 指示にしたがって注文を処理します。

VMware Tools のアップグレード

手動で VMware Tools をアップグレードするか、仮想マシンを構成して VMware Tools の新しいバージョンがあるかを確認し、あればインストールすることができます。

仮想マシンをパワーオンすると、ゲスト OS が VMware Tools のバージョンをチェックします。新しいバージョンが使用可能な場合、仮想マシンのステータス バーにメッセージが表示されます。

Windows 仮想マシンでは、アップグレードが使用可能になったときに通知するように VMware Tools を設定することができます。この通知オプションが有効になっている場合、VMware Tools のアップグレードが使用可能になると、黄色の警告マークがついた VMware Tools アイコンが Windows タスクバーに表示されます。

VMware Tools のアップグレードをインストールするには、最初に VMware Tools をインストールしたときと同じ手順を実行できます。VMware Tools をアップグレードすることは、新しいバージョンがインストールされることを意味します。

Windows および Linux ゲスト OS の場合、VMware Tools を自動的にアップグレードするように仮想マシンを構成できます。Windows ゲスト OS の場合、仮想マシンをパワーオンするとバージョン チェックが実行されますが、自動アップグレードは、仮想マシンをパワーオフまたは再起動したときに実行されます。アップグレードの実行中には、ステータスバーに「**VMware Tools をインストールしています...**」というメッセージが表示されます。

重要 Linux ゲスト OS で VMware Tools をアップグレードしたら、新しいネットワーク モジュールが使用可能になります。ただし、ゲスト OS を再起動するか、ネットワークを停止して、VMware ネットワーク カーネル モジュールをアンロードしてから再ロードした後、ネットワークを再起動するまで、新しいネットワーク モジュールは使用されません。つまり、VMware Tools が自動的にアップグレードするように設定されていても、新しい機能を使用するためには、再起動するかネットワーク モジュールを再ロードする必要があります。

これにより、ネットワークの中断が回避され、SSH 経由で VMware Tools をインストールできるようになります。

Windows ゲスト OS で VMware Tools をアップグレードすると、WDDM グラフィックス ドライバが自動的にインストールされます。WDDM グラフィックス ドライバにより、ゲスト OS の電源設定でスリープ モードを使用してスリープ オプションを調整できるようになります。たとえば、[コンピュータがスリープ状態になる時間を変更] というスリープ モード設定を使用してゲスト OS を構成し、一定時間が経過したら自動的にスリープ モードになるようにしたり、一定時間アイドル状態であった場合でもゲスト OS が自動的にスリープ モードに切り替わらないようにしたりできます。

VMware 製品の特定のリリースにおけるいくつかの機能は、VMware Tools のインストールまたはそのリリースに含まれる VMware Tools のバージョンへのアップグレードを実行したかどうかに依存する場合があります。VMware Tools の最新バージョンへのアップグレードは必ずしも必要ではありません。VMware Tools の新しいバージョンは、複数のホストのバージョンと互換性があります。不要なアップグレードを避けるために、追加された機能や性能がお使いの環境にとって必要かどうかを評価します。

Fusion のアンインストール

Fusion をアンインストールしても、既存の仮想マシンは変更されません。

Fusion のアンインストール

アプリケーション フォルダから Fusion をアンインストールできます。

開始する前に

実行中のすべての仮想マシンをパワーオフまたはサスペンドし、Fusion を終了します。

手順

- ◆ VMware Fusion アプリケーションを Mac のアプリケーション フォルダからゴミ箱にドラッグします。

仮想マシンのプロセスの強制終了

Fusion をアップグレードまたはアンインストールできない場合は、Mac Activity Monitor を使用して問題を修正することが必要な場合があります。

まれに、実行中の仮想マシンのプロセスが残ったまま、仮想マシン内のオペレーティングシステムが突然終了することがあります。この状況では、Fusion をアップグレードまたはアンインストールすることはできません。この場合、インストーラまたはアンインストーラを実行すると、Fusion をインストールまたはアンインストールできない、というメッセージが表示されることがあります。この問題に対処するには、Mac 本体の Activity Monitor を使用して仮想マシンのプロセスを強制終了します。

手順

- 1 Finder で、[アプリケーション]-[ユーティリティ] を選択し、[アクティビティモニタ] をダブルクリックして Activity Monitor を開きます。
- 2 [すべてのプロセス] を選択します。
- 3 [プロセス名] 列で [VMware Fusion] を選択します。
- 4 [表示]-[プロセスを終了] を選択します。
- 5 [プロセスを終了] ウィンドウで [強制終了] を選択します。

インデックス

数字

3D グラフィックス、高速化 93

3D グラフィックスの高速化 93

A

Apple Mighty Mouse での Control + クリック 75

App Nap 92

App NapApp Nap 92

AutoProtect、ハード ディスク管理への影響 100

B

Bluetooth、仮想マシンとペア 115

Boot Camp

インポート 52, 54

仮想マシンのパスワード要件の設定 125

パーティション、仮想マシンの作成 16, 45

C

CD/DVD ドライブ

USB デバイスの場合 105, 112

イメージの作成 106

仮想マシンからの削除 105

仮想マシンでの接続と設定 105

仮想マシンでの設定 104

仮想マシンに追加 105

ステータス バーを使用した接続と切断 106

ホスト CD/DVD と CD または DVD ISO イメージ間の CD/DVD 接続の切り替え 105

CD/DVD イメージの作成 106

Cover Flow、仮想マシンに情報を追加して表示 15

Ctrl + Alt + Delete、仮想マシンへの送信 67

D

DirectX 10 によるグラフィックス高速化サポート 93

DirectX 9.0EX 93

DirectX 9.0c Shader Model 3 93

Dock

Mac へのログイン時に開くように仮想マシン アプリケーションを設定 32

仮想マシン アプリケーションの格納 32, 74

DVD インストール 8

E

ESXi vNIC 無差別モード 97

Exposé 機能、ユニティ モード表示中の仮想マシン アプリケーションでの使用 20

F

feed、URL を開くためのアプリケーションの設定 28

ftp、URL を開くためのアプリケーションの設定 28

Fusion

アップグレード 128

アンインストール 129

インストールまたはアップグレード 127

インターフェイスの使用とカスタマイズ 15

概要 11

仮想マシンの操作 63

機能 11

機能と仮想マシン 11

構成 25

サポートとニュースのオンライン リソース 9

システム要件 8

自動的なソフトウェア アップデートの確認 25, 127

手動アップグレード 128

ショートカットの設定 28

説明 7

Fusion Pro 59, 60

Fusion Professional 97

Fusion のアップグレード 127, 128

Fusion の構成 25

Fusion メニュー バー 23

H

Horizon FLEX 管理サーバ 117

Horizon FLEX サーバ 117

http、URL を開くためのアプリケーションの設定 28

I

IDE 52

IPv6、ブリッジ ネットワークでのサポート 96

ISO イメージ、仮想 CD/DVD ドライブの接続 105

K

Keychain 120

L

Linux 簡易インストール

仮想マシンの作成 40, 41

使用できる Linux オペレーティング システム 40

Linux ゲスト、VMware Tools のインストールまたはアップグレード (tar インストーラ) 56

M

- Mac OS X 10.9 42
- Mac OS X Server、Fusion で作成された仮想マシン 42
- Mac OS X ゲスト OS、VMware Tools のインストール
またはアップグレード 58
- MAC アドレス 98
- Mac で Fusion を Dock に保存 8
- Microsoft Windows ゲスト OS、VMware Tools のイ
ンストールまたはアップグレード 55

N

- NAT、ネットワーク接続オプション 29, 96, 97

O

- OpenGL 2.1 93
- OVA (Open Virtualization Appliance) 仮想マシン 54
- OVF (Open Virtualization Format) 仮想マシン 54

P

- Parallels Desktop、Fusion へのインポート 52, 53
- PC、Fusion への移行 48, 50
- PC Migration Agent
インストール 50
パスワードの表示 50
- PC 移行アシスタント、Mac での実行 50

R

- RAM、仮想の設定 89
- Retina ディスプレイ 94
- RSS フィード、URL を開くためのアプリケーションの
設定 28

S

- SATA 52, 100, 120
- SCSI 52
- sftp、URL を開くためのアプリケーションの設定 28
- solid-state drives 15
- SSD 15
- SSH、URL を開くためのアプリケーションの設定 28
- SVGA ドライバ、VMware Tools でインストールされ
る 55

T

- tar インストーラ 56
- Telnet、URL を開くためのアプリケーションの設定 28
- Time Machine、使用するときの仮想マシンの除外 85

U

- URL、開くのに使用するアプリケーションの設定 28
- USB インストール 8
- USB カメラ 110
- USB コントローラ
仮想マシンでの設定 110

- 仮想マシンに追加 111

- 削除 111

USB デバイス

- 自動的に接続 111, 112
- スマート カード リーダの接続 113
- 接続ダイアログが消える 114
- 接続と切断 112, 113
- デフォルトのプラグイン アクション 112
- プラグイン時の接続 111
- ユニティ モードでの接続 21

V

- Virtual PC、Fusion へのインポート 52, 53
- VMDK 103
- VMware Tools
アップグレード 55
アップグレードを通知するアイコン 55, 76
移行する仮想マシンにインストール 51
仮想マシンとホスト OS での時刻の同期 55
仮想マシンとホスト間のテキストのコピー アンド
ペースト 55
仮想マシンとホストの時刻同期に必要 55
グラフィックス パフォーマンスの向上 55
ファイルのドラッグ アンド ドロップに必要 55
マウスのパフォーマンスの向上 55
ユニティ モードの要件 20, 55
- VMware Tools のアップグレード
Linux (tar インストーラ) 56
Mac OS X 58
Microsoft Windows 55
プロセス 129
プロセスの概要 129
- VMware Tools のアンインストール 59
- VMware Tools のインストール
Linux (tar インストーラ) 56
Mac OS X 58
Microsoft Windows 55
修復 58
- VMware Tools のインストールの修復 58
- VMware Tools のモジュールの変更 58
- VNC、仮想マシンへのリモート アクセス 125
- VPN (仮想プライベート ネットワーク) 30
プライベート ネットワーク設定 30

W

- WDDM ドライバ、VMware Tools でインストールさ
れる 55
- Web ページ、URL を開くためのアプリケーションの設
定 28
- Windows
Mac OS との同時実行 63
アクティベーション 45

Windows 簡易インストール
 仮想マシンの作成 36, 38
 使用できる Windows オペレーティングシステム 36
 Windows のアクティベーション 45

X

x86 7

あ

アップデート、Fusion のアップデートを自動的に確認
 するための環境設定の変更 25

アプリケーション

Mac を使用して仮想マシンのファイルを開く 73
 Mac の Dock への格納 32, 74
 Mac へのログイン時に自動的に開く 32
 URL を開くための環境設定の変更 28
 仮想マシンと Mac 間の共有 73, 91
 仮想マシンを使用して Mac のファイルを開く 74
 アプリケーション メニュー
 仮想マシンのアプリケーションを開く 71
 ゲスト アプリケーションの検索 18
 使用 17, 20
 設定 17
 ユニティ モードでの使用 70
 アンインストール、Fusion 129
 暗号化、仮想マシン 117
 アンチウィルス ソフトウェア 39, 84

い

移行

PC への接続 49
 移行後の VMware Tools のインストール 51
 許可するように Mac を設定 48
 その前のユーザー アカウント制御の無効化 49
 物理 PC を Fusion に 48, 50
 一時停止 66
 インストール 8
 インストールをダウンロード 8
 インターフェイス、Fusion、使用とカスタマイズ 15
 インターフェイス、Fusion、使用とカスタマイズ 15
 インポート
 Boot Camp パーティション 52, 54
 仮想マシン設定への影響 52
 仮想マシンを Fusion に 52–54
 サポートされているゲスト OS 52

お

オペレーティング システム

Fusion でサポートされている 12
 Linux 簡易インストールによるインストール 40,
 41
 Linux のインストール 40
 Mac OS X Server のインストール 42

Windows 簡易インストールによるインストール 36,
 38

Windows のインストール 36

仮想マシンの作成 44

起動 64

共有フォルダのサポート 77

再起動 66

シャットダウン 65

ミラー フォルダのサポート 78

リブート 66

か

解除 119

仮想化エンジン、優先の設定 123

仮想ディスク

SSD 15

仮想マシンに移動 103

仮想マシンにコピー 103

既存のものを仮想マシンに追加 103

動作を最適化 15

仮想ハードウェアの仕様 12

仮想ハード ディスクのサイズ変更 101

仮想マシン

AutoProtect スナップショットの削除の防止 84
 AutoProtect での自動スナップショット 83
 Boot Camp パーティションからの作成 16, 45
 Boot Camp パーティションのインポート 52, 54
 Ctrl + Alt + Delete コマンドの送信 67
 Fusion 開始時に常に実行するように設定 15
 Mac キーボードの使用 75
 Mac との間でのファイルのカットアンドペースト 72
 Mac との間でのファイルのドラッグアンドドロップ 71
 Mac とのファイルの移動と共有 71
 Mac とのファイルの移動とコピー 71
 Mac とのファイルの共有 77
 Mac 入力デバイスの使用 75
 Microsoft Virtual PC からのインポート 52, 53
 OVF または OVA 仮想マシンからインポート 54
 Parallels Desktop からのインポート 52, 53
 VMware vCloud Air へのアップロード 47
 VNC によるリモート アクセス 125
 アプリケーション、Mac へのログイン時に自
 動的に開く 32
 アプリケーション メニューからアプリケーションを
 開く 71
 アンインストール 66, 67
 以前の状態のリストア 82
 オペレーティング システムとして Mac OS X Server
 で作成 42
 仮想プロセッサ 88
 仮想プロセッサ数の設定 88

- 仮想マシンのプロセスの強制終了 130
- [仮想マシンのライブラリ] ウィンドウでの並べ替え 15
- [仮想マシンのライブラリ] ウィンドウに追加 15
 - 仮想メモリ、量の設定 89
- 管理 87
- 既存のものを開く 63
- 起動 64
- 起動デバイスの設定 116
- 共有フォルダの使用 77
- 共有フォルダの有効化 78
- クローン 59, 60
 - 構成
 - CD/DVD ドライブ 104
 - USB コントローラ 110
 - サウンド カード 109
 - フロッピー デバイス 107
- コピー 85
- 情報の追加 15
- 再起動 66
- 最近使用したものを開く 63
 - 削除
 - CD/DVD ドライブ 105
 - USB コントローラ 111
 - [仮想マシンのライブラリ] ウィンドウから 15
 - 共有フォルダ 79
 - サウンド アダプタ 110
 - ハード ディスク 104
 - ミラー フォルダ 79
- 作成 35
- サスペンド 65
- シャットダウン 65
- スナップショットに戻す 82
- スマート カード リーダの接続 113
 - 接続と設定
 - CD/DVD ドライブ 105
 - USB デバイス 111-113
 - サウンド アダプタ 109
 - フロッピー デバイス 107
- 説明 11
- 選択 64
- 操作 63
 - 追加
 - CD/DVD ドライブ 105
 - USB コントローラ 111
 - 共有フォルダ 79
 - サウンド アダプタ 109
 - シリアル ポート 115
 - パラレル ポート 114
 - フロッピー デバイス 107
 - ミラー フォルダ 79
- ディスプレイのサイズ変更 31
- 特殊なキー コマンドの送信 67, 68
- 閉じるときの環境設定 25
- 名前の変更 15
- ネットワーク アダプタの削除 99
- ネットワーク アダプタの接続と構成 97
- ネットワーク アダプタの追加 98
- ハード電源コマンドとソフト電源コマンドの切り替え 69
- ハイパーバイザー アプリケーションの実行 90
- パッケージに格納されるファイル 32, 33
- パフォーマンス プロファイリング アプリケーション 90
- パワーオフ 65, 69
- パワーオン 64
- パワーオンされている仮想マシン間の切り替え 75
- 開く 64, 65
- ファイルの場所の確認 15
- 物理 PC からの変換 48, 50
- プリンタの有効化 95
- 保護 81
- ホスト CD/DVD と CD または DVD ISO イメージ間の CD/DVD 接続の切り替え 105
- ホストのバッテリー情報の表示 123
- マウスとキーボードの入力 76
- マウスとキーボードの入力の解除 76
- 有効期限の日付 117
- ユニティ モードでアプリケーションを開く 70
- リカバリ パーティションから 42
- リセット 66
- リブート 66
- リモート ホストへのアップロード 46
- リモート ホストへのダウンロード 47
- レジューム 65
- 仮想マシン、自動起動 88
- 仮想マシン ウィンドウ、図 15
- 仮想マシンでのパワーオン 64
- 仮想マシンと Mac 間でのファイルの共有 77
- 仮想マシンと Mac 間のファイルのカット アンド ペースト 72
- 仮想マシンと Mac 間のファイルのコピー アンド ペースト 72
- 仮想マシンとホスト OS での時刻の同期 55
- 仮想マシンとホスト間のテキストのコピー アンド ペースト、VMware Tools のサポート 55
- 仮想マシンのアップロード 46, 47
- 仮想マシンのアンインストール 66, 67
- 仮想マシンの起動 64
- 仮想マシンの起動デバイスの設定 116
- 仮想マシンのコピー 85
- 仮想マシンの再起動 66
- 仮想マシンの削除 66, 67

- 仮想マシンの作成 35, 66
- 仮想マシンのサスペンド 65
- 仮想マシンのシャットダウン 65
- 仮想マシンのダウンロード 47
- 仮想マシンのハードウェア バージョン 120
- 仮想マシンのパワーオフ 65
- 仮想マシンのリブート 66
- 仮想マシンのレジューム
 - キャンセル 65
 - フル スクリーン ミニバーから 23
- 仮想マシン ライブラリ ウィンドウ
 - 仮想マシンの削除 15
 - 仮想マシンの追加 15
 - 仮想マシンの並べ替え 15
 - 仮想マシン ファイルの場所の確認 15
 - 使用 15
 - ホーム パネル 16
- 仮想マシンを暗号化および制限するためのパスワード 117
- カメラ 110
- 環境設定
 - Fusion、設定 25
 - Fusion ショートカットの設定 28
 - VMware に送信される匿名の使用統計 25
 - 仮想マシンを閉じる 25
 - キー マッピングの設定 26
 - 言語固有のキー マッピングの設定 26
 - 自動的なソフトウェア アップデートの確認 25
 - デフォルト アプリケーション 28
 - マウス ショートカットの設定 27
- 管理サーバ 117
- き**
 - キーボード
 - Mac コマンドと PC コマンドの対応 75
 - 仮想マシンへ入力 76
 - 仮想マシンへの入力の解除 76
 - [仮想マシン] メニューの [キーの送信] を使用した特殊なキー コマンドの送信 67
 - 環境設定でのキー マッピングの設定 26
 - キーボードとマウスのプロファイルの選択 26, 92
 - ショートカット、ユニティ モードでの使用 72
 - ファンクション キー 68, 75
 - キーボード ショートカット
 - 仮想マシンではなく Mac へのグローバル Mac キーボード ショートカットの送信 27
 - ユニティ モードでの使用 20
 - キーボードとマウス ショートカットのプロファイル 92
 - キー マッピング 26
 - 起動 8
 - 共有フォルダ
 - Linux ゲストでの表示 73
 - Time Machine バックアップ 86

- Windows ゲストでの表示 72
- 削除 79
- サポートするゲスト OS 77
- 使用 77
- 追加 79
- ミラー フォルダの削除 79
- ミラー フォルダの追加 79
- 有効化 78

く

- クローン
 - 仮想マシン 59, 60
 - 作成 59, 60
 - フル 60
 - リンク 59

け

- ゲスト OS 15
- ゲストの隔離 122
- 言語固有のキー マッピング 26

こ

- コマンド + Tab、ユニティ モード表示中の仮想マシンアプリケーションの切り替えに使用 20

さ

- サウンド アダプタ
 - 仮想マシンでの接続と設定 109
 - 仮想マシンでの追加 109
 - 削除 110
 - ステータス バーを使用した接続と切断 109
- サウンド カード、仮想マシンでの設定 109
- 削除 17

し

- 時刻、仮想マシンとホスト OS での同期 55
- 時刻同期 122
- システム トレイ、ユニティ モードでの表示 21
- システム要件、Fusion 8
- 自動アップデート 127
- 詳細設定
 - 管理 122
 - 起動デバイス 116
- ショートカット
 - Fusion の設定 28
 - マウスの設定 27
- シリアル ポート、追加 115
- シングル ウィンドウ モード
 - 切り替え 18, 21
 - 終了 19
 - 使用 18
 - フル スクリーン モードとの切り替え 19, 23

す

ステータス バー、表示と隠す 31
 スナップショット
 AutoProtect での自動作成 83
 削除 82
 削除の防止 84
 使用 81
 とる 82
 表示 81
 リストア 82
 スナップショットに戻す 82
 スナップショットの表示 81
 スマート カード リーダ 113

せ

制限タイプ 117
 制限付き仮想マシン、有効期限 117
 制限パスワード 117
 接続、PC の移行に使用 49
 設定
 全般的な環境設定 25
 デバッグ チェック 25
 全般的なシステム設定 87

た

対象となる読者 5
 タスクバー、ユニティ モードでの表示 21

ち

チュートリアル、オンライン ビデオ 9

つ

追加 17
 通知領域、ユニティ モードでの表示 21
 ツールバー
 カスタマイズ 31
 表示と隠す 31

て

ディクテーション 30
 ディクテーション、有効化 30
 ディスクリート グラフィックスの管理 95
 ディスプレイ
 解像度、サイズ変更時の自動的な調整 31
 カスタマイズ 31
 サイズ変更 31
 データの損失からの仮想マシンの保護 81
 デバッグ チェック 25
 電源コマンド
 ハードおよびソフト 69
 ハードとソフトの切り替え 69

と

統計、匿名で VMware に送信 25
 特殊なキー コマンド、仮想マシンへの送信 67, 68
 トラブルシューティング
 仮想マシン 124
 仮想マシンのプロセスの強制終了 130
 設定 124
 取外し可能デバイス 96

に

ニュースグループ、URL を開くためのアプリケーションの設定 28

ね

ネットワーク アダプタ
 削除 99
 接続と設定 97
 追加 98
 ネットワーク アドレス変換 29, 96, 97
 ネットワーク接続
 Mac のみで使用可能なプライベート ネットワーク 97
 NAT 29, 96, 97
 構成 29, 96
 物理 PC の移行に使用可能 49
 ブリッジ 96, 97
 ホストオンリー 30, 96, 97
 ホストオンリー、またはプライベート ネットワーク 29

は

パーティション、仮想ハード ディスクでのサイズ変更 102
 ハードウェア、仮想の仕様 12
 ハードウェア バージョン、優先の設定 121
 ハードおよびソフト電源コマンド 69
 ハード ディスク
 新しい仮想ディスクの作成 100
 仮想マシンからの削除 104
 既存のものを仮想マシンに追加 103
 クリーンアップとデフラグ 102
 ゲスト OS のパーティションのサイズ変更 102
 サイズ変更 101
 ハード ディスク バッファリング 124
 はじめに 7
 パスワード 119
 バックアップ
 Time Machine での仮想マシンの除外 85
 仮想マシンのコピー 85
 パッケージ、格納される仮想マシン ファイル 32, 33
 バッテリー、仮想マシンのステータスの表示 123
 パフォーマンス カウンタ 90
 パラレル ポート、追加 114
 バンドル、格納される仮想マシン ファイル 32

ひ

- ビデオ チュートリアル 9
- 評価期間、完全ライセンス版へのアップグレード 128
- 表示
 - マルチ 24
 - ユニティ モードでのマルチ ディスプレイ 24
- 開く
 - Finder から 64
 - 既存の仮想マシン 63
 - パワーオンしないで仮想マシンを 65

ふ

- ファイアウォール、SMB に対する受信接続の許可 48
- ファイル
 - Mac アプリケーションで開く 73
 - Mac のファイルを仮想マシンのアプリケーションで開く 74
- ファイル共有、物理 PC の移行に必要 48
- ファイル転送、URL を開くためのアプリケーションの設定 28
- ファイルの移動とコピー、仮想マシンと Mac 間 71
- ファイルのドラッグアンドドロップ
 - 仮想マシンと Mac 間 71
 - 必要な VMware Tools 55
- ファンクションキー 68, 75
- 物理 PC、Fusion への移行 48, 50
- 物理 PC の仮想マシンへの変換 48
- 物理 PC を仮想マシンに移行するために必要なパスワード 50
- ブリッジ、ネットワーク接続オプション 97
- ブリッジ ネットワーク接続オプション 96
- プリンタ、Mac のデフォルト プリンタと一致 95
- プリンタの有効化 95
- フル スクリーン ミニバーの表示 23
- フル スクリーン モード
 - 切り替え 21, 22
 - 終了 18, 23
 - 使用 19, 22
 - フル スクリーン ミニバーの設定 23
 - マルチ ディスプレイ間 24
- プロセッサ
 - 仮想マシンに対する数の設定 88
 - ハイパーバイザー アプリケーションの有効化 90
- フロッピー ディスク イメージの作成 108
- フロッピー デバイス
 - イメージの作成 108
 - 仮想マシンでの接続と設定 107
 - 仮想マシンに追加 107
- フロッピー ドライブ 93, 108

ほ

- ホーム パネル 16

- ホストオンリー ネットワーク接続オプション 29, 30, 96, 97
- ホットキー 94

ま

- マウス
 - Apple Mighty Mouse での右クリックの有効化 75
 - VMware Tools でのパフォーマンスの向上 55
 - 仮想マシンへ入力 76
 - 仮想マシンへの入力の解除 76
 - キーボードとマウスのプロファイルの選択 26, 92
 - ゲーム用の最適化 25
 - ショートカットの環境設定の変更 27
- マルチ ディスプレイ
 - 使用 24
 - ユニティ モード 24

み

- ミラー フォルダ
 - サポートするゲスト OS 78
 - 追加または削除 79

む

- 無差別モード、ESXi vNIC 97

め

- メール、URL を開くためのアプリケーションの設定 28
- メモリ、仮想マシンに対する設定 88, 89

も

- モード
 - アプリケーションまたは仮想マシンの操作に使用 18
 - シングル ウィンドウ 18, 21
 - シングル ウィンドウからの切り替え 19
 - フル スクリーン 21, 22, 24
 - フル スクリーンからの切り替え 23
 - ユニティ 20

ゆ

- 有効期限 117
- 有効期限の日付 117
- 優先する仮想マシン、Fusion 開始時に常に実行するよう設定 15
- ユニティ モード
 - Exposé 機能の使用 20
 - Mac キーボード ショートカットの使用 20, 72
 - USB デバイスの接続 21
 - Windows タスクバーとシステム トレイの表示 21
 - アプリケーション メニューの使用 18
 - 仮想マシンのアプリケーションを開く 70
 - 切り替え 20
 - ゲスト OS への応答 20
 - コマンド + Tab の使用 20

使用 20

シングル ウィンドウ モードとの切り替え 19

パワーオンされている仮想マシン間の切り替え 75

必要な VMware Tools 55

フル スクリーン モードとの切り替え 23

マルチ ディスプレイの使用 24

ユニティを待っていますウィンドウ 20

ら

ライセンス 128

り

リカバリ パーティション、仮想マシン 42

リモート仮想マシン、状態の表示 93

リモート サーバ、仮想マシンの作成 43

リモート セッション、URL を開くためのアプリケーションの設定 28

れ

レジューム コマンドのキャンセル 65